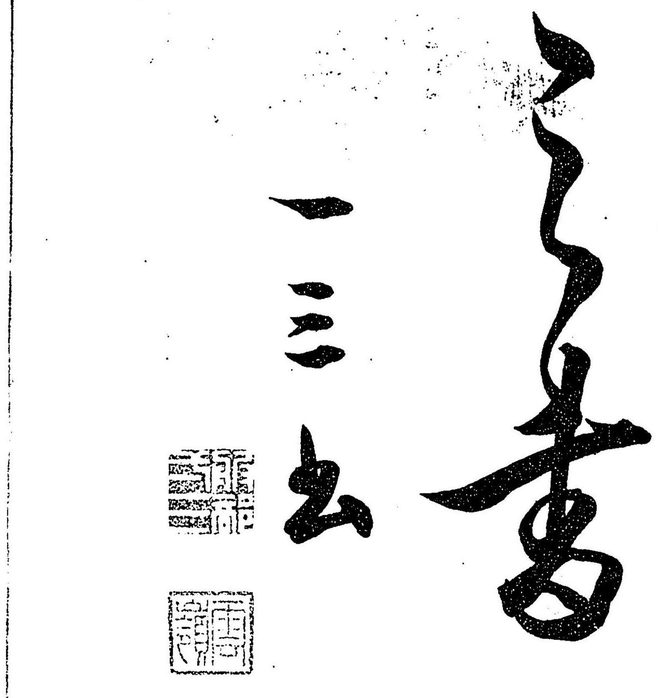
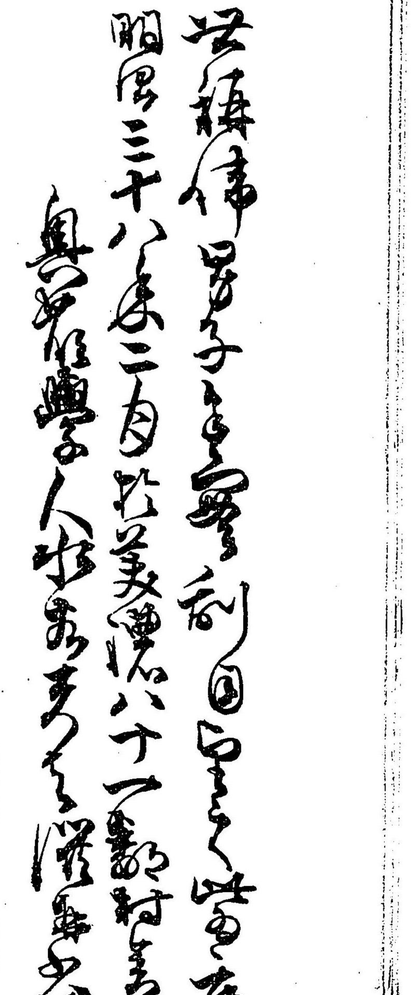
明治
'88 5 2
内交



序



神戸港序

人口三十萬を有し市費壹百萬圓を費し一ヶ年間に一千一百萬噸の船舶を呑吐して貿易總額貳億六千萬圓に及ぶ所の神戸港を記述する者は本著「神戸港」あり、而して此一大要港は如何なる人に依り如何なる物を用ひ又如何なる方法に依りて經營せらるゝかを說明するも亦本著「神戸港」なり、神戸が攝海の波打際に在る一寒村より今日世界公道の一要港と爲るに至る迄には幾多の變遷と隆替あり、要するに長足の進歩を以て今日の神戸港と爲りたる者あり、然るに過去三十年間の事物と其變遷は今や日々市民の記憶を去りて史家の筆を待たざる可らず、況んや此長足の進歩と活動とは日々其光輝ある數頁を神戸の史上に加へつゝあるをや、是れ本著「神戸港」が神戸市民たる者の現在及將來に於て最も必要を感ずる所以ならずや、本著は固より此一要港を抽象的に

記述し又其内容の一斑を說明する者に過ぎざるなり、然れども讀者は之れに依りて先づ詳密に神戸港を知り、又神戸港を記臆し、而して更に神戸港の世界的位置を知り關係を研め、市政を經營する者も市民ことして行動する者も共に世界的眼光と思想とを以て之れが基礎とおし、大は衞生、敎育、交通より小は集會、交際、風俗等に至るまで世界的おらしめんことを期すべきなり、是れ神戸港は地勢上より世界公道の要樞に當り且我帝國の關門なればなり、予は信ず本書の著者田中君が孜々營々として本著に從事せられたる最後の目的も蓋し玆に外ならざるべきを、是れ予が拙文を顧みず喜んで本著に序する所以なり

明治乙巳春日　於西須磨僑居　鳴瀧幸恭誌

自序

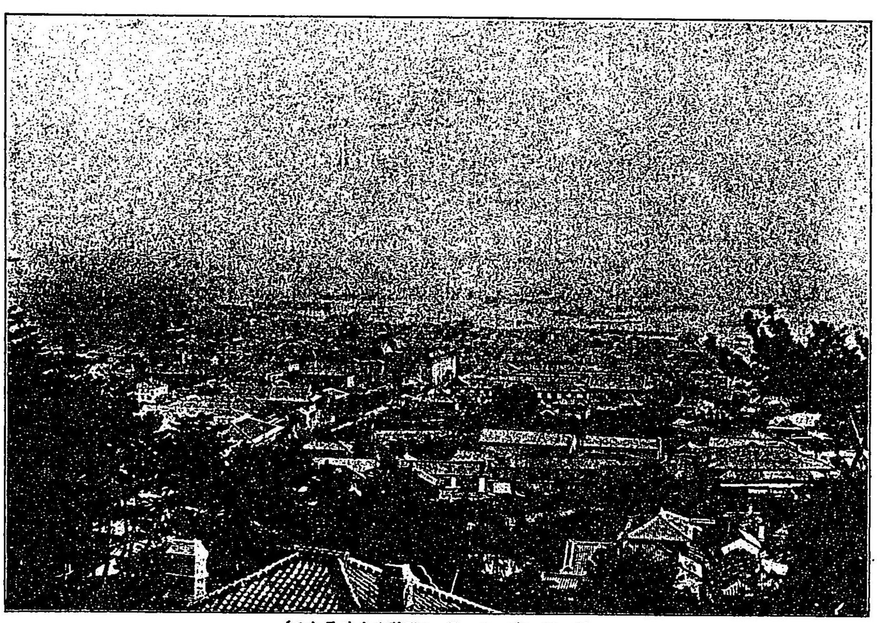
二十世紀物質的の文明は、事物應用法研究の時代にして「吾人は如何にせば最も少なき時間を以て、最も多くの事を爲し得べきか」とは是今日世界の人類が、刻々に競ふて研究を重ねつゝあるところの最終の問題なり、所謂文明の利器おるもの、又此範圍を外にして他に在る可らず、然り科學の應用は愈かに此目的に向つて、多大の貢獻をおしつゝあるも煩雜おる社會の組織を知り、之が進歩の狀勢を審かにし、進んで之れが原動力たる諸機關の內容に就き、會得通曉せんが爲には、一に之れを歷史統計記要の書に待たざる可らず、此故に歐米諸國に於ては、其一都市一地方毎に、是等の事實を網羅せるところの詳細おる記錄、年々に刊行せられ、實務上の參考書として、一般の享受せる利便は洵に尠少おらざるを見る。

我神戸港の如きは、一國に於ける外國貿易額の過半を占め、本邦中央の一大關門こして、來往の客日に千を以て算し、集散の貨物萬を以て數へ、商工業其他社會的諸機關の進歩發達、實に測知す可らざるものあり、斯の如き土地柄に在つては、此種の著書の必要を感ずることも、更に一層大あるに拘らず、我出版界の缺陷は、未だ今日迄此要求の一部分をだに充たすべき何物をも與へざりき、是れ予が神戸市民の一人こして深く恨事こあし、斷然自から起つて、自他の爲めに此篇を草するに至りたる所以なり。

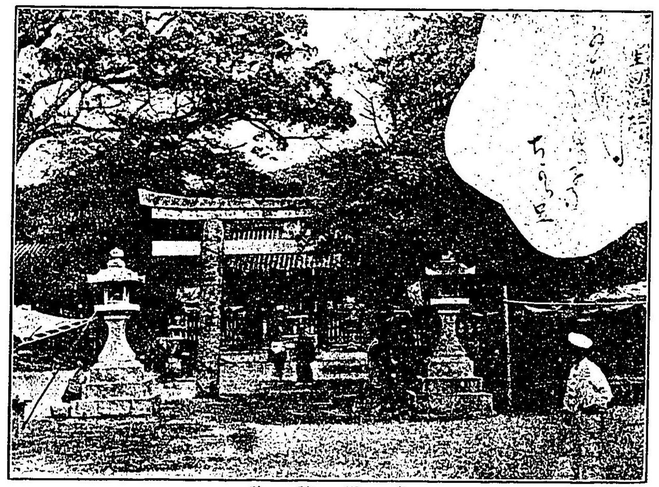
世人動もすれば、事の必要上より自己在住の土地、若くは關係ある土地の或る卑近簡易なる事物を知らんが爲にも、往々傍人を煩はし、傍人又第三者を煩はして、尚其要領を得ず、空しく一瑣事の爲め數人を併せて貴重ある時間の幾十分を消費することあるは、吾人の屢々實見するこころあり、之れを前の所謂現世紀の研究問題たる「時間こ勞力の節約」の上より見れば、固より背反徒勞の行爲こして、排斥せざる可らざるや論あしこ雖も、此場合に於て若此質義に答へ、疑惑を解決すべき適當ある記錄のあるあらば、吾人の誰もが最初より何等の手數こ勞苦こを要せず從つて毫も他を煩はすべき理由あからん、本書の如きも幸ひに適宜應用の途を得て、日常事に觸れ物に當りて起るべき、是等大小の疑問に答へ、神戸に於ける一の文明的機關こありて世道の上に幾分の裨益するこころあらば、著者の勞は卽ち酬ひられたるあり、今や脫稿上梓に臨み聊所信を述べて序文に代ふこ云爾。

明治三十八年三月

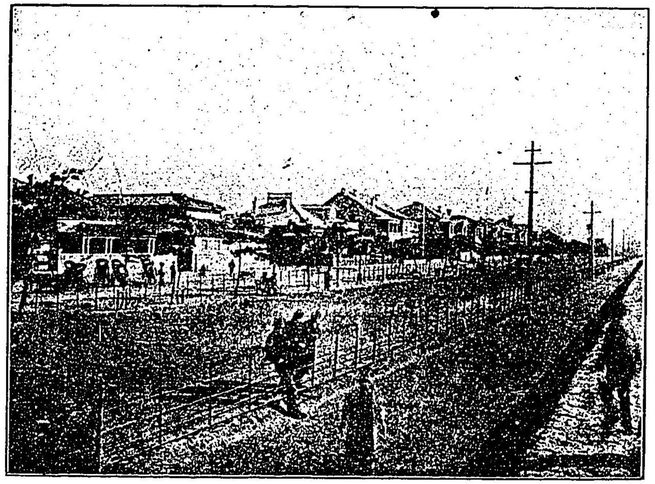
編者識



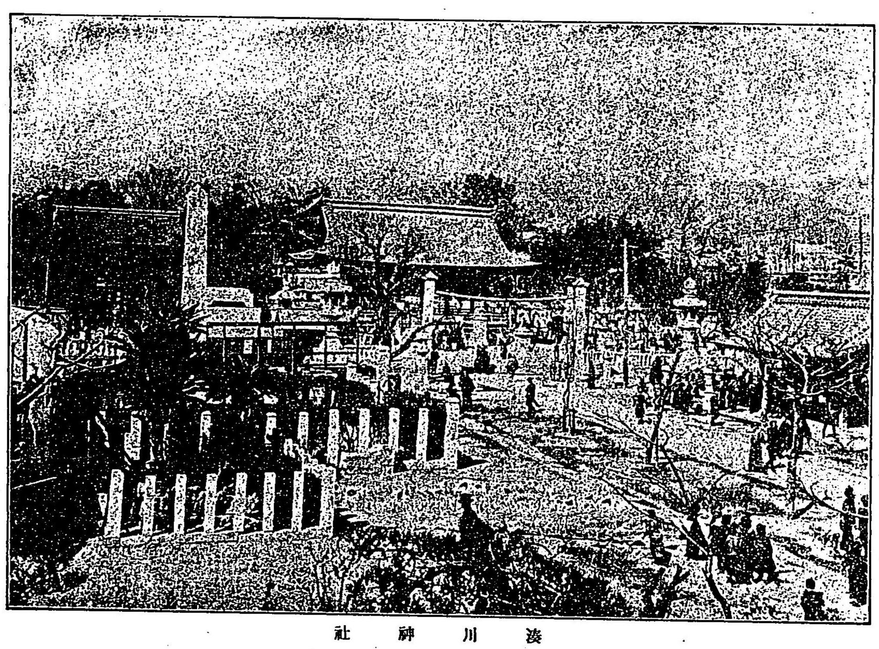
神戸市全景（諏訪山より見たる）



生田神社



元居留地海岸の景

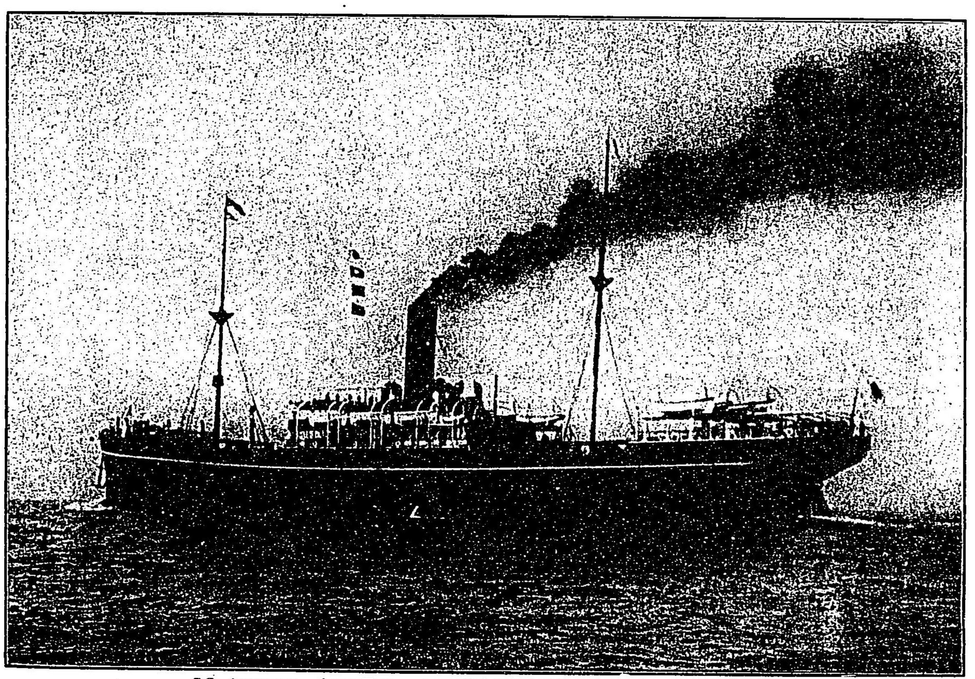


湊川神社

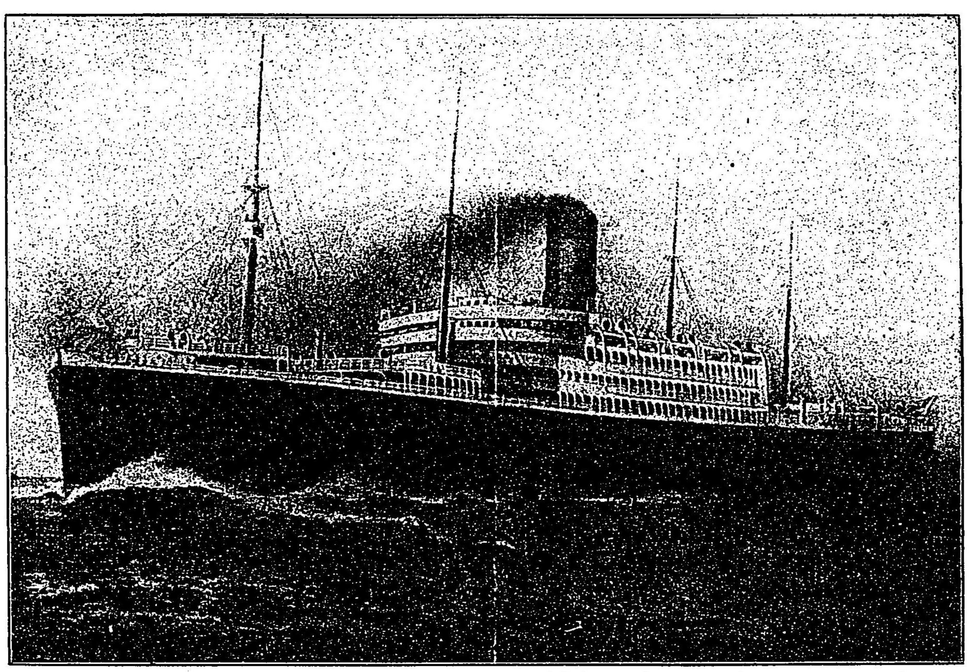
新陸軍

鴨江遊園實景圖

架桥引桥



S.S. AKI-MARU. 6,444 TON. 日本郵船會社汽船安藝丸(六千四百四十六噸)



（六十九頁參照） S.S. MINNESOTA, 21,000 TON. 米國大北汽船會社東洋航路ミネソタ號（二萬一千噸）

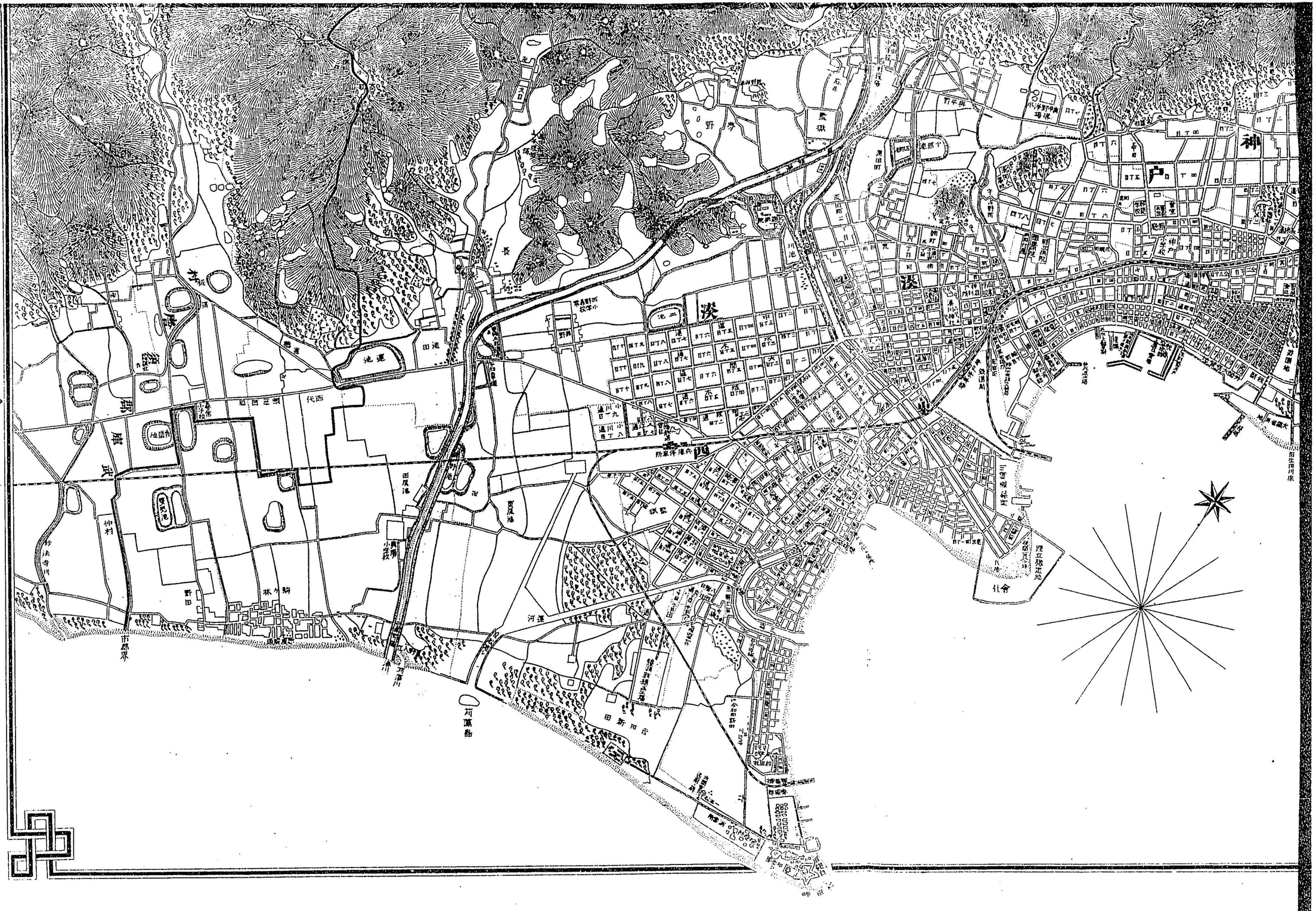
神戸市全図

神戸市全図

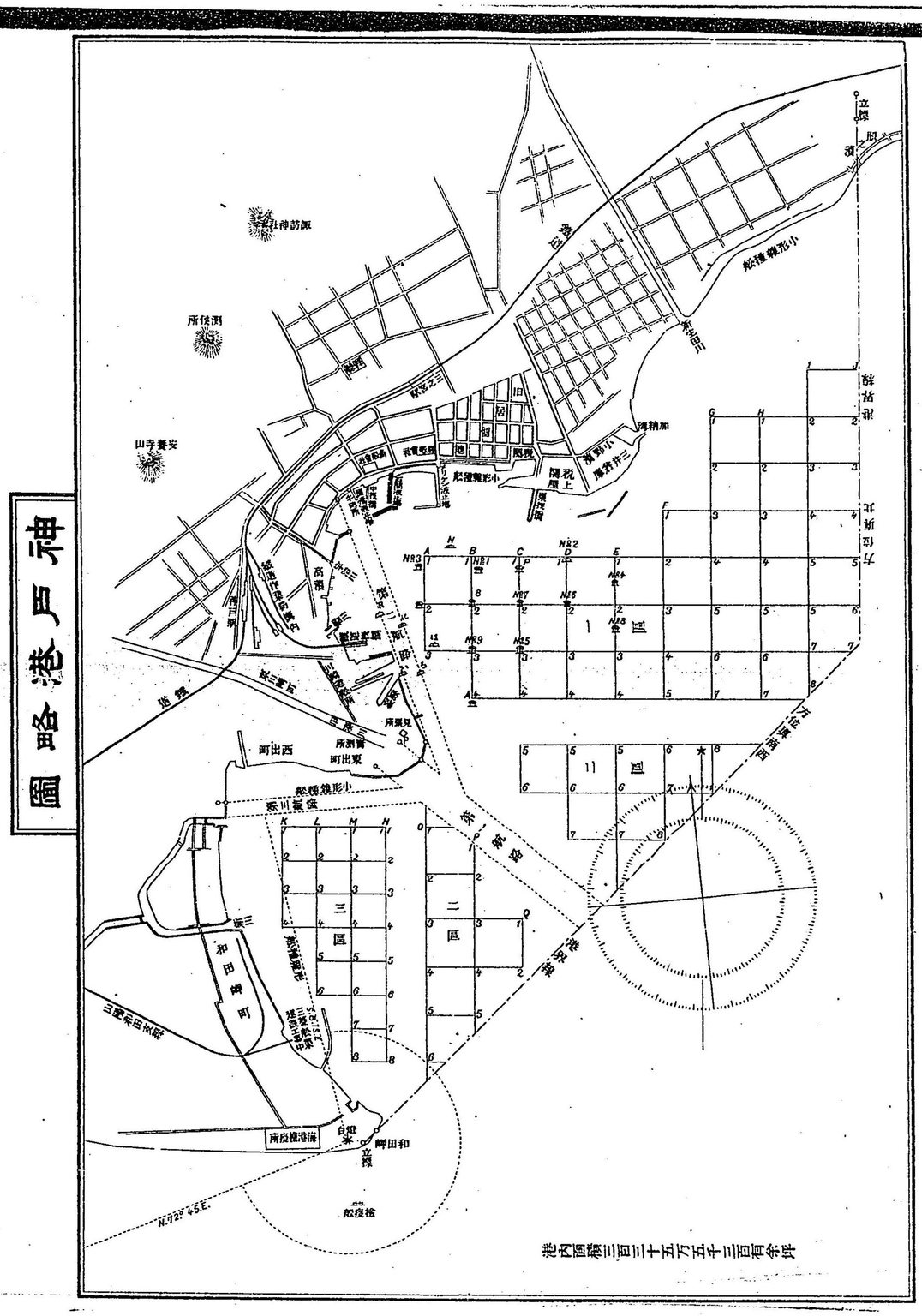
凡例

市郡境界	停車場
町及大字堺	燈臺
外國人居留地境	神社
鉄道線路	寺院
立木森林	名所旧跡
竹藪	古戦場
地均豫定地	墓地
水道貯水地	城趾
浮橋舩渡	人家
橋梁	

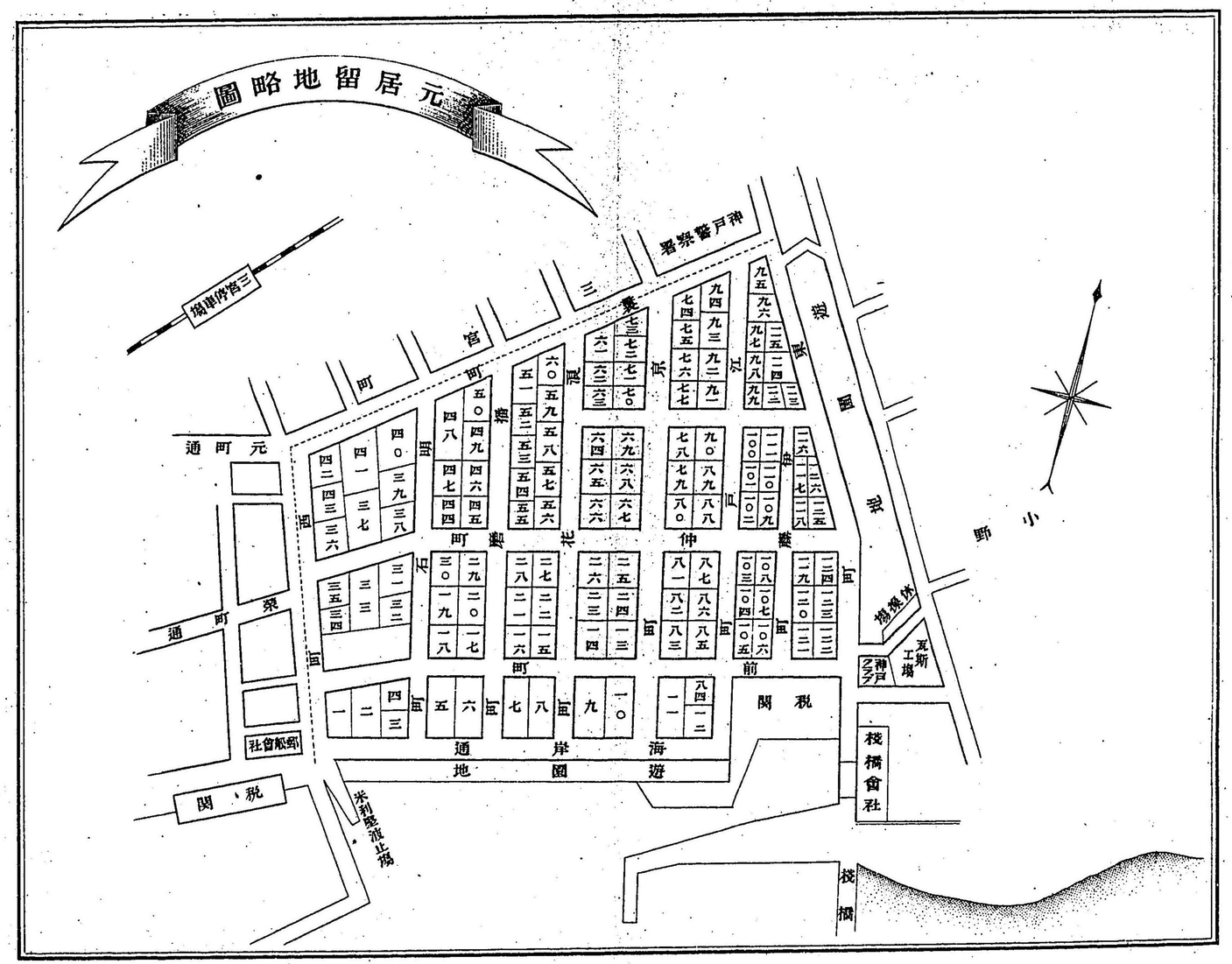
印刷所 神戸彩色印刷株式會社


神戸
淡
池
運
田
代西
村
野
墓
川
河
西
社会
川蒲島
田新地古

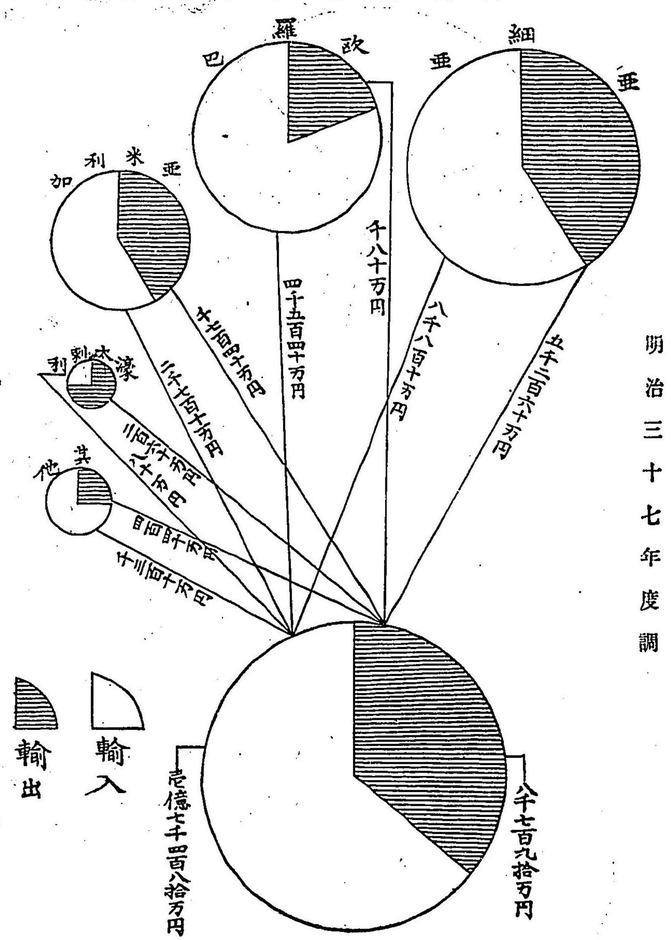
神戸港略圖


一區
二區
三區
十一區
神戸驛
旧居留地
税関上屋
海精加
山手養安
所役測
神戸港
兵庫運河
和田岬
岬田和
檢疫錨地
港内回積三百三十五万五千三百有余坪

元居留地略圖


三宮停車場
神戸警察署
三
宮
町
元
通
町
海
岸
通
地
税
関
米利堅波止場
小
野
浜
居留地
北
仲
前
栈橋
栈橋會社
税関
郵便局
神戸クラブ
ゴルフ
ゴルフ場
東
西
南
北

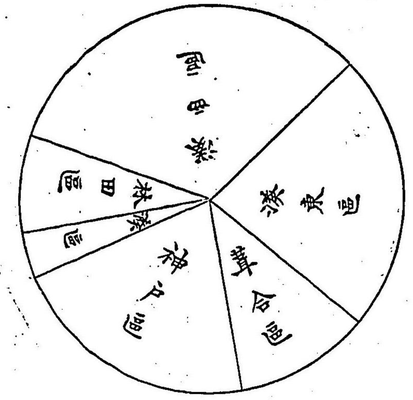
外國貿易比較一覽



明治三十七年度調

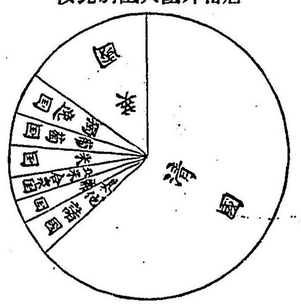
明治三十七年末現在調

現住戸數割合

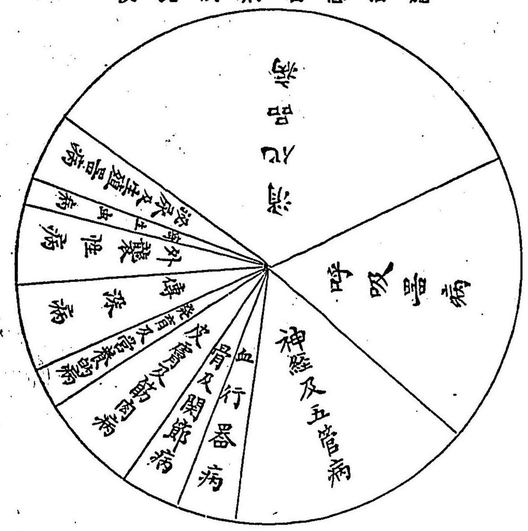


現住人口割合

居留外國人國別比較



施治患者病別比較



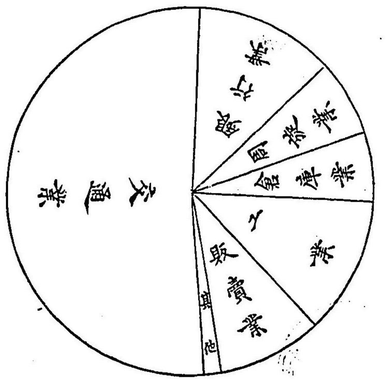
種痘感否割合

凡例

一、神戸港なる題名は、神戸が港灣に依て發達をなし港灣あるが故に始めて神戸の價値あり、又神戸市は日本國兵庫縣下の一市街に過ぎざるも、神戸港は日本の要港、東洋貿易の市場、世界交通の公道たるが故に、本書は其大あるものを描くべく、神戸港を以て直ちに其題目とは爲したるなり、而して本書の内容を一言に表示すべく、是れ以外適當ある名稱又實に是れ無きあり、

一、本書は總ての人が日常座右に備へて切實ある利便を得、必要缺く可らざるものたらしめんが爲め、毎事可成專門的に記載したるがゆへ、是れが關係者に取りては實際の寶典たるところも、局外者に在りては寧ろ乾燥無味の記事たるの觀あり、要するに本書は全篇通讀的のものに非ずして、自己の知らんと欲する一事一物に就き、字書的に索

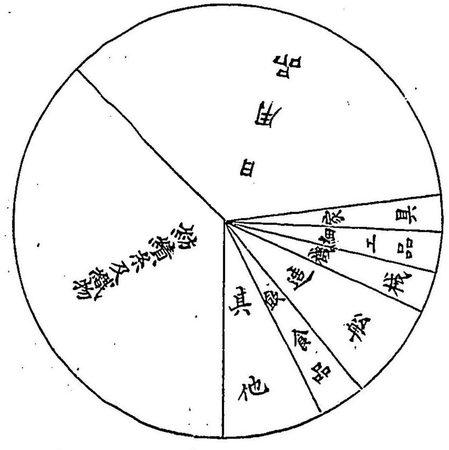
内國會社營業別資本金比較



會社種類別比較

内國		國外	
株式	合資	合名	合資

工産物原價割合



引査明すべき性質のものたるを記憶せざる可らず、

一、本書の材料は沿革史、外一部少數のものは之を參考書に採り、其他は汎べて明治三十七年九月以降三十八年二月に渉る六ヶ月間の現在調査に據れるものなるも、人事變遷の速かなる、此間に於てさへ屢々訂正を加ふるの必要起り、從つて改むれば從つて移動を來し、部門に依りては其稿を更むること啻に一再に止まらざるも、尚且本書發刊當時に於ては已に多少の變化を免れざるものあるべし、依て此の如き懸念あるものに對しては、特に其項目の下に調査年月を記して參照に便じたり、又其取調の範圍に關しては、最初各項共略ぼ同一程度に迄達せしめん考へを以て着手したるも、愈其事に當るや、事實は到底之が可言不可行の事たるを發見せしめ、已を得ず當初の冀望を拋棄して只調べ得らるゝ丈詳細に調べて已むの方針を執りたれば、其結果は自然精密に過ぎて冗漫に陷るものと、簡單に失して其要を盡さゞるものとを生じ、尚一事項の中にても調査程度の均一せざるもの勘なからず、是畢竟は著者不能の致すところに因ると雖も、又宜しく寛假を乞ふ、

一、諸統計の部に於て三十七年の分に限り、特に各月の內譯を示したるは、日露戰局の變化發展が其都度如何ある割合を以て各種事業の上に、影響を迨ぼしたるやを知らしめんとの微意に因る、

一、記事の體裁が區々にして一定せざるは、本書の如きものにありて寔に已むを得ざる次第なるを告白し置かざる可らず、尚行文に於ても本書編纂の主要條件が、事實を紹介するに在りて、文章字句の上に重きを措かざるが故、篇中字句の不當、用語の穩かならざる節、頗る多かるべきを信ず、讀者幸ひに諒せよ、

一、本書編纂に就ては、兵庫縣廳、神戸稅關、神戸地方裁判所、神戸市役所、鐵道作業局、神戸停車場、神戸郵便局、兵庫縣港務部、神戸海務署、神戸稅務署等の好意と神戸商業會議所、市内諸會社銀行、外國商館、實業諸團體及書中記載の各當業者諸君、斯道者各位の懇篤なる示敎に賴りて成れるもの多く、又出版に關しては畏友熊谷兼次郎君に負ふところ大なり、茲に特筆して謹而以上各位に謝す

神戸港目次

第一章

第一節　神戸沿革史　一
第二節　神戸市の地勢面積及戸口　一九
第三節　神戸及兵庫港灣　二三

第二章

第四節　神戸港輸出入品價額累年對照表　二六
第五節　神戸港輸出入金銀價額統計表　二七
第六節　神戸港貿易額と本邦貿易額との比較表　二七
第七節　神戸横濱兩港貿易品價額比較表　二八
第八節　神戸港輸出入品價額國別十年間一覽表　二九
第九節　拾萬圓以上の神戸港輸出入品目と其の價額　三二
第十節　神戸港重要輸出品中九品生産地割合別　三七
第十一節　外國貿易船神戸港出入統計表　三九
第十二節　外國貿易船神戸港出入國籍別統計表　四〇
第十三節　内航船舶神戸港出入統計表　四三
第十四節　神戸港に船籍を有する汽船及帆船　四四
第十五節　神戸港に於ける内外汽船會社と其航路　五二
第十六節　港内小蒸汽船調　六九
第十七節　神戸、三宮、兵庫三驛乘降客數及貨物集散噸數表　七一
第十八節　神戸港航海旅客出入表　七二
第十九節　郵便貯金一覽表　七三
第二十節　郵便爲替一覽表　七四
第二十一節　郵便電信發着表　七五
第二十二節　電話度數表　七六

第三章

第二十三節　神戸商業會議所歷史と其議員　七七
第二十四節　銀行及諸會社調　八一

第二十五節　元居留地商館及其他の外國商館
第二十六節　神戸の貿業組合案内
第二十七節　倉庫業
第二十八節　保險業
第二十九節　船渠造船所及船大工
第三十節　建築請負業者
第三十一節　鐵工業
第三十二節　シップ、ブローカー
第三十三節　海陸運送業者
第三十四節　ステベドーア
第三十五節　艀船所有者及其艘數
第三十六節　各種仲仕と荷造專業者
第三十七節　船具商
第三十八節　內海水先區水先案內業者
第三十九節　潛水業

第四章　官廳公衙及職員

第四十節　官公私立學校及幼稚園
第四十一節　公會及倶樂部
第四十二節　慈善團體及其現況
第四十三節

第五章　湊川改修と敏馬の海陸聯絡工事
第四十四節　市內に於ける大建築物
第四十五節　市の水道現況
第四十六節　船舶用水供給一覽表
第四十七節　市の消防組織
第四十八節　市民負擔の市稅統計表
第四十九節　歷代の兵庫縣知事及神戸市長
第五十節　初期以來の貴衆兩院議員
第五十一節　神戸市々會議員
第五十二節　神戸市選出縣會議員
第五十三節　市內拾萬圓以上資產家
第五十四節　神戸市本籍入出生死亡統計
第五十五節　八種傳染病統計
第五十六節　寒暖溫度統計
第五十七節
第五十八節　外國人國籍別職業調
第五十九節　年々の犯罪種類と其件數
第六十節　神戸監獄在囚統計

第六章　名勝古跡案內
第六十一節　神社佛閣及耶蘇敎會
第六十二節　書家と畫家
第六十三節　和歌、詩、謠曲、俳偕者
第六十四節　茶の湯と生花
第六十五節　園碁と將棊
第六十六節　辯護士、公證人、執達吏
第六十七節　病院
第六十八節　醫師、藥劑師
第六十九節　看護婦會、助產婦
第七十節　ホテル及旅館
第七十一節　料理店
第七十二節　牛乳商と牛鳥肉商
第七十三節　食料品商
第七十四節　西洋家具商と時計商
第七十五節　洋服商と靴商
第七十六節　寫眞師
第七十七節　銃砲商と自轉車商
第七十八節　通譯案內業者
第七十九節　劇場、寄席
第八十節　遊技場
第八十一節

第七章　日露開戰以來神戸市の各種奉公事業
第八十二節　水雷貢獻大日本讃國幼年會
第八十三節　壹萬圓以上軍債應募者
第八十四節　百圓以上軍資恤兵獻納者
第八十五節　大日本武德會
第八十六節　神戸弓術武會
第八十七節　神戸小銃射的會
第八十八節　神戸放鳥射擬會
第八十九節　擊劍家及柔術家
第九十節

目次

附錄

神戸に關する古人の吟詠　一
神戸港規程　一二
開港々則　一三
逓信省告示第二百三十一號　一七
開港々則施行細則　一七
港務局所屬繫船浮標使用料規程　二〇
内外國貨幣及度量衡換算表　二〇
海路運程表　二五
自神戸至内外各港汽船運賃表　二七
自神戸至各府縣道廳陸路里程表　二七
汽車哩程及賃金表　二八
神戸驛發汽車時間表　三一

神戸港目次終

神戸港

田中鎭彦著

第一章

第一節　神戸沿革史

吾人は何れの時代に在つても土地發達の最大原因は交通の利便にあらざるを見る、是嘗に幾多歷史の證明に據つて然るのみならず又容易に常識の上より打算し得べき必至の數理なりとす、神戸の地たる後ろに蜿蜒たる山を負ひ海岸線に沿ひて東西に開け前に碧瑠璃の如き無雙の港灣を擁して大艦巨舶を容るゝに足る、之れに加ふるに土地高燥氣候温和寔に是四通八達の要區にして而も保生養命の適地なり、其今日東洋有數の要港として貨物の集散本邦第一に居るの盛を致す由緣蓋し偶然にあらずと謂ふべし、然れども往昔は和田泊等の稱呼ありて今の和田岬は推古帝曾て此處に御幣ひし給ひしより和田の御崎と呼び、東西尻池村一帶の地は古しへの眞野の里にして海邊は眞野の浦又寂漠たる茅渟の海畔の一漁村たるに過ぎずして只現在神戸の一部たる兵庫が獨り兵庫津又は武庫の水門等の名に依り歷史上夙に其名を知られたるに止まる、此故に維新開港の際迄は主題たる神戸の沿革に就ひては何等記すべき事迹を有せざれば吾人は先づ爰に兵庫の沿革より筆を起すことゝなしぬ。

史を案ずるに兵庫なる名稱の起源は紀元千三百五年人皇第三十六代孝德帝の御代始めて此地に兵庫を築き國郡の刀甲弓矢を收めたるに依り之れを地名として呼ぶに至りたりと云へる說、諸說中最も眞に近きものとして認めらる、而して此兵庫を造られたる位置に就ては今の皿池邊なりと云へるも定かならず、去れど武庫の水門なる名稱に至りては更に之れより一層古くして紀元八百六十五年以降三韓朝貢の船舶が舳艫相啣みて常に武庫の水門に輻輳したりとのことは明かに歷史の記するところなり。尙此外兵庫の別名として大輪田或ひは和田泊等の稱呼ありて今の和田岬は推古帝曾て此處に御幣ひし給ひしより和田の御崎と呼び、東西尻池村一帶の地は古しへの眞野の里にして海邊は眞野の浦又

は異野の海と稱へけるとぞ、承安三年二月平相國清盛遷都の地を兵庫に相し阿波民部重能を奉行に任じ五萬の人夫を役し、鹽打山を崩して土砂を運び三十餘町歩の海面を埋立てたり、今の築島卽是なり、斯くて工事の始めより八箇年の後土木漸く成り治承四年六月に至り遷都のと行はれ、兵庫、今和田新田、夢野、烏原、石井、荒田、坂本、宇治野、花隈、北野、生田、神戸二つ茶屋、走水等の各地を併せ福原莊と名づけたり、然れども其時內裏の築造は尙未だ完つたからざるが爲假りに池大納言賴盛の山莊に安德天皇を奉じ、御所廓內の造營は五條大納言國綱之を承り一條より九條に至るまでの地を割り百敷の政事を行ふべき地となさんとしたるも地勢狹隘にして工事に適せず、加ふるに當時內は朝庭の文武百官平氏積年の放恣專橫に倦みて怨恨を抱くもの多く、外は諸國の源氏已に兵を起して舊都に據らんとするの形勢を示したれば、流石剛情我慢の淸盛も遂に同年十月福原を撤し再び舊都に還りたり」治承五年壬二月四日淸盛死し平氏俱利加羅谷に破れ、義仲京師に入るや福原の舊都は平家一門が西海に遁るゝ第一着の足溜りとなりて落合ふもの七千餘騎榮華の名殘を此處に惜み夫より所在に轉戰し遂に須磨一之谷の敗軍に至る迄の間に於て兵庫附近一帶の地は概ね兵燹に罹り住民多く荷擔して其地を去り殘骸冷やかなる新都の地は更に一朝にして荒土と化したり、併しながら船つきとして又西國街道の要衝として自然の形勝は長く荒廢に委し置れず、幾千もなく又四散せる住民の歸來と利に敏き他地方人の來集とを促がし再び元の繁榮の地に返れり、之れより降つて觀應年間攝津一圓楠氏の守護地となり楠氏は赤松信濃守則貞兄弟をして再度谷多々部城に據り以て街道の押へたらしむ、建武二年足利尊氏京都に敗れ船に乘じ逃れて兵庫の津に來るや北畠顯家、新田義貞の二將追討使として兵を率ひ又此處に來る、然るに此時土地の豪族白藤左衞門尉貞村官軍に屬し其一族郎黨僅かに十八人を驅り催ほし暗夜北風に乘じ奇計を設けて賊船を燒き大ひに敵を破り、義貞より感狀と鎧を授與せられ後此事後醍醐帝の叡聞に達し御感の餘り御太刀一振を拜領して面目を施したり、其子孫遂に北風を以て姓となし連綿として今尙兵

庫に在り、延元元年五月楠氏西國の兵を率ひ大擧して水陸より竝び進み京師を侵さんとするや新田楠の兩將其東上軍を兵庫和田岬より湊川附近に至る一帶の地に於て迎へ擊ち官軍遂に利あらずして楠氏は湊川に戰死す、蓋し楠公一族十三人士卒六十餘人が七生報國を唱へて自盡せる場處に就ては舊記一民屋と記せるものあるも今の楠町の楠寺卽臨濟宗廣嚴寺なりと云へる說同寺の記錄に徵しても又同寺が後醍醐帝に因緣淺からざる點に就て考ふるも事實なるが如し、楠氏亡び兵庫の領主は佐々木秀詮、細川賴之、同政元、柳元賢治、細川氏綱等を經、永錄十年には織田信長近畿一圓を平定し其海陸の咽喉を扼して緩急の事に備へん爲め其臣を遣はし花隈城を築く追手は東口搦手は西口なり、天正三年荒木攝津守村重の男志摩守村正之を守り窃に藝州毛利家に屬し大阪石山本願寺に加擔して兵粮を運搬す信長怒り其臣野口與市兵衞に命じて之を討たしむ與市兵衞戰利あらずして戰死す、其後本願寺の軍將雜賀孫市、根來の渡邊藤左衞門又此城に據り勢愈振ふ東軍の將池田信輝壘を北野城ヶ口中宮に構へて之を攻む天正八年七月城遂に落つ信長其功を賞して近地一圓を信輝に與ふ、豐臣氏の世に及び增田長盛、片桐且元の諸將代つて之を統轄す、德川氏天下の政權を握りて後西攝の領主屢々變遷ありて兵庫津は遂に尼ヶ崎の城主靑山下野守の配下に屬し更に戶田氏鐵の所領となりき、斯くて明和以後は幕府直轄の地となり大津又は大阪町奉行所の配下となり津中に役所を設け代官を派し其下に名主を置き以て維新開港當時に至りしなり。

以上は是れ兵庫及其周邊に於ける歷史の梗概として知られたるところなるも飜つて此間に於ける港灣及商業地としての兵庫津の變遷は如何なりしか是れ吾人の最も研究せんとする問題なりと雖も、要するに往昔武門の政權爭奪頻繁なる時代に在つては何れの土地も其榮枯盛衰は常に統治者の運命に依つて左右せられ兵馬の累を蒙ること屢ばなれば如何なる殷盛の地も衰頽を免れず、兵庫の如きも實に其數に漏れず喜永以後幾多の兵亂は其發達の上に甚だしき打擊を與へたるなるべしと雖も而も唯一水陸の利便は到底外界の阻碍に依り根本的覆滅を被るが如き薄弱なるものにあらずして歲と

共に漸次其繁榮の度を加へ、就中天正年間秀吉大阪築城後は其餘澤を享けて頓に長足の進歩をなし戸口共に増殖して天明年間の調べには戸數五千五百餘、人口二萬弱と註せられ四國九州山陰山陽は言ふも更なり其他の津々浦々の廻漕船常に此處に輻輳し津民も又七百八十餘艘の大小船舶を有し貨物の集散頻繁を極め商業地としての基礎牢として拔く可らざるものあるに到れり、蓋し兵阪間の海路は當時十里遠淺と稱へ澪筋も今日の如く明瞭ならざりしを以て大船の航行には往々にして危險を感じ且秀吉が頼つて以て大阪城の要害となし諸國よりの廻船は悉く之を兵庫に止め更に此處より小廻船に積替へ阪地に運搬せしめたることは兵庫の商業を一躍盛運に向はしめたる主因なりとす。

文久三年四月十一日將軍德川家茂摂海防禦巡視の爲大阪より汽船に乘じ播磨の海岸を巡見し同月二十三日兵庫津に上陸し八部郡神戸村小野濱に床几を据へ勝義邦の建議に係はる海軍營所設置の地を撰定し二ツ茶屋村の網屋吉兵衛なるものを招き港灣の模様を諮詢せられたり、吉兵衛は少時より創作の資質に富み曾て船据燈場の計畫を立て幾多の辛酸を嘗めて安永新田濱に工事を起し之れが爲資産を蕩盡したるも其功績は長く湮滅せずして今の東税關船入場の基礎を定めたるは實に此渉たる一土民の功に外ならず、斯の如き人物なれば其脱凡なる見識と率直なる進言とは蓋し家茂をして必ず や感興を以て聽き取らしめ且當面の事業上多少參考の資料を得せしめたるならん歟、家茂將軍小野濱巡見の結果安政二年春に至り當初の建策者として又日本海軍の創始者として有名なる勝安房守は神戸村海軍所取立御用兼摂海防禦係を命せられ、就任以來鋭意精勵其事務に當り寄宿所を造り操練所を設け西南雄藩の子弟を敎化して大ひに海軍の振興に力め又神戸川崎、西之宮、今津、和田岬の各處に砲臺を築造するの必要を認め幕府に建議して其同意を得與平野の僑居に在つて自ら之れが設計監督をなし、工事は灘の嘉納治郎左衛門希芝之を請負ひ兵庫の岩間屋神田兵右衛門出納を掌り一ケ所の工費約貳萬五千兩を費し元治元年の秋に至り略ぼ其竣工を告げたり、然るに同年十一月安房守幕府の嫌疑を受けて江戸に召喚せられ屏居の身となり其苦辛慘

澹たる經營一朝にして水泡に歸したるは惜みても尚餘りあることゝ謂ふべし。

是より先安政四年十月幕府の閣老堀田備中守正睦は下田、函館、長崎の米國總領事タウンセント、ハルリスの要求を容れ翌年三月五日を以て兵庫の開港條約に調印すべきを誓ひたり、然れども當時國論紛々として更に歸一するところなく攘夷佐幕の二派黨を結んで鎬を削り確執の極有司の殺害志士の要撃頻を接して起り爲めに約束の期日に調印を終る能はず、而もハルリスよりの督促益烈しく幕府は窮して出る處を知らず遂に已むなく事情を述べて四ヶ年の延期を請ひ、後又松平石見守を歐米各國に遣はし本國と直接交渉して更に五ヶ年の猶豫をなさしめ開港期を千八百六十八年一月一日即慶應三年十二月七日と約したり、然るに一方に於ては萬延元年三月三日水戸の浪士大老井伊直弼を櫻田門外に要撃殺害せるの事變あり、其起因は一にして止まらずと雖も要は直弼が夙に開國論の主張者として殊に安政五年六月十五日勅許を經ず專擅に兵庫開港條約に調印したると此奇禍を招くに至りたる最大動機なれば幕府の開國政策は是等の爲に一大頓挫を來たし世論益沸騰す、文久三年八月十八日三條、東久世、四條、錦小路、西三條、澤、壬生の七卿は京都を脱して神戸に來り海路長藩に遁る、村民鐵屋彌五平七卿の爲船を艤し調度を整へ無事其目的を達せしむ、斯の如く國事愈紛糾錯雜を極め開港の事又果して約の如く行はるべきや否や頗る掛念を抱かしむるものあるに至り、形勢の非なるを見たる列國は先んじて反對の手段を執るに決し英佛米蘭の四國軍艦九隻は慶應元年九月十五日將軍家茂大阪より上京參內して兵庫開港の勅許を奏請せられし翌日示威運動を兼ね威風堂々舳艫相啣みて突如兵庫に來り下之關假金半減の條件を以て兵庫の先期開港を要請す、幕府は評議の結果十月七日を期して決答を與ふることを約せり、當時兵庫の市民は此事にして若聽かれざらんには軍艦の砲撃を被りて全市今にも焦土と化せんなど巷說紛々訛傳囂々として更に安き心はなかりしと云ふ、而も四國の要求は期日に到りて幕吏の手より條約の本文は勅許を得たるも今日の處開港のことは先年倫敦條約の日限即三年十二月に至らざれば許

可し難く其中時機宜しきに及はゞ期限内と雖も許可を與ふることあるべしと云へる不得要領の回答を得たるに止まり其志を得ず軍艦は卽日去つて横濱に向へり。慶應元年及二年は早くも去りて三年の春は來り開港の期漸く迫りたるに拘らず朝議尚未だ何等決するところを見ざりき、實に當時長藩の處分と兵庫の開港とは天下に於ける二大問題にして諸藩と幕府、幕府と京都とは各其說を異にし、京都は勤王攘夷を標榜せる燕趙悲歌の士、幕府の處置に慊焉たるが爲故さらに之を窮地に陷れんとの策を講ずる雄藩の策士、或は事あるに乘じて已が野心を充たさんとする所在浮浪の輩等群をなし隊を組みて横行し、廟議又時に此の輩の掣肘を受け公卿堂上方の間に於ても自然各黨派を生ずるに至り、事態甚だ容易ならずして動もすれば兵庫の開港は三たび延期の不幸を見んとするに至りしが、大勢は遂に五月二十三日の宮堂上方と將軍慶喜以下雄藩連合の御前會議に於て決定し、爰に初めて開港の勅許を得るに至れり、兵庫の開港期日は愈よ慶應三年十二月七日と定まり同年七月九日大阪町奉行柴田日向守剛中は兵庫奉行兼務を、八月二十八日大垣藩士戸田采米正氏彬は開港地取締を命せられ、又大阪町奉行所付兵庫勤番所詰代官齋藤六藏、京都代官名代小堀右膳は開港御用取扱ひを仰付けられ、貿易金融の機關としては開港商社なるもの設置せられ大阪の商人鴻池屋山中善右衞門、加賀屋長田作兵衞、加島屋廣岡久右衞門の三名を商社頭取に、灘及兵庫の嘉納治郎右衞門、近藤文藏、岩間屋神田兵右衞門、竈崎安兵衞、辰馬半左衞門、鷲尾松三郎、雀部市郎右衞門、木村喜兵衞等九人を世話役に命せられ着々其準備に怠りなかりし、併しながら此際に於ける當面の兵庫神戸地方の人民は如何なりしかと云ふに一般に將來の利害を考慮するの遑なく只今日迄夷狄視せる外國人と接近常住するを厭忌せる極めて單純なる頑迷志想より開港の事を喜ばざるもの多く、隨つて事々物々頗る冷淡なりしも、獨り神戸村の里正松屋生島四郎太夫は自ら率先して各種の事業を助けたれば奉行柴田剛中は生島に托するに外人居留地の土工工事を以てしたり、抑此工事は此年の十月英京倫敦より幕府に送付し來りたる居留地地割繪圖に據れるものにして生田以西の海濱總面積二十五町八反四畝十六步五厘を收めて其用地となし、土地の買收建物移轉料埋立て地上げ及通路溝渠の築造等費用總額金貳拾貳萬千七百八拾餘兩を投じて經營したる土木なり、奉行柴田の外に森山吉太郎なる人も亦共に命を蒙りて鋭意精勵部下を督し開港期日に先ち運上所の建築を終り、三棟の倉庫と三ヶ處の波止場亦正に落成せんとして愈よ十二月七日の期日に達す、此に於てか假りに開港の式を擧げ港内碇泊の英、米軍艦は各二十一發の祝砲を放ち在留の各國領事は國旗を揭げて慶意を表し、人氣又何となく咋と異るものあるに至れり、此間他方に於ては將軍慶喜の政權返上に次ぎ王政復古の事有りて兵庫の奉行代官以下幕府に隷屬するものは何時薩長藩士の襲擊を蒙るやも圖り難しとなし戰々兢々風聲鶴唳にも驚かされ、開港の式後僅かに十三日卽十二月二十日に於て悉く遁竄して往く處を知らず、兵神の地は爲に一時全く無政府の境と變じたり、已にして三年は過ぎ明くれば慶應の四年卽明治元年朝廷討幕の大詔を發し玉ひ、幕兵は先づ鳥羽伏見に敗れしを初めとし連戰連敗の有樣

なれば正月六日慶喜は會津候松平容保、桑名候松平定敬、松山候板倉伊豆守等を隨がへ夜微行して兵庫に來り軍艦回陽に乘じて東走す、此月十一日備前藩士日置忠尚の一行上京の途次三之宮に於て一英人と事の行違ひより爭鬪を起し其從者瀧善三郎槍にて英人を斃す、碇泊中の外國軍艦急を聞き一隊の兵士は時を移さず武裝上陸して一行を追擊したり、忠尚敢せず摩耶山道を越へて退却す、此突如たる出來事は在留の外人をして自ら强力を用ひて街道の守備に當るの必要を感せしめ神戸の東西兩口には木柵を繞らして之を監視し兵士及佩刀者の通行を許さず、居留地域内は騎馬にて巡邏警戒し加之港内碇泊の西洋形船艦は悉く之を抑留して一時占領の勢を示したり、偶ま此時長兵三百餘人兵庫守備の命を受けて海路大阪より來り英米人に說て占領を解かしめんとするも抗議して之に應せず、依て長兵は已むなく奥平野禪昌寺に駐屯す、然るに幕吏を忌みたる住民は曩に其頤使に從ひ工事を負擔したる生島四郎太夫及石井村の庄屋谷勘兵衞に對し不快の感念を抱き種々の風說を流布したれば二人は長兵の爲に捕はれ、

正に奇禍に罹らんとす、長藩の本陣專崎彌五平は其冤を知る、二人の爲に長の徵士伊藤俊介に面し陳辯哀訴するところあり以て縲紲に命を免るゝを得たり、正月十四日新政府の參與兼軍事參謀外國事務取調掛東久世通禧使節として來り運上所に於て英、米、佛、獨、蘭伊六ヶ國の使臣と會見し國書を附與して舊約を締盟し又三之宮英人殺傷事件に就ては本犯者を國法に依り自刃せしめ、追て政府より各國へ謝狀を送るべしとの條件にて妥協全く整ひ、外人は即日占領を解き兵備を撤し抑留中の艦船を解放せり、斯くて維新の大業も漸次其緒に就き兵庫事務局の設置より次ひで鎭臺を置かれ後又鎭臺は裁判所となり事務局は內務局と稱して兵庫津及其他の沒收領地の事務を司どれるものと、外務局と稱して神戸地方百般の政務を管理するものとの二局に分たれ、前者は寺島陶藏、喜多村巖次重に其任に當り後者は伊藤俊介、中島作太郎專ら其事に從ふ、爰に最も可笑しきは當時上下尙結髮の習俗なりしに外局の伊藤が獨り散髮たりしの故を以て坊頭奉行と綽名され坊頭奉行の命令も吾等は遂に奉せざるべからざるかと

云ふ者あるに至る、其頃の世態又以て推知すべし、正月三十八日外國船改役の任命あり二月五日伊藤俊介より各國領事東西運上所の開局及運上割合を通知し、輸出入貨物改品の法を定め賣買高に準じ五厘金なる稅を課し公費の補助に充て、又運上所船入場の浚渫をなす等貿易の設備著々其歩を進め內外商賈の間に初めて正當なる取引開始せらるゝに至る、五月廿七日官制改革の結果兵庫裁判所は兵庫縣となり伊藤俊介知事に、東條廈治、中島作太郎判事に任せらる、然るに當時の廳舍たる切戸町の建物は頽敗に加ふるに狹隘且位置の西方に偏在せるを以て新たに兵神の中間なる阪本村に形勝の地を卜し新廳舍を建築し九月十八日に至り移轉開廳の式を擧ぐ、此間他方に在つて學事に於ては當地方學校の濫觴とも云ふべき明親館が兵庫元函館物産會所跡へ大規模にて興起するあり、衞生に於ては宇治野村を相し神戸病院の高宏なる建物を築造せらるゝあり、劇場は其頃神戸の顏役と呼ばれし布引の重吉より出願せられて布引座起り、遊廓は藤田泰藏以下の出願にて宇治川尻の西に沿ひ今の東川崎町一丁目邊に妓樓大小

三十軒餘の開業を見るに至る、然るに兵神兩地の斯く日毎に繁榮に向ひつゝあるに其中間を貫通する湊川には此時迄未だ一の橋梁なく、平素に砂礫を踏んで往來自由なるも一朝暴雨あれば兩市の交通忽ち杜絕するが如き不都合あり、依て縣廳にては元年十月生島四郎太夫を工事監督として架橋をなす、是湊川に於ける最初の橋なり、十一月一日神戸、二ツ茶屋、走水三村を合して神戸町と稱す、是より先諸國に於て各藩競ふて藩札を發行し兵庫神戸も時恰も支那商人が日本銅貨を買收して輸出せる爲め小貨の拂底に苦しめる折柄なれば縣廳に於ても神田兵右衞門等の建議に基づき十二月二十八日百文六百文の縣札を發行し、更に二年正月二十五日三百文一貫二百文の二種を發行したり、然るに一般の藩札は素より完全なる引替方法の存するに非ざれば其信用頗る薄く、藩札の不信用は轉じて太政官札の不信用となり物價著るしく騰貴して、紙幣益下落せんとす此間に處し兵庫縣札のみ豈其價格を維持し得るの理あらんや、人民は忽ちにして正價を以て物品を賣買せんことを望み縣札の授受を好まず、縣廳は種々威壓

を加へて價格を保持せん事に力めたるも其效なく遂に其通用期限を三年六月二十九日と定め同八月を以て全く回收兌換を了したり、同閏十月阪神間の電信開通す此年の末朝庭楠公父子の忠節を嘉し玉ひ別格官幣社に列せられ社號を湊川神社と賜ひ、兵庫の北風莊右衞門外二名は社殿造營御用掛となり、四年正月工を起し五年五月七日上棟式を行ひ同月二十五日卽楠公戰死の日を以て第一回の祭典を擧行し勅使四辻正三位の參向あり、七月　聖駕西巡の歸途當港に着御假行在所と定められたる坂本村の縣廳に入らせられ同月八日を以て湊川神社へ臨御の旨を達せられしが當日風雨猛烈なりしを以て御見合せ仰出され待從番長堤正誼勅使として幣帛を神前に獻ず、九月二十三日造營の工全く成る此總費額計金貳萬四千六拾九兩內太政官より營繕費として下賜の御手許金參千兩、全國の神祇官及府縣知事其他の官吏より獻金せしもの八千九百四拾九兩と註せらるる是より先明治四年三月多年汎濫濛濫の害に苦しめる生田川付換への設計を定め工費參萬六百七拾貳兩を以て其工を起し六月九日完成を告げ生田川床は入札に付す今

の加納町是なり、東に生田川の工事起るや西には又阪神鐵道布設の議ありて神戸停車場の敷地を要する爲め六月二十二日を限りて福原遊廓に移轉を命じ移轉料壹萬七千百七拾兩を與へて湊川東堤の下西國街道の北今の福原に移されたり、鐵道線路布設は六月を以て着手せられ海岸より山手へ通ずる道路中最も必要なるもの十條を撰みて踏切とし、又線路の左右に縱道を設くる等工事頻繁沿道家屋の新設移動等頗る急激なるものありき、四年は曾に之れに止まらず海岸の護岸石垣築造和田岬燈臺の落成點火、布引遊園地の設置、砂子山遙拜場の建營等皆此年に於て爲され行政區劃に於ても戸籍法改正令の發布に依り名主は戸長と改まり四年六月以後兵神兩地を分ちて第一區兵庫岡組、第二區兵庫北組、第三區兵庫南組、第四區神戸上組、第五區神戸中組、第六區福原廓の六區と爲り八月に迨び更に變更して外國人雜居地の村落及新市街附近の地を十區に分ち一區毎に戸長副戸長を置くに至りぬ、翌五年十一月運上所は縣廳の管轄を離れて大藏省の直轄となり神戸稅關と改稱せられ內外の貿易逐次其歩を進め輸出の重なる者は製茶、木蠟、煙草、生銅、乾物類にして輸入の重なるものは毛織物、金巾類、綿絲、砂糖、飮食物、鐵鋼、諸器械、藥品、染料、石油等にして是等貿易の發達に連れ海運の事務も又漸く勃興の氣運を示し、亞米利加四番館は汽船ニユーヨーク、コスタリカ、オレゴニヤの三隻を以て毎月二回橫濱、神戸、長崎、上海間の定期航海をなし、海岸四丁目長門屋光村彌兵衞、茶屋三城彌七之が荷客取扱をなす、後少時紀之國屋萬藏なるもの亦維新前紀州藩が軍用に供するの目的を以て製造したる汽船千里丸萬里丸等六隻を借入れ神戸、橫濱間の航海を開き兵庫の片野喜助、前田治兵衞、鹽利、新治の四人其元扱店たり已にして東出町薩摩屋も島津家所有の汽船豐瑞丸寧盛丸等を借受け兵庫、鹿島間の航海を開始するに至る、明治六年一月阪本村の縣廳舍腐朽破損に及びしを以て工費壹萬參千九百參拾四圓を支出し其頃の神戸松屋町今の北長狹通四丁目に在りし蘭國領事コルドハルスの土地家屋及松尾某、關戸某の所有地若干を買收し之に建增土工を加へ同年五月二十五日此處に移轉し舊建物は新設の裁判所に引繼ぎ

たり。

明治五年より七年に亘る三ヶ年は兵神に於ける土木建築其他諸般設備の光も頻繁ありし時代あるべし此間に於ける重なる工事としては今の山本通、中、下山手通、榮町筋、楠社門前筋より兵庫の背面を過ぎ柳原町に達する大道路、新生田川より脇之濱を經て御影に至る國道及小野濱船溜り、盤川の船渠、兵庫新川の開鑿、阪神間鐵道の試運轉、中稅關の棧橋、鯉川覆蓋の架設等皆此間に成就せられ縣廳裁判所工事の如きも其一部分ならき、又學制は五年七月領布ありて寺小屋制度を廢し第一區神戸に神西小學、上田小學、花隈小學、相生小學、福原小學、湊北小學、阪本小學、雲中小學、脇の濱小學の九校を、第二區兵庫に湊南小學、大路小學湊東小學、廣明小學、明親小學、湊西小學、和田小學湊山小學、烏原小學、七宮小學、眞陽小學、駒野小學長田小學、西野小學の十三校を設き第一區は生島四郎太夫取締となり第二區は神田兵右衞門取締とありて兒童の就學を奬勵す、七年六月二十日神戸の各町名を改めて現今の名稱となす、八年五月最初の兵庫縣會開かれ縣下の區戸長其議員として出席す十年一月縣達を以て區町村會を開設すべき布令出で、神戸兵庫は各區會を設くるに至る、同年二月五日神阪鐵道の工事完成し今上陛下御臨幸親しく開通式の盛典を擧行在せらる當日假殿は鐵道棧橋の東方に設け繞らすに柵を以てし柵內は四方柱八間四面靑柴葺とし草花にて御紋章を飾り出し正面中央を玉座とす、式場の四門には日章旗を翻へし外面の三方は棧敷を構へ三條太政大臣を始め供奉の文武百官列を正し正面の棧敷には各國公使領事着席し、大阪府知事渡邊昇、兵庫縣知事森岡昌純其他の祝文朗讀あり、式終るや大阪鎭臺砲兵、港內碇泊の帝國及各國軍艦の各二十一發の祝砲あり、　陛下には午後二時還御仰出さる、當時龍顏を拜せんと近鄕近在より群集の老若男女鳳輦の過ぐる御道筋堵をなし土下坐拍手合掌して聖恩の辱きに感泣せりと云ふ、蓋し此式典は神戸開港以來の盛觀を極めたるものならん。

此年西南の叛亂突如として起り神戸は軍隊軍需品の海陸接續點となり、軍用貨物輸送、軍隊の發着等頻々たる爲運送業者旅館等は孰れも非常の利益を占めたり、

十一年市場は不換紙幣増發の結果内外貨物の需用大ひに起り各自名目的收入の增加に眩惑し商工業物與を豫期したるに不換紙幣の信用漸く薄らぐに及び物價忽ち暴騰の勢を示し明治十四五年に至つて不景氣は殆んど其頂點に達したり、十六年は政府が銳意紙幣價格回復の方法を講じ兌換政策を決行したる結果物價再び俄然として低落し此急激ある物價の變動は著るしく商業界を攪亂し同年下半期に至つては不景氣の嘆聲益高く兵神市中各種商賈にして休業するもの四千餘人に及び、相當の商店を有するものも苦痛の末行商をなすに至り行商の數前年より增加せしこと無慮五百餘名、職工は賃金を引下げて需用を求め、散髮五錢髭剃一錢湯錢は五厘に底落し且此頃迄多く見ざりし正札賣買の勸工場却て人氣に投じ、小賣商人に打擊を與へつゝ新たに開設せるもの無數なりき、此七月神戸取引所設立許可の令出で貿易商百四十餘人兩替商八十餘人は九月四日海岸三丁目貿易會所樓上に會して役員選擧を行ひ頭取武田九郎右衞門、肝煎堀宮三、小林長平、山本龜太郎、池田貫兵衞と決定せしが、仲間折合ひの宜しからざるものありて幾何もなく頭取は其職を辭し、十一月鈴木農商務大書記官來神調停の結果更に頭取小島宮三以下の役員を選定し、資本金拾萬圓營業年限五ケ年の期限を以て十二月十五日より開業し翌十七年東川崎町一丁目の新築家屋に移轉したり、然れども此取引所は商界悲運の時に遭遇し終始振はず不幸にも遂に十八年八月を以て閉鎖するの已むを得ざるに至れり、斯くの如く一般商況の不振は連年相次ぎ不景氣の嘆聲を聞かざるなきに災厄は單に之れに止まらず、十九年夏畏るべき虎列拉病發來の爲め更に一層其苦痛の度を昂めたり、實に當時虎疫の流行は驚くべき速度を以て傳播し六七月の比市內一日の患者少きも二十名多きは五六十名內外を出だし、船舶は多く檢疫の煩を厭ひて寄港せざるの方針を取り、陸に依れる旅客貨物も又迂路を取りて通過するもの尠なく、消毒豫防の費は一時町費より支辨したるも力遂に支へず後に至り病者の家族に負擔せしめ更に進んで家主地主に負擔せしむるに至る、此に於て市民の論難攻撃囂然として起り檢疫委員は區吏員と議して國庫地方稅の補助を諸願するに至る、十一

月に迫んで病毒迹を絕ち人心稍平穩に復す、二十年政府不換紙幣償却の財政々策は其效を奏し經濟界をして逐次順境に向はしめ久しく萎靡不振の裡に眠りたる神戸の內外貿易も稍活氣を呈し來りぬ、二十三年の春米價騰貴して兵神に於ける相場石九圓六拾錢となるや細民の困難は名狀す可らざる程にて、政府は外國米を全國米商會所の格付中に加へしめ又政府自ら進んで外米を輸入競賣したるも滔々たる貧民を救助する事は素より不可能に屬し、其餘波は俄然として犯罪者の數を增加し三月中市中の各警察署に拘引せらるゝ者二千人に近く、而して是等の多くは生計の困難より詐僞竊盜掠奪等の罪を犯し婦女子に在つては密賣淫をなせしに起因し一層甚だしきに至つては單に監獄の飯を食ふの目的を以て犯罪するものあるに迫ぶ、此に於て白米施與の事は先づ同年の四月淺東部有志者に依つて開始せられ、次ひで各町の富豪家之に倣ふ其中重なるものは兵庫の小曾根喜一郎が市內貧民一人一升の割合を以て白米三十石を施こしたると、川崎正藏が其工場東川崎町川崎造船所裏門に於て五月十一日より向ふ三日間一升宛一萬人の施米をなしたるとにあり、而して是等施與の方法は亂施に流れ弊害を生ずるを避け市役所に托して實際困難のものゝみを調査し豫じめ與へたる切符と引換に交付するにありし、縣知事林薰は此時訓令を發し現在及將來に必要なる土木建築工事或は臨時有益なる他の事業を起して貧民に就職せしめ積極的救濟法を講ぜんとを勸誘奬勵し、貧民救濟義會、孤兒院等は皆此時を以て其萌芽を發したり、此間に於ける商業界は只一部製茶、花莚等の少しく手合多かりしと燐寸が新たに南洋方面に販路を擴張したる位に止まり全體の上より見て各商共に前年より二割以上の賣高を減じ市內住民中三百餘人の公賣處分を受くるものを出し地價亦頓に低落を示したり、此趨勢は蔓延して二十四年に及び市內五十有餘の會社中其十三は解散若くは休業を告げ各種の株式は下落して拂込金額の價格を保たんとするも能はず、且十數年來神戶港重要商品の一として數へられたる石炭は此年門司の輸出港となれる爲め大ひに其取扱高を減じ左なきだに不況を唱へる商界をして一層の悲運に陷らしむ、此年一月下山手神港倶樂部の新

築成り五月加納町神戸倶樂部亦落成を告ぐ、二十五年より六年の上半期迄の商業界は各輸出品いづれも盛況を呈したるが同七月に入つて歐洲の外交界に佛遐交渉の事起り倫敦爲替相場二志八片四分の一と報せられ一日に二片の下落を見たれば居留地商館は直ちに會議の上製茶買入れを中止し違ふものは千弗の科料を出さしむる旨規約を結びたり、之が爲茶商は在荷堆積して手許融通付かず大ひに困難を極む、二十六年中の土木の重なるものは中山手南京寺卽中華會館の建築なりき、二十七年は日淸戰役起り人氣頓に活氣を呈し軍夫其他勢力の需用ありて下層社會は最も多く餘澤を蒙り從つて他地方よりの移住者も多かりき、統計の示す處に依れば二十六、七二ヶ年に於ける市の戸口繁殖高は戸數三千六百十六戸人口一萬四千九百三十七人を以て算せらる、是より先淸國人は久しき以前より神戸に在留し海産物燐寸其他の商權を左右し隱然商業界の一大勢力たるの觀ありしが日淸事端を開くの後彼等は漸次其本國に歸還し、居留地外商其從事したる商業の後繼者として之に代り內地商人は厘毛を爭へる淸商に對するよりも利便を感すること大なりしが、二十八年五月馬關の媾和條約後は復た又歸來して其商權を回復し一層活潑なる營業をなすに至る、二十九年は戰爭の結果通貨膨脹し物品需用の增加と物價の昂進は底止するところを知らず、徒らに企業熱のみ其度を高め而も銀行の警戒は金融の途を塞ぎ不景氣の歲晩を送りて卅年の新春を迎へたるも景氣は依然として引立たざりしが、四月より第六回關西府縣聯合共進會は楠町七丁目舊鎭臺屋敷跡に開設せられ又同時に和田岬水族館の開設等ありて他地方人の來神するもの頗る多く爲に一時外觀好景氣を現したるが如きも其實輸出貿易は擧げて沈滯に陷り搗て加へて比律賓にはアキナルドの反亂あり、孟買には黑死病發生の事ありて同地方に販路を有する商品は輸送杜絕の不幸を見しが一陽來復三十一年に至り周圍の形勢漸く好望に趣き、殊に開港三十年に相當せるを以て市民の有志は開港三十年祝賀會を起し時の市長鳴瀧幸恭其會長となり盛大なる式典を擧行し又神戸開港三十年史乾坤二卷を發行したり、本書は由來殆んど知られざりし神戸の歷史を開明し尙主題たる三十年

間に起りたる大水の事は擧げて洩すところなかりき、三十二年一月北長狹通四丁目の舊縣廳舍漸く腐朽に屬したるを以て設計を定め新築に着手し又楠通二丁目神戸地方裁判所は翌三十三年十月參拾萬圓餘の豫算を以て改築に着手し其間奥平野村假廳舍に移轉して事務を執ることゝなれり、此年當時の世論たる神戸築港は愈實行に決し築港準備委員を設け技師に委囑して之れが調査をなし內幾分は國庫の補助を申請するに至れり、三十四年神戸の商業界は大體に於て順潮なる狀況の下に進歩し海外貿易額も輸出入共略ぼ同比例を以て增大したり。

三十五年は第五回內國勸業博覽會が大阪市に開催せらるべき前年なれば神戸市に於ても其經營萬般に付遺憾なからしむることを期し特に博覽會委員を設け市公民中より十八、市吏員中より三人を選び主として其事務に執掌せしめ差詰め博覽會に關して起りたる團體の事務を奬勵することゝなし市會の協贊を經、協贊會に對しては年度內金八千圓を補助し出品協會に對しては三十五、六兩年度內に於て同じく八千圓の補助を與へたり、而して協贊會は博覽會開期中市に商品陳列所を開設するの計畫をなし出品協會は大に博覽會出品の勸誘に努め同年六月三十日迄に願書の提出せられたるもの四百七十二人此品數五千三百十八品に達したり然るに博覽會各館建物狹隘の爲め殆んど之を半減するの止を得ざるに至りしは一般に遺憾としたる處なり又此年神戸區所有山林の內面積四十五町六反餘の地に松十四萬八千八百十本、檜十九萬千二百八十本を新植することとなり市は十一月十三日先づ葺合區有山林より其實施に着手せり此費用金貳千參百九拾貳圓餘にして其山林は二十年間の無償にて市に供用せしめ明治五十五年以後は其收益の七分を市の所得とし三分は所有主たる葺合區及神戸區の所得となすこと、し各區會の決議を經たり、造林事業は斯の如く生面を開きたるに拘らず他方面に於ける神戸築港計畫は已に三年の時日を經過したるも其間種々の困難續出し加ふるに政府の計畫せる敏馬の海陸聯絡工事着々其步を進め當初の計畫又自ら異動を來したれば前年政府に提出したる築港費國庫補助申請書は此六月十四日市會の決議を經て下戻を爲し同

時に築港準備委員をも解任したり、五月工事中の下山手四丁目兵庫縣廳舍工成り山手中央部に於て巍然たる三層の洋館は雲を突ひて現出す工費實に參拾四萬參千九百九拾五圓、盛大なる開廳式の擧行あり、此の年下山手八丁目に於て男一人ペスト疑似症に罹り東山避病院に收容中死亡したるを以て市は鼠族の買收を開始し縣に於ては各警察署を經て斃鼠劑を配布して大に捕鼠を奬勵し四月二十日より八月二十六日に至る間に鼠族の買收十三萬三千三百三十四頭の多きに達せり、以て十月十八日より十二月九日迄再び買收をなし三萬七千四百十頭を得たり此の如く捕鼠に勉むると同時に市内を通じて大清潔法を施行したれば幾千もなく病毒は其迹を絕ちたり、又運輸界に於ては年末より三十六年春に掛け博覽會に出品すべき內外國の物品にして神戸を經由し海陸兩方面より大阪に輸送せらるゝもの夥しき額に達し其爲め非常の盛況を呈したり、三十六年三月一日博覽會は豫定の如く開會せられ諸國より大阪に來り集るものにして神戸に立寄るもの亦頗る多きを加へ殊に四月十日を以て神戸沖に擧行せられたる大觀艦式は空前の盛況を呈し博覽會見物を兼ね此盛觀を見んとて全國各地より來集する者前日より萬を以て數へ九、十兩日三之宮、神戸、兵庫の三驛及兵庫、神戸の小蒸汽船々付場は每次來觀人を以て埋もれ市中の旅館は隅より隅まで悉く充滿し遠來の見物客は市內家每に充ちて其夜の如きは宿を尋ねて東奔西走遂に空しく市街に夜を明すもの幾千の多きを知らざる有樣なり斯の如く幾十萬の人が待詫びたる十日の景況は如何なりしと云ふに生憎にも朝來稀有の大霧にて僅かに半丁の外を見るに過ぎず　聖上臨御親しく此盛典を擧行せらるべき時刻は刻々に近づき來るも濃霧は尙未だ晴れず衆民の遺憾想ふべきなり、應て午前九時過　天皇陛下には龍顏麗はしく神戸驛に着御輿て差廻しある鹵簿にて驛前より相生橋を經元町通を東へ元居留地大通を米利堅波止場へ成らせられ各大臣以下扈從して淺間に御乘艦あらせらるゝや天皇旗は忽ち大檣頭に飜され各艦及陪觀外國軍艦より發射する二十一發の皇禮砲は殷々轟々として勇壯嚮へ難し然るに不思議にも　陛下御乘艦の頃より左しもの濃霧漸く薄らぎ淺間が波を蹴つて徐々に

進行を始め漸次各艦の間を一周して初めの位置に復する頃迄は陸上よりも拜觀し得らるゝ程に晴れ渡り式後濃霧は再び視界を鎖したるは人々奇異の思ひに打たれたり、當日此式に參したる軍艦は戰鬪艦、裝甲巡洋艦巡洋艦以下大小七十餘隻帝國海軍の精銳を集め小野濱沖より遠く御影沖に達し規律整然として三列に竝び陪觀外國軍艦の中には五本煙突の露艦アスコリッドもありたり、此日陸上より展望に宜しき安養寺山、諏訪山布引山、敏馬附近は言ふに及ばず摩耶山頂に至るまで拜觀人を以て充たされ諏訪山妙見堂東手など掛茎一坪五圓以上の相場を以て前日より申込人競爭の姿となり立見は前側一人に付弐拾五錢と定むるに至りしが當日の濃霧は頓に此際物直段を暴落せしめ見越の設備も盡く餅に歸し損失を招きたるもの多かりしも可笑しかりし郵船會社は特に廣島丸薩摩丸の二艘を艤し內外紳士貨主數百人を招待して海上にて拜觀せしめ、他の汽船中にも同じく海上拜觀のもの尠からず、是等は胥病院船博愛丸の先導にて其後に尾し淺間の航迹を辿りつゝ萬歲を歡呼し諸艦を繞りて歸航したり、午後四時頃より霧次第に晴れ夜に入りて各艦はイルミネーションをなし陸上にては縣廳、元居留地、宇治川三菱、又新、神戸二新聞社、電燈會社其他の裝飾に成れる瓦斯、電燈のイルミネーションは時ならぬ不夜城を現出し見物の群集到る處雜沓を極め一時宇治川筋角より相生橋を經て楠公社に至るの間は群集の堵を築きて往來全く杜絕したり、實に四月十日觀艦式一日に於ける神戸の盛況は開港以來空前の事に屬し市民の長く記臆すべき一日ならんか。

博覽會開期中神戸にて直接に其餘澤を被りたるは運送業者、旅館、飮食店、案內業者等なるも來遊者の散布したる資財尠からざるが爲一般各業者亦相應の利益を得たり、博覽會が動機となり三十五年より工事に着手したる諏訪山公園は此年春略竣工し商品陳列所も漸次完備の域に達して來觀者を慰めたり、陳列所は最初協賛會の事業たりしも博覽會閉會後十月三十一日市に於て之を引受け經營することとなる、斯く記臆すべき數多の印象を與へられたる明治三十六年末は更に國民の一層記臆すべき年にして我國が露國の滿州出兵に對し抗

議を提して之れが撤去を要求し往復反問數回に及びて其要領を得ず飜弄暴慢の態度は回一回に甚しく世論囂々札を見るに至りしが皇軍奮ふところ海となく陸となく風雲漸く急ならんとして年を終り新たなる三十七年を迎へ霹靂一聲二月七日旅順の水雷夜襲に次ぎ十一日連戰連捷の勢を呈し戰爭に關しては一般に何等顧念するところなきに至り最早消極的財政々策に耳を傾くるも堅く愛國心は所在到る處油然として發動し軍資恤兵ものなく沈鬱不振の狀態にありし商業界は須臾にして曩醒せられ景氣頓に挽回して七、八月以後に於ては最の獻金より出征軍隊の歡送迎、犒軍、慰問等到る處に初の不景氣は殆んど其迹を留めざるに至りたり更に此行はれ神戸市民の如きも開戰當初より赤誠を以て其の年の建築界に就て言はゝ前年より久しく工事中に屬したる神戸地方裁判所及區裁判所の建物は愈此三月を以事に從ひ各種の團體は今日迄渝ることなく拮据經營益て落成し工費參拾五萬參千六百貳拾貳圓を費やし建坪奮勵して最終の義務と榮譽を完ふするに努めつゝある六百坪に餘りて輪奐の美を竭したる高閣は地を壓して は卷末奉公事業概に記するところの如し、併ながら三楠社の東方に起り附近の美觀を加へたり、竣工後五月十七年は商業界に在ても亦それ丈け多くの消長を免がれざりき開戰の初期に於て海には御用船の徵發、浦鹽七日より九日に至る三日間廣く公衆の縱覽に供し觀覽艦隊の出沒等の爲海運の杜絶したると陸には軍隊、軍の市民萬を以て數ふ、此外三十七年中に起りたる事項需品の大輸送ありて鐵道の運搬力著しく減殺したるあは一にして足らずと雖も赫々たる戰勝の餘響は下半期り加ふるに當初に於て消極的勤儉說唱道せられ商工業に至り一般商工業界を振興せしめ殊に外國貿易は開戰者共非常なる控へ目主義を取り經濟界は全國を通じ萎以來格段の打擊を被ることなく年中の輸出入額貳億六縮退嬰の姿に陷りたる大勢は亦神戸市を風靡して一般千萬圓餘の巨額に達せしを見るも亦以て神戸港が如何商工業者は閉散に苦しみ下層社會は日々不景氣の愁聲に隆盛の域に到達したるかを推知するに足らん歟、爰に吾人は此篇を擱筆するに臨み大阪築港完成後神戸港の將來に關し杞憂を抱くものゝ說を排し益其進步を豫期し同時に市民諸子に向つて豫じめ之れが設備に遠算なからんことを切望するものなり。

第二節　神戸市の地勢、面積及戸口

神戸市は北緯三十四度四十一分東經百三十五度十一分攝津國の西南隅に位し南茅渟の海に面し、東は武庫郡西灘、上野、五毛、稗田、岩屋、味泥の諸村に隣り、北の方一帶は六甲、靡耶、布引山、諏訪山、再度山、湊山、會下山、鵯越、增田山、塵取山の諸山蜿蜒連亘して自然の境域を形づくり、西は妙法寺、大手、東須磨諸村に接す、地勢海岸に沿ひて東北より西南に延長し東西の直徑二里十五丁、南北一里七丁面積二方里八二五に達す、此總面積の內譯左の如し。

宅地	六百三町	山林	千四百七十五町		
田地	五百二十六町	其他ノ有租地	三十四町		
畑地	二百六十五町	其他ノ免租地	百八十五町		
以上の內	官有地	五百七十四町			
	民有地	三千八十八町			

全市の町村は年々市の進步に伴ひて漸次擴大新設せられ其周圍の僻隅に至りては町村名のみ存して實際は僅々たる家屋の點在するに止まり未だ街衢の觀を呈せざるもの尠なからずと雖も明治三十八年一月一日現在に於ける神戸全市町村名は下記の如し

菅合郡

神戸部
- 海岸通
- 前町
- 中町
- 西町
- 裏町
- 明石町
- 旗塚通七丁目
- 脇之濱
- 濱邊通四丁目
- 若菜通七丁目
- 日暮通六丁目
- 南本町通六丁目
- 二ノ宮通四丁目
- 琴ノ緒町五丁目
- 御幸通八丁目
- 八幡通五丁目
- 上筒井
- 熊内
- 神若通七丁目
- 東雲通六丁目
- 吾妻通六丁目
- 眞砂通二丁目
- 布引通四丁目
- 旭通五丁目
- 小野柄通八丁目
- 下筒井
- 熊内橋通七丁目
- 八雲通六丁目
- 北本町通六丁目
- 生田町三丁目
- 磯邊通五丁目
- 雲井通八丁目
- 磯上通八丁目

播磨町　浪花町　京町
江戸町　伊藤町　東町
北町　海岸通六丁目迄　加納町六丁目迄
三之宮町三丁目迄　北野町四丁目迄　山本通五丁目迄
仲山手通七丁目迄　下山手通八丁目迄　北長狭通八丁目迄
元町通七丁目迄　栄町通六丁目迄　再度筋
宇治野町　花隈町　辨天町

湊東部

東川崎町七丁目迄　相生町五丁目迄　古湊通四丁目迄
中町通六丁目迄　橘通六丁目迄　多聞通八丁目迄
上橘通四丁目迄　荒田町四丁目迄　楠町七丁目迄
福原町　宇治野町　奥平野

湊西部

江川町　湊町四丁目迄　佐比江町
戸場町　小物屋町　北仲町
南仲町　切戸町　磯之町
魚棚町　西仲町　東柳原町
西柳原町　神明町　南蓮池川町二丁目迄
北逆瀬川町　門口町　三川口町三丁目迄

永澤町四丁目迄　鹿屋町　西宮内町
富屋町　算所町　東出町三丁目迄
西出町　川崎町　北宮内町
宮内町　宮前町　鍛冶屋町
島上町　新町　濱新町
船大工町　關屋町　新在家町
出在家町　今出在家町三丁目迄　和田崎町
大開通十丁目迄　水木通十丁目迄　塚本通八丁目迄
羽坂通四丁目迄　中道通九丁目迄　濱崎通四丁目迄
入江通八丁目迄　須佐野通八丁目迄　小河通九丁目迄
松原通七丁目迄　芦原通六丁目迄　住吉通六丁目迄
上澤通八丁目迄　大井通三丁目迄　下澤通七丁目迄
松本通八丁目迄

湊東出町東、中、西組部

石井夢野

林田部

明治通四丁目迄　御所通四丁目迄　和田山通三丁目迄
今和田新田　吉田新田　東尻池
西尻池　西野　長田

池田　苅藻島駒ヶ林
東町　中野町堂町
西町　野田御崎
濱添通五丁目迄　藻苅通六丁目迄

遊園は五ヶ所あり中に就き諏訪山遊園は其位置、廣袤設備景色共遊園中の第一位に居る二は舊湊川埋立地なる湊川遊園にして面積三萬六千四百五十坪を有し三は加納町遊園地にて面積一萬千百八十五坪なり此園は元外人の遊園地なりしを居留地制度撤去の際、市に引継ぎたるなり四は海岸通遊園地にして是又加納町遊園地と同時に先年外人園より市に引渡したる物件の一にして海岸の護岸石垣と元居留地海岸通りとの間に介在し其面積二千二百坪あり五は天王川堤防附近を稍したる天王川遊園地にして面積僅かに千百三十四坪なり。

次に明治三十三年以降五ヶ年間に於ける市の人口統計及三十七年十二月末日調市内各部各別の戸口統計を左に示さん。

神戸市戸口統計表（各年末調）

年次＼區別	本籍人口 男	本籍人口 女	本籍人口 計	現住人口 男	現住人口 女	現住人口 計	現住戸數	平均一戸の現住人口
明治卅二年	七九、三四〇	八〇、四五二	一五九、八三二	八〇、九二一	八一、四七二	一六二、三九三	六二、一八六	人 二、六〇
明治卅三年	八〇、四六七	八一、三〇九	一六一、七七六	八二、一一〇	八二、六八〇	一六四、七九〇	六六、〇〇一	二、四九
明治卅四年	八二、七二六	八三、五九九	一六六、三二五	八三、八五三	八四、九〇〇	一六八、七五三	六九、三五〇	二、四二
明治卅五年	八六、一七二	八七、一四七	一七三、三一九	八七、一八二	八八、三一〇	一七五、四九二	七二、六九九	二、四一
明治卅六年	八八、八六一	八九、八一〇	一七八、六七一	八九、八一〇	九〇、八五一	一八〇、六六一	七三、六九九	二、四五
明治卅七年	九二、二五九	九三、三四二	一八五、六〇一	九二、七五二	九三、七八三	一八六、五三五	七四、一五〇	二、五一

神戸市各部戸口明細表（明治三十七年十二月末日調）

區別	戸數	人口
神戸部	一五、三一八	六六、九八六
葺合部	一一、四五五	四一、九八六
湊東部	一四、五二六	六六、三五八
湊西部	三一、四九八	九三、三九八
湊部	二一、八六	八〇、三五八
林田部	六〇三	一八、八八四
合計	七四、一五〇	二九二、二九六

前表は內國人の戸口統計なるが更に下に於て在留の諸外國人卅三年以降五ヶ年間各國籍別戸口統計を掲げん。

神戸市在留外國人國籍別戸口統計表（各年末調）

年次 / 國籍	明治三十三年 戸数	人口 男	人口 女	人口 計	明治三十四年 戸数	人口 男	人口 女	人口 計	明治三十五年 戸数	人口 男	人口 女	人口 計	明治三十六年 戸数	人口 男	人口 女	人口 計	明治三十七年 戸数	人口 男	人口 女	人口 計
英吉利	二五四	三五一	一六六	五一七	二五九	三五四	一八六	五四〇	二五五	三五七	一七七	五三四	二四四	三三四	一六七	五〇一	二四六	三三四	一八四	五一八
英領印度	一四	三	一	四	一九	二	一	三	一七	一	一	二	一〇	一	一	二	一〇	一	一	二
同濠洲	四	三	一	四	二	一	一	二	六	二	一	三	一	一	一	二	一	一	一	二
同加奈太	一	一	一	二	一	一	一	二	一	一	一	二	一	一	一	二	一	一	一	二
同緬甸	一	一	一	二	一	一	一	二	一	一	一	二	一	一	一	二	一	一	一	二
亞米利加	九六	一四五	六〇	二〇五	一〇五	一五二	六四	二一六	一一二	一五九	六五	二二四	一一二	一五九	六五	二二四	一一二	一五九	六五	二二四
獨逸	二九	三二	一四	四六	三一	三四	一四	四八	三一	三四	一四	四八	三一	三四	一四	四八	三一	三四	一四	四八
佛蘭西	三〇	三二	一四	四六	三一	三四	一四	四八	三一	三四	一四	四八	三一	三四	一四	四八	三一	三四	一四	四八
伊太利	三	四	一	五	三	四	一	五	三	四	一	五	三	四	一	五	三	四	一	五
葡萄牙	三	四	一	五	三	四	一	五	三	四	一	五	三	四	一	五	三	四	一	五
西班牙	七	一三	六	一九	七	一三	六	一九	七	一三	六	一九	七	一三	六	一九	七	一三	六	一九
和蘭	六	一〇	四	一四	六	一〇	四	一四	六	一〇	四	一四	六	一〇	四	一四	六	一〇	四	一四
露西亞	二	三	一	四	二	三	一	四	二	三	一	四	二	三	一	四	二	三	一	四
墨西哥	一	一	一	二	一	一	一	二	一	一	一	二	一	一	一	二	一	一	一	二
土耳其	一	二	一	三	一	二	一	三	一	二	一	三	一	二	一	三	一	二	一	三
瑞典諾威	一	二	一	三	一	二	一	三	一	二	一	三	一	二	一	三	一	二	一	三
瑞西	一	二	一	三	一	二	一	三	一	二	一	三	一	二	一	三	一	二	一	三
白耳義	一	一	一	二	一	一	一	二	一	一	一	二	一	一	一	二	一	一	一	二
希臘	一	二	一	三	一	二	一	三	一	二	一	三	一	二	一	三	一	二	一	三
波斯	二	三	一	四	二	三	一	四	二	三	一	四	二	三	一	四	二	三	一	四
墨西哥	一	一	一	二	一	一	一	二	一	一	一	二	一	一	一	二	一	一	一	二
清國	四	九	一	一〇	四	九	一	一〇	四	九	一	一〇	四	九	一	一〇	四	九	一	一〇
暹羅	二	四	一	五	二	四	一	五	二	四	一	五	二	四	一	五	二	四	一	五
合計	一〇五	一九三	六六	二六八	一〇五	一九二	六五	二六七	一一二	二〇四	七〇	二七四	一一二	二〇四	七〇	二七四	一一二	二〇四	七〇	二七四

備考　瑞典諾威は二國として計算せり

第三節　神戸及兵庫港灣

先年市町村制實施と共に兵庫は神戸市に編入され海面に於ても亦宿渓川尻を境とし東を神戸港西を兵庫港と稱へたるを一體となして神戸港と呼ぶに至れり、今此處に舊名に返り神戸及兵庫港灣と稱するは聊其稱呼の穩當を得ざるが如きも是世人の誤解を防ぐが爲故さらに俗稱に從ひたるなり。

神戸の地西、野田村の西端より東、脇之濱の東端に至る海岸の直徑四里十三丁十八間而も此間屈曲灣入、岬をなせるもの三、之が海岸線の延長實に六里十九丁二十間に達す、其西南端五十度の角度を以て約一哩四分の一海に突出せるもの之を和田岬となし西より南西南に至る風波を阻止蔭蔽する屈強の堡障たり、次は港の中央部に七十五度の角度を以て半哩突出せる宿渓川尻埋立地々先となし神戸港に向つては西南より來る波浪を防ぎ、兵庫港に在りては東北の風濤を遮ぎる、今一は最東にあり百二十度の鈍角を以て約三分の一哩海に出でたる小野濱地先きにて神戸港の東角をなし北より東に至る風浪を遮止す、其灣入の狀西灣兵庫港は譬へば烏帽子形の如く、東灣神戸港は恰も胃形に髣髴たり、現今此二小灣を總稱したる神戸港の經界は北東は脇の濱に建設したる頭部圓形赤白色二基の立標を一線に見、南西は和田岬に建設したる頭部圓形赤白色二基の

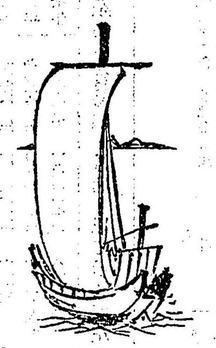
立標を一線に見たるものにて其兩々視線の交叉點以内を港内となす、港内の面積三百三十五萬五千三百有餘坪之を三區に分ち海上より舊湊川崎東端に建設したる頭部圓形赤黒色立標を磁針方位八十五度西に見たる一線より北方一圓を第一區となし、海上より前記の立標を北八十五度西に見たる一線と同立標を北五度東に見たる一線との中間を第二區とし、第三區は海上より前記の立標を北五度東に見たる一線より西方一圓となす、此内二區を軍艦の碇泊所に充て一區及三區を商船及雜種船の碇泊所となす。

港内各所共同荷揚場の通計延長三里十丁三十八間、營業荷揚場十七丁十八間、私人專有二十七丁五十八間、棧橋の重なるものは俗に西棧橋と稱する東川崎町の鐵道棧橋（長四百五十呎幅四十呎坪數五百坪軌條三線）及通稱東棧橋と呼べる棧橋會社の神戸稅關棧橋（長五百五十八呎幅四十二呎坪數六百八十二坪軌條三線）の二にして前者は郵船臺灣定期、御用船其他特に鐵道局の許可を得たる船舶に限り繫留を許し、後者は會社私營として外國航路の内外汽船繫留に供用す二者孰れも吃水二十三四呎の船舶を繫ぐに足る、他の小棧橋は和田崎山陽鐵道棧橋、高濱東京倉庫の三棧橋、古川筋新稅關郵船倉庫前岸の棧橋、及小野濱三井倉庫棧橋等にて是等は皆艀船貨物積揚用として夫々其所有者の專用に供せらる、船橋は兵庫島上町、海岸通中稅關の二ヶ所にありて四國中國九州大阪通ひ等の小形蒸汽船繫留所たり、而して又艀船の貨物積揚場兼避難所としては兵庫の運河一帶、新川筋神戸の盤川、辨天濱、國產波止場中波止場、東稅關貨物積揚所、小野濱船入場等にて米利堅波止場は旅客の乘降にのみ使用せらる他に單に通船發着所としては中稅關構内、東川崎町尻、兵庫東出町濱、島上町濱の四ヶ所あり。

港内の水深は今此處に細說に暇あらすと雖も吃水二十六七呎迄の船舶は大抵自由に港内に碇泊し得べきも夫以上に至りては多少の設備を施さゞるに於ては今日の處未だ少しく遺憾の觀あるを免れざるが如し、されど之を全國中の港灣に比較せば其陸岸に接近せる水深に於て又風波を避くる安全の錨地たる點に於て特に他に優越せる諸件を具備す、是其今日迄依然築港其他の人工を施すことなくして而も尚良港たる聲價に何等消長を來すことなき所以ならん歟、然れども神戸港内又時に波浪の爲荷役の困難を感じ或ひは解小廻船等の遭難頻々たることあり、斯の如きは一年の内舊曆二三月の頃を以て尤も多しとなす、其頃は東方より東南に掛け雨を交へて吹荒む風多く神戸にては之を和泉ものと稱へ尤も忌むところの風にて稀には怒濤海岸の護岸石垣防波堤を越へて濱沿ひの低地を浸すことあり、遙矣神戸港が東洋有數の良港たるは世已に定論あり吾人は只此上大規模の棧橋設備と港内の浚渫に依り世界船舶噸數の漸次增大せる傾向に對し豫じめ備ふるところあらんことを望むものなり。

歷史は時代の證人なり、眞理の松明なり、記憶の生涯なり、生活の教師なり、古昔の使節なり。

（シセロ）



第二章

第四節　神戸港輸出入品價額累年對照表

年次	輸出	輸入	輸入超過額	合計
明治七年	三四〇、三四一円	三五二、九四〇円	九、三九〇、五九八円	
明治十二年	五、六一〇、七四三	七、六〇、一〇五	二、三八、三五八	
明治十七年	一〇、三三、三五三	一二、七九、九五九	一、四〇、一、六〇三	
明治二十二年	一九、四三、三五〇	三六、三五、三五〇	一六、四三、三五〇	
明治二十七年	二九、四六、一二五	五六、九〇、五〇三	二七、四三、三七八	
明治二十八年	三八、三〇、三四〇	六三、三八、三四〇	二四、三八、三四〇	
明治二十九年	四〇、三一、七八一	八三、三六、四四〇	四三、三五、六五九	
明治三十年	五〇、九三、一五五	七〇、七一、一五五	一九、八、〇〇〇	
明治三十一年	七四、八一、八九九	一一〇、三九、五三三	三五、五七、六三四	
明治三十二年	六九、〇五、二四三	一二四、四八、六八一	五五、四三、四三八	
明治三十四年	七三、三六、三三五	一二三、九五、〇三三	五〇、六二、六九八	
明治三十五年	一四四、七八、二四一	一四四、五二、一二一	一、四三、八八〇	
明治三十六年	九〇、三一、八三六	一四四、五二、一二一	五四、〇三、三五六	
明治三十七年	一一四、七三、七四四	一四四、五二、一二一	二九、七八、三七七	

明治三十七年神戸港輸出入品價額月別一覽表

月別	輸出 貨物價額	輸出 金銀及地金價額	輸出 計	輸入 貨物價額	輸入 金銀及地金價額	輸入 計	通計
一月	七、一〇八、三四三円	六、三三、〇九五円	一三、五三、〇九七円	一、九三、三五八円	一、四三、〇九五円	三、一七、〇五三円	一六、六四、一四〇円
二月	九、四〇、二三六	六、三四、〇九五	一五、四三、三三一	一、四三、三五八	一、四三、〇九五	三、一七、〇五三	一八、六〇、三八四
三月	八、三七、六五八	七、三五、四三五	一五、九二、〇九三	一、四三、三五八	一、四三、〇九五	三、一七、〇五三	一八、九〇、一四六
四月	六、三〇、八四五	五、四三、〇九五	一一、七三、九四〇	一、四三、三五八	一、四三、〇九五	三、一七、〇五三	一四、九一、〇四三
五月	七、三一、一〇一	六、三四、〇九五	一三、六五、一九六	一、四三、三五八	一、四三、〇九五	三、一七、〇五三	一六、八二、二四九
六月	七、三五、六三二	六、三四、〇九五	一三、六九、七二七	一、四三、三五八	一、四三、〇九五	三、一七、〇五三	一六、八六、七八〇
七月	六、三六〇、四三二	九、四四、二三五	一五、九〇、九二二	一、四三、三五八	一、四三、〇九五	三、一七、〇五三	一九、〇七、九七五

今三十七年中の貿易額を月別を以て示せば左表の如し

年次	輸出	輸入	合計
明治二十八年	三八、三〇、三四〇	六三、三八、三四〇	一〇一、四三、六八〇
明治二十九年	四〇、三一、七八一	八三、三六、四四〇	一二四、六八、二二一
明治三十年	五〇、九三、一五五	七〇、七一、一五五	一二一、六五、三一〇
明治三十一年	七四、八一、八九九	一一〇、三九、五三三	一八五、〇一、四三二
明治三十二年	六九、〇五、二四三	一二四、四八、六八一	一九三、五四、〇二四
明治三十三年	七三、三六、三三五	一二三、九五、〇三三	一九七、三二、三六八
明治三十四年	一四四、七八、二四一	一四四、五二、一二一	二八九、三一、三六二
明治三十五年	九〇、三一、八三六	一四四、五二、一二一	二三四、八四、〇五七
明治三十六年	一一四、七三、七四四	一四四、五二、一二一	二五九、二六、八六五
明治三十七年	一一四、七三、七四四	一四四、五二、一二一	二五九、二六、八六五

第五節　神戸港輸出入金銀價額統計表

月	輸出 金貨及地金	輸出 銀貨及地金	輸出 計	輸入 金貨及地金	輸入 銀貨及地金	輸入 計	合計
八月	八四六、三三三	二、〇五、六七五	二、九五二、〇〇八	三、三三、三三三	一、〇五、六七五	四、三八、〇〇八	七、三四、〇一六
九月	六、七二、二四八	二、〇五、六七五	八、七八、九二三	三、三三、三三三	一、〇五、六七五	四、三八、〇〇八	一三、一六、九三一
十月	六、八五、九四三	三、四三、〇〇〇	一〇、二九、九四三	三、三三、三三三	一、〇五、六七五	四、三八、〇〇八	一四、三三、九五一
十一月	七、三五、二四四	三、四三、〇〇〇	一〇、七八、二四四	三、三三、三三三	一、〇五、六七五	四、三八、〇〇八	一四、九二、二五二
十二月	八、三六、六六六	三、四三、〇〇〇	一一、七九、六六六	三、三三、三三三	一、〇五、六七五	四、三八、〇〇八	一六、一七、六七四
合計	三三、三三、九一八	一三、七二、三五〇	四七、〇五、二六八	一三、三三、三三二	四、二三、七〇〇	一七、五三、〇三二	六四、五八、三〇〇

第六節　神戸港貿易額と本邦貿易額との比較表

年次	輸出 本邦各港	輸出 神戸港	輸出 全輸出額に對する神戸の割合	輸入 本邦各港	輸入 神戸港	輸入 全輸入額に對する神戸の割合	合計 本邦各港	合計 神戸港	合計 全輸出入額に對する神戸の割合
明治三十三年	三一、三一、一三五円	一四、九二、九三九円	四三、三五	三一、三一、一三五円	一四、九二、九三九円	四三、三五	六二、六二、二七〇円	二九、八五、八七八円	四三、三五
明治三十四年	八、四六、六八二	六、九一、七一〇	八一、三五	一、九三、三五八	一、四三、〇九五	七四、三五	一〇、三六、〇四〇	八、三五、八〇五	八〇、三五
明治三十五年	三、三六、三四一	一、四三、〇〇〇	四三、三五	三、三三、三三三	一、〇五、六七五	四三、三五	六、六九、六七四	二、四八、六七五	四三、三五
明治三十六年	二、三六、六六六	一、四三、〇〇〇	六二、三五	三、三三、三三三	一、〇五、六七五	四三、三五	五、六九、九九九	二、四八、六七五	四三、三五
明治三十七年	一、九三、三三三	一、四三、〇〇〇	七四、三五	三、三三、三三三	一、〇五、六七五	四三、三五	五、二六、六六六	二、四八、六七五	四三、三五

年次	神戸港輸出			本邦輸出		
	横濱價額	同上に對する神戸の割合	全國に對する横濱の割合	横濱價額	同上に對する神戸の割合	全國に對する横濱の割合
明治七年	千円 一九三七	四	一八	千円 三四〇	四	九
明治十二年	二八一七	四	一〇	七〇一五	一〇	三八
明治十七年	三六八二	四	一〇	九二一〇	一二	三八
明治二十二年	七〇〇三	四	一〇	一五三二	一二	四六
明治二十七年	一三二六	四	一〇	二五四八	一二	四六
明治二十八年	一三六二	四	一〇	二五八〇	一二	四六
明治二十九年	一七八三	四	一〇	三四〇七	一二	四六
明治三十年	一五九八	四	一〇	三〇九二	一二	四六
明治三十一年	二二七六	四	一〇	四三六七	一二	四六
明治三十二年	二一四五	四	一〇	四一七八	一二	四六
明治三十三年	一九〇三	四	一〇	三六〇五	一二	四六
明治三十四年	二三八三	四	一〇	四七一八	一二	四六
明治三十五年	二九三〇	四	一〇	五八五八	一二	四六
明治三十六年	二九五三	四	一〇	五八五八	一二	四六
明治三十七年	三二六〇	四	一〇	六二一二	一二	四六

第七節　神戸横濱兩港貿易品價額比較表

年次	輸出				輸入				合計			
	横濱價額	同上に對する神戸の割合	全國に對する横濱の割合		横濱價額	同上に對する神戸の割合	全國に對する横濱の割合		横濱價額	同上に對する神戸の割合	全國に對する横濱の割合	
明治十年	千円 一九二六	四	一八		千円 三四〇七	四	一〇		千円 五三三三	四	一二	
明治十五年	二九一二	四	一〇		四七一〇	四	一〇		七六二二	四	一〇	
明治二十年	三八一二	四	一〇		五四八二	四	一〇		九三〇四	四	一〇	
明治二十五年	五〇五八	四	一〇		七四一八	四	一〇		一二四七六	四	一〇	
明治二十六年	四九〇三	四	一〇		七四一八	四	一〇		一二四二一	四	一〇	
明治二十七年	五八七六	四	一〇		八四一八	四	一〇		一四〇五四	四	一〇	
明治二十八年	六二一〇	四	一〇		九〇一八	四	一〇		一五二二八	四	一〇	
明治二十九年	七三二二	四	一〇		一〇四一八	四	一〇		一七七四〇	四	一〇	
明治三十年	七〇九二	四	一〇		一〇一一八	四	一〇		一七二一〇	四	一〇	
明治三十一年	八四六七	四	一〇		一二一一八	四	一〇		二〇五八五	四	一〇	
明治三十二年	八一七八	四	一〇		一一七一八	四	一〇		一九八九六	四	一〇	
明治三十三年	六九〇五	四	一〇		九九一八	四	一〇		一六八九三	四	一〇	
明治三十四年	八五一八	四	一〇		一二二一八	四	一〇		二〇七三九	四	一〇	
明治三十五年	九〇五八	四	一〇		一三〇一八	四	一〇		二二〇七六	四	一〇	
明治三十六年	九〇五八	四	一〇		一三〇一八	四	一〇		二二〇七六	四	一〇	
明治三十七年	八七九六	四	一〇		一二六一八	四	一〇		二一四七四	四	一〇	

第八節　神戸港輸出入品價額國別十年間一覽表

國別	年次	明治廿八年	明治廿九年	明治三十年	明治三十一年	明治三十二年	明治三十三年	明治三十四年	明治三十五年	明治三十六年	明治三十七年
支那	輸出	千円 一九八五七	二八一二	三四〇二	四二一〇	三八一二	四〇一二	四〇一二	四〇一二	四〇一二	四〇一二
	輸入	一九八四二	二八一二	三四〇二	四二一〇	三八一二	四〇一二	四〇一二	四〇一二	四〇一二	四〇一二
	合計	三九八九九	五六二四	六八〇四	八四二〇	七六二四	八〇二四	八〇二四	八〇二四	八〇二四	八〇二四
韓國	輸出	一七二一	二四一	二九一	三六一	三二一	三四一	三四一	三四一	三四一	三四一
	輸入	一七二一	二四一	二九一	三六一	三二一	三四一	三四一	三四一	三四一	三四一
	合計	三四四二	四八二	五八二	七二二	六四二	六八二	六八二	六八二	六八二	六八二
英領印度	輸出	一八九八二	二六五一	三二〇一	三九九一	三五二一	三七四一	三七四一	三七四一	三七四一	三七四一
	輸入	一八九八二	二六五一	三二〇一	三九九一	三五二一	三七四一	三七四一	三七四一	三七四一	三七四一
	合計	三七九六四	五三〇二	六四〇二	七九九二	七〇四二	七四八二	七四八二	七四八二	七四八二	七四八二
香港	輸出	一一二九二	一五七一	一八九一	二三六一	二〇八一	二二一一	二二一一	二二一一	二二一一	二二一一
	輸入	一一二九二	一五七一	一八九一	二三六一	二〇八一	二二一一	二二一一	二二一一	二二一一	二二一一
	合計	二二五八四	三一四二	三七八二	四七二二	四一六二	四四二二	四四二二	四四二二	四四二二	四四二二
佛國	輸出	一四三九八	二〇〇一	二四一一	三〇一一	二六五一	二八一一	二八一一	二八一一	二八一一	二八一一
	輸入	一四三九八	二〇〇一	二四一一	三〇一一	二六五一	二八一一	二八一一	二八一一	二八一一	二八一一
	合計	二八七九六	四〇〇二	四八二二	六〇二二	五三一二	五六二二	五六二二	五六二二	五六二二	五六二二
獨逸國	輸出	一〇九八二	一五二一	一八三一	二二九一	二〇二一	二一四一	二一四一	二一四一	二一四一	二一四一
	輸入	一〇九八二	一五二一	一八三一	二二九一	二〇二一	二一四一	二一四一	二一四一	二一四一	二一四一
	合計	二一九六四	三〇四二	三六六二	四五八二	四〇四二	四二八二	四二八二	四二八二	四二八二	四二八二
米國	輸出	一八九八二	二六五一	三二〇一	三九九一	三五二一	三七四一	三七四一	三七四一	三七四一	三七四一
	輸入	一八九八二	二六五一	三二〇一	三九九一	三五二一	三七四一	三七四一	三七四一	三七四一	三七四一
	合計	三七九六四	五三〇二	六四〇二	七九九二	七〇四二	七四八二	七四八二	七四八二	七四八二	七四八二
其他	輸出	一八九八二	二六五一	三二〇一	三九九一	三五二一	三七四一	三七四一	三七四一	三七四一	三七四一
	輸入	一八九八二	二六五一	三二〇一	三九九一	三五二一	三七四一	三七四一	三七四一	三七四一	三七四一
	合計	三七九六四	五三〇二	六四〇二	七九九二	七〇四二	七四八二	七四八二	七四八二	七四八二	七四八二

		明治二十八年	二十九年	三十年	三十一年	三十二年	三十三年	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年
比律賓群島	輸出	三九八、七四九	三八八、三六八	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
	輸入	三四〇、〇四九	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
露領亞細亞	輸出	三六八、七四九	三六八、三六八	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
	輸入	三四〇、〇四九	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
墺地利	輸出	三四二、九四二	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
	輸入	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
白耳義	輸出	九四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
	輸入	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
佛蘭西	輸出	三六八、七四九	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
	輸入	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
獨逸	輸出	三六八、七四九	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
	輸入	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
英吉利	輸出	三六八、七四九	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
	輸入	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
和蘭	輸出	三六八、七四九	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
	輸入	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
伊太利	輸出	三六八、七四九	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
	輸入	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
瑞西	輸出	三六八、七四九	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
	輸入	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
北米合衆國	輸出	三六八、七四九	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
	輸入	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
英領亞米利加	輸出	三六八、七四九	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
	輸入	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
墨太剌利	輸出	三六八、七四九	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
	輸入	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
布哇	輸出	三六八、七四九	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
	輸入	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
埃及	輸出	三六八、七四九	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
	輸入	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
英領海峽殖民地	輸出	三六八、七四九	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
	輸入	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
露領亞細亞	輸出	三六八、七四九	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
	輸入	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
佛領印度	輸出	三六八、七四九	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
	輸入	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
其他諸國	輸出	三六八、七四九	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇
	輸入	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇	四四二、三四〇

一、其他諸國とは英領海峽殖民地、佛領印度、墨國、埃及其他を云ふ

而して明治三十七年度の國別價額にして前表中に漏れたるものゝ表中已に揭げたるものゝを併せ其輸出輸入額が各國如何なる割合に位すべきかを一目瞭然たらしめんが爲め重複を厭はず更に下に於て各別に其價額の多きものより順次之を列記して讀者の一覽に供せん。

明治三十七年度神戸港輸出入品國別價額順

輸出之部		輸入之部	
支那	三、三四八、〇八八	英領印度	四、〇〇五、一九九
北米合衆國	一、六二五、三四〇	支那	一、四一一、四四〇
香港	一、四三八、一九〇	英吉利	一、三三八、八八九
英吉利	一、三三八、八八九	北米合衆國	一、二三三、〇一一
英領印度	一、二三三、〇一一	獨逸	一、一〇五、三五六
墨太剌利	一、一〇五、三五六	佛領印度	一、〇五二、一四四
佛蘭西	一、〇五二、一四四	瑞西	一、〇一二、一四四
獨逸	一、〇一二、一四四	佛蘭西	一、〇一二、一四四

第九節　拾萬圓以上の神戸港輸出入品目と其の價額

輸出之部（自明治三十四年至明治三十七年四ヶ年間）

品目	明治三十四年	明治三十五年	明治三十六年	明治三十七年
茶（銅焙の）	一、七四四、五八六円	二、〇五九、一三四円	二、四三四、五五二円	四、一六六、五二三円
同（籠焙の）	四五五、九二九	一、六二一、二四四	一、六二三、六二一	一、九一三、九九九
紅茶	六二、七三三	一、六八六、八二一	二、九九、四二一	一〇二、四四四
粉末茶	八〇、五四六	八九、四二一	一、四六、三七一	—
玄米	四、八六、三〇〇	三、〇五五、三八〇	三、八三、九八八	三、八三、九八八
精米	一、二五、三五一	一、一一、五七一	一、一一、五七一	一、一一、五七一
鰯	三五、九六八	五五、六二一	六五、六二一	六五、六二一
其他の乾魚類魚	一五五、〇八六	一、六〇、八二一	一、七四、〇〇九	—
寒天	九二、六七四	九五、四三三	一、七七、八六四	一、七七、八六四
銀	二五〇、三五四	二六一、九八四	三四四、三五四	三一五、〇四四
昆布	一五五、一四六	八四、一九一	八一、八五一	三一五、〇四四
刻昆布	九四、九二一	一〇一、一六四	二〇、三五一	三一五、〇四四
醤油	—	一四八、八六二	一四八、八六二	三一五、〇四四
乾鰯	二一、三四一	二六、一〇六	八〇、〇九九	—

品目	明治三十四年	明治三十五年	明治三十六年	明治三十七年
參酒	二五六、四八六	三五六、四三四	三五六、四三四	三五六、四三四
酒	三五六、四三四	三五六、四三四	三五六、四三四	三五六、四三四
硝水	一〇五、一四二	一、六八六、四三四	一、六八六、四三四	一、六八六、四三四
椎茸	四〇、六一〇	四一、三四八	六八、三四八	六八、三四八
鮑其他貝類	七六、九三五	一〇五、九八四	一、三五、九八四	一、三五、九八四
各種鈕釦	一三二、八四〇	一三五、八六四	一、六五、八六四	三〇五、三一三
綿メリヤス肌衣	一三三、五七六	一三五、八六四	一、六五、八六四	三一五、〇四四
靴足袋	八四、四二五	九〇、四〇五	一〇六、一一四	—
桴	三六、九六、八一〇	三四、四三、八六八	三一、六二、七二九	三一、六二、七二九
桴材	三五

玩具	三三、七九四	三三、七九四	三六八、三五九	三六八、三五九	算盤及其他器械	一四、二四一	一四、二四一	六八、二四五	六八、二四五
洋傘	七七、二五五	六九三、六八	七〇三、四五五	八九八、七五九	綿絲紡績機	六三、七一〇	二一四、六三一	三四、六三一	二六、一六三
傘柄及傘手	三一、四三五	四五、一二五	一三〇、四三五	一三〇、四三五	綿布製織機	三六八、七一〇	三四、六三一	三四、六三一	一、六〇〇
汽船及帆船	六、一〇〇	二四六、三五六	一、六〇〇	一、六〇〇	汽罐汽機及同部分品	四八、九六八	三四、六三一	三四、六三一	一、六〇〇
柳行李	—	三四、六三五	一四〇、七五五	一四〇、七五五	他の諸器械	—	三四、六三一	三四、六三一	一、六〇〇
藺田	—	三九八、三五五	一四〇、八七七	一四〇、八七七	銀製懐中時計	三六、九三二	三四、六三一	三四、六三一	一、六〇〇
藺葉木片	—	三九、三五〇	一三三、八七七	一三三、八七七	乳膏	三四八、二九八	三四、六三一	三四、六三一	一、六〇〇
木製品	—	三九、三五〇	一三三、八七七	一三三、八七七	生卵	三四〇、三四二	三四、六三一	三四、六三一	一、六〇〇
其他諸品	—	—	一二九、〇一四、三五六	一二九、〇一四、三五六	參粉	三六九、三五八	三四、六三一	三四、六三一	一、六〇〇
以上内國産					朝子	一四、三五八	一四、三五八	三四、六三一	一、六〇〇
米	七六、三五四	三五、七五四	一、八三六、四五四	一、八三六、四五四	肩衣	一三、三六八	一三、三六八	三四、六三一	一、六〇〇
其他穀物及種子	一二、四二一	一二〇、四〇	一三三、七三五	一三三、七三五	酒精	八九、〇四〇	八九、〇四〇	三四、六三一	一、六〇〇
粗綿	八三六、二四〇	一三三、七三五	六八、六八〇	六八、六八〇	石炭酸	四一、七四五	一〇、六八四	一〇、六八四	一、六〇〇
ゴンニー袋	三三、四四八	一三四、四五八	一三四、四五八	一三四、四五八	倘里酸林	一〇八、七四五	一〇、六八四	一〇、六八四	一、六〇〇
以上外國産再輸出					撒里矢爾酸	八九、三四五	一三四、四五八	一三四、四五八	一、六〇〇
輸入之部（自明治三十四年至明治三十七年四ヶ年間）					赤燐	三六、二五三	二六、三四〇	二六、三四〇	一、六〇〇
品目	明治卅四年	明治卅五年	明治卅六年	明治卅七年	黄燐	六八、九五四	一四、三五八	八九、三四五	一、六〇〇
	円	円	円	円	格魯兒酸剝篤亞斯	三〇、三五五	三一、七〇八	一四、三五八	一、六〇〇
農具工匠具及同部分品	九三、九八八	二八、三五八	六七、六五八		曹達及氷	三四、三五五	三四、六三一	三四、六三一	一、六〇〇
電機發動器	二三、四五	二二、七一七	一九、四〇三		重炭酸曹達	四四、〇三五	三四、六三一	三四、六三一	一、六〇〇
電燈器械及同分部品	三九、七五五	四四、〇三五	三四、六三一		苛性曹達	一〇一、〇五九	三四、六三一	三四、六三一	一、六〇〇
消防器ポンプ及同部分品	一二五、三七	三四、六三一	九一、二五九		アニリン染料	三四、六三一	三四、六三一	三四、六三一	一、六〇〇
起重機	三一〇、六九	三四、六三一	三三、七八一						
鐵道機關車及同部分品	九三、四五九	三四、六三一	四八、八五九						

金液銀液及白金液	七、一〇六	一〇、六八四	—	—	鐵及軟鋼板（波形の）	一三、八一八	一三、六八四	一〇、六八四	一〇、六八四	八九三、七九七	八九三、七九七
乾藍	一〇六、一三五	一三、六八四	一三、六八四	一三、六八四	（電鍍の）	三九、三五一	三四、六三一	三四、六三一	三四、六三一	四一、三四〇、六六八	四一、三四〇、六六八
ロクウード越幾斯	一〇、三五八	一四、六三五	三四、六三一	三四、六三一	同軌條	三四四、九三五	三四、六三一	三四、六三一	三四、六三一	六四四、三五六	六四四、三五六
色油	一二、六八八	一〇四、三五六	一四、三三五	一四、三三五	同附屬品	六六、七三	三四、六三一	三四、六三一	三四、六三一	—	—
鯨ガラス	六六四、九四一	九一、五四九	三四、六三一	三四、六三一	同筒及管	三四九、三四九	三四、六三一	三四、六三一	三四、六三一	三四、八五六	三四、八五六
プレート玻璃片	二三九、八九八	一四、六三五	三四、六三一	三四、六三一	釘	六八、一〇六、六三	一〇一、三五八	一四、六三五	一四、六三五	一二四、六〇〇	一二四、六〇〇
大豆	一、八一、八六	一四、六三五	三四、六三一	三四、六三一	業鐵及業鋼	六二四、九三一	三四、六三一	三四、六三一	三四、六三一	—	—
其他の豆類	一一〇、九二一	四〇、四〇五	一〇四、〇一一	一〇四、〇一一	螺旋釘及鉚螺旋釘	一二九、八三九	一〇〇、九三五	一四、六三五	一四、六三五	—	—
米	四四〇、三五五	三三、六三五	三三、六三五	三三、六三五	線及細竿	一二〇、三五一	一四四、四三五	三四、六三一	三四、六三一	—	—
棉子	三四、六三五	七三、七一九	九、三四五	七三、〇三五	電線	三四四、三四三	一四四、〇一〇	三四、六三一	三四、六三一	—	—
胡麻子	四〇、八五五	一八、〇三五	六〇、八五五	一四、六三五	錨及鎖鏈	九四、三五五	一四、六三五	三四、六三一	三四、六三一	—	—
小麥	三四、三四一	九、三三一	三四、六三一	三四、六三一	橋梁其他建築用材	六〇四、二九一	一四〇、三五五	三四、六三一	三四、六三一	一九、三五七	一九、三五七
其他の穀物及種子	四四四、三六	三九、四三五	三四、六三一	三四、六三一	（鋼條竿及板	三九、四三五	一四、六三五	三四、六三一	三四、六三一	三四、三五五	三四、三五五
獸骨	九六、四五八	一一、六三五	三四、六三一	三四、六三一	（軟鋼にあらざるもの）						
牛皮及水牛皮	一七、四四〇	一四、一〇三五	一四、六三五	一四、六三五	管眞鍮	一二四、六〇五	四一、一四四	三四、六三一	三四、六三一	—	—
羔皮	一四〇、〇八一	一二、四一八	三四、六三一	三四、六三一	安質母尼	—	一〇、六八四	三四、六三一	三四、六三一	—	—
羊皮	—	一四、六三五	一四、六三五	一四、六三五	管銅	一〇〇、四八	九、六八四	三四、六三一	三四、六三一	—	—
他の諸熟皮	一三、六八一	一四、六三五	一四、六三五	一四、六三五	鉛（塊及錠）	三六、三五四	一四、六三五	三四、六三一	三四、六三一	—	—
豚毛（ブラッシ用）	一三五、四〇一	一三、六八一	一四、六三五	一四、六三五	水銀	八、三五六	一四〇、四五	三四、六三一	三四、六三一	—	—
鐵及軟鋼塊	一〇、六八四	一四、六三五	一四、六三五	一四、六三五	曝硝石	一四、三四一	一四、六三五	三四、六三一	三四、六三一	—	—
同條及竿	一〇、六八四	一四、六三五	一四、六三五	一四、六三五	錫（塊及錠）	三六、三五一	一四、六三五	三四、六三一	三四、六三一	—	—
同板	九六、三五七	一三、六八一	一四、六三五	一四、六三五	錫葉	一〇一、四八〇	一三、六八一	一四、六三五	一四、六三五	—	—
					亞鉛塊及錠	一四、六三五	一四、六三五	一四、六三五	一四、六三五	—	—

亞鉛板	四七〇	一四三三	綿フランネル	一九五	四四四〇	三六〇	三六四〇
同（二號）	三〇〇	六六三〇	更紗	三四八	一六三九	一三六	一三九五
同（波）	九〇	三三〇	綿絹子	一一八	三〇〇	一〇〇	一〇〇
椰子油	三六	一二六	綿天鵞絨	三一〇	一五六	一四	一四〇
石油鑵入	五六八三	一四〇六	生金巾	七四	一五六	一四	一四〇
亞麻子油	五六	一六	晒金巾	二八	一四	一	一四
機械用油	一〇	三	綾金巾	三四	一四	一	一四
無味香蝋	五六	一八	絣金巾	八〇	三六	一	三六
板紙	三四	一四	傘用綿布	一	一	一	一
煙草用紙	二	一	蚊帳冷紗	六	二	一	二
陸飾紙	八	三	羊毛絲	四九	二〇	一	二〇
擬造日本紙	一	一	毛フランネル	五	二	一	二
同鳥ノ子紙	三	一	フランネル（生地及白色のもの）	三	一	一	一
マッチ用紙	三	一	イタリアン、クロース	一	一	一	一
印刷料紙	三	一	綿絨	三	一	一	一
包裝用紙	一三	五	セルヴァス	一〇	五	一	五
鉛筆	六	二	羅紗	六	二	一	二
各種砂糖（精製共）	八九八	三五〇	毛絲羅紗	二	一	一	一
糖蜜	四二	一七	絣絲	一四	六	一	六
生絲	八四	三八	絹絲	三	一	一	一
絹絲	九	四	絹絲天鵞絨	三	一	一	一
絹絲	九	四	寺院用麻織物	九	四	一	四
綿糸	三	一					

綿フランネル	一九五	四四四〇	三六〇	三六四〇			
更紗	三四八	一六三九	一三六	一三九五			
綿絹子	一一八	三〇〇	一〇〇	一〇〇			
綿天鵞絨	三一〇	一五六	一四	一四〇			
生金巾	七四	一五六	一四	一四〇			
晒金巾	二八	一四	一	一四			
綾金巾	三四	一四	一	一四			
絣金巾	八〇	三六	一	三六			
傘用綿布	一	一	一	一			
蚊帳冷紗	六	二	一	二			
羊毛絲	四九	二〇	一	二〇			
毛フランネル	五	二	一	二			
イタリアン、クロース（生地及白色のもの）	三	一	一	一			
綿絨	三	一	一	一			
セルヴァス	一〇	五	一	五			
羅紗	六	二	一	二			
毛絲羅紗	二	一	一	一			
絣絲	一四	六	一	六			
絹絲	三	一	一	一			
絹絲天鵞絨	三	一	一	一			
寺院用麻織物	九	四	一	四			

葉煙草	二八一三	七五〇五					
セリユロイド	一九二	一二五					
硫酸安母紐謨	一九二	一二五					
石炭	五八六三五	四六八〇					
豆糟	三五五六	二八四二					
魚其他糟	三五五六	二八四二					
油糟	三四四二	二九四二					
蓼	九八二	六八四					
燐酸肥料	四一〇三	三五六五					
ボルプ（製紙料）	八二六〇	四四二七					
故綿及屑綿	二三二	八一〇五					
チーキ材	三五九四	二四五七					
他の木材板	一〇〇五八	六六八七					
自轉車及部分品	一三〇四	八三七					
機械用帶及管	九四五	六四五					
鐵道貨車及部分	三九四五	二六三〇					
海底及地下電線	一一〇五	七三八					
阿膠	一九四	一四三					
ゴンニー麥	三四八	二三六					
包	一九八	一三二					
パッキング（汽機用の）	三八四	二五七					
化粧石鹸	三八六	二四八					

汽船	一	六三五〇	四二九三	一			
其他諸品	一	一	一	三七二四六三			
以上外國產							
絹絲	一	一四〇五	一〇三三	一			
以上內國產再輸入							

第十節　神戸港重要輸出品中九品生產地割合別

（明治三十六年分）

燐寸	兵庫縣	七七〇	大阪府	一三〇	廣島縣	〇一〇	
	計					一〇〇〇	
麥稈眞田	岡山縣	四三〇	香川縣	一〇〇	愛知縣	一三〇	
	廣島縣	〇六〇	高知縣	〇四〇	山口縣	〇三〇	
	兵庫縣	〇三〇	大分縣	〇一〇	其他諸縣	〇三〇	
	計					一〇〇〇	
花莚	岡山縣	三四〇	廣島縣	一三〇	福岡縣	一三〇	
	福井縣	〇四五	大分縣	〇〇六	香川縣	〇一一	
	其他諸縣	〇〇五					
	計					一〇〇〇	
紙卷煙草	京都府	六六五	大阪府	一三〇	東京府	〇〇五	

米	計		一、〇〇〇
	岡山縣	四五〇	兵庫縣　一、一三〇
	大分縣	一、一五〇	香川縣　〇、四〇
	愛媛縣	〇、三五〇	高知縣　〇、三〇
綿絹絲	計		一、〇〇〇
	大阪府	三、〇〇	愛知縣　〇、六〇
	三重縣	〇、六〇	兵庫縣　一、一〇
	香川縣	〇、四〇	和歌山縣　〇、一〇
茶	計		一、〇〇〇
	三重縣	一、六〇	京都府　一、七〇
	滋賀縣	〇、五七	福岡縣　〇、五〇
	大阪府	〇、四〇	高知縣　〇、五〇
	靜岡縣	〇、三〇	石川縣　〇、二八
	和歌山縣	〇、一三	岡山縣　〇、一七
	德島縣	〇、一五	福井縣　〇、一五
	山口縣	〇、一〇	宮崎縣　〇、〇九
	計		一、〇〇〇
	愛媛縣	三一〇	嚴手縣　一、一三
	宮崎縣	一、〇〇	石川縣　〇、五五
	奈良縣	〇、六三	兵庫縣　〇、四五
	兵庫縣	〇、四〇	愛媛縣　〇、四〇
	岐阜縣	〇、三五	熊本縣　〇、一七
	大分縣	〇、一〇	長崎縣　〇、〇七
	計		一、〇〇〇
	青森縣	〇、六三	富山縣　〇、五〇
	島根縣	〇、四〇	熊本縣　一、〇〇
	高知縣	〇、一〇	岐阜縣　〇、一〇
	計		一、〇〇〇
	熊本縣	一、一〇	長崎縣　〇、五〇
	高知縣	〇、五〇	宮崎縣　〇、五〇
	和歌山縣	〇、一〇	臺灣　四、五〇
	計		一、〇〇〇
	奈良縣	〇、六三	兵庫縣　〇、四五
	福岡縣	〇、五〇	愛媛縣　〇、四〇
	石川縣	〇、二八	岐阜縣　〇、三五
	岡山縣	〇、一七	熊本縣　〇、一七
	福井縣	〇、一五	大分縣　〇、一〇
	宮崎縣	〇、〇九	長崎縣　〇、〇七
	嚴手縣	一、一三	青森縣　〇、六三
	石川縣	〇、五五	富山縣　〇、五〇

樟腦	計		一、〇〇〇
	鹿島縣	一、四〇	長崎縣　一、〇〇
	福岡縣	〇、五〇	宮崎縣　〇、五〇
	和歌山縣	〇、一〇	臺灣　四、五〇
	計		一、〇〇〇
	岡山縣	一、三〇	兵庫縣　〇、四〇
	熊本縣	〇、三〇	德島縣　〇、一〇
	奈良縣	〇、一〇	岐阜縣　〇、一〇
棉絹絲	計		一、〇〇〇
	愛知縣	〇、六〇	岡山縣　一、一〇
	兵庫縣	一、一〇	德島縣　〇、一〇
	和歌山縣	〇、一〇	臺灣　四、五〇
	計		一、〇〇〇
	京都府	一、七〇	奈良縣　〇、六三
	福岡縣	〇、五〇	兵庫縣　〇、四五
	高知縣	〇、五〇	愛媛縣　〇、四〇
	石川縣	〇、二八	岐阜縣　〇、三五
	岡山縣	〇、一七	熊本縣　〇、一七
	福井縣	〇、一五	大分縣　〇、一〇
	宮崎縣	〇、〇九	長崎縣　〇、〇七
	計		一、〇〇〇
	青森縣	〇、六三	富山縣　〇、五〇
	島根縣	〇、四〇	岐阜縣　〇、一〇
	高知縣	〇、一〇	和歌山縣　〇、一〇
	計		一、〇〇〇
	熊本縣	一、一〇	長崎縣　〇、五〇
	高知縣	〇、五〇	宮崎縣　〇、五〇
	和歌山縣	〇、一〇	臺灣　四、五〇
	計		一、〇〇〇
	奈良縣	〇、六三	兵庫縣　〇、四五
	福岡縣	〇、五〇	愛媛縣　〇、四〇
	石川縣	〇、二八	岐阜縣　〇、三五
	岡山縣	〇、一七	熊本縣　〇、一七
	福井縣	〇、一五	大分縣　〇、一〇
	宮崎縣	〇、〇九	長崎縣　〇、〇七
	嚴手縣	一、一三	青森縣　〇、六三
	石川縣	〇、五五	富山縣　〇、五〇

燐寸	計		一、〇〇〇
	陸運	汽車積	六、三三
	海運	汽船積	三、四七
	計		一、〇〇〇
	陸運	汽車積	四、七五
	海運	汽船積	五、二五
	計		一、〇〇〇
麥稈眞田	陸運	汽車積	九四三
	海運	汽船積	五七
	計		一、〇〇〇

花莚	陸運	汽車積	六、三三
	海運	汽船積	三、四七
	計		一、〇〇〇
紙卷煙草	陸運	汽車積	九四〇
	海運	舩船積	一、〇六〇
	計		一、〇〇〇
米	陸運	汽車積	四、七五
	海運	汽船積	五、二五
	計		一、〇〇〇
綿絹絲	陸運	汽車積	三、九六
	海運	汽船積	一、四五
		舩船積	四、九九
	計		一、〇〇〇
銅	陸運	汽車積	九四
	海運	汽船積	六、二八
		帆船積	三、六八
	計		一、〇〇〇
樟腦	陸運	汽車積	五、三
	海運	汽船積	九四三
	計		一、〇〇〇

備考　燐寸の汽車以外陸運は荷車に依り運輸するものなり。

第十一節　外國貿易船神戸港出入統計表

明治三十七年度月別外國貿易船出入統計表

年次	出入別	入港		出港		合計	
		隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
明治三十三年		一、三八一	二、八一六、九四九	一、三五二	二、七五二、四三一	二、七三三	五、五六九、三八〇
明治三十四年		一、四五二	三、〇〇五、九四九	一、四三三	二、九〇〇、六八八	二、八八五	五、九〇五、六三七
明治三十五年		一、五五五	三、二八四、八四〇	一、五二一	三、二三〇、五六八	三、〇七六	六、五一五、四〇八
明治三十六年		一、八〇三	三、八四〇、五八七	一、七七六	三、八〇〇、五六五	三、五七九	七、七四一、一五二
明治三十七年		一、八五二	三、八七九、四五八	一、八六六	三、八五〇、一四四	三、七一八	七、七二九、六〇二

右の内三十七年度分を月別にて示せば左の如し。

第十二節　外國貿易船神戸港出入國籍別統計表（汽船之部）

月別	入船						出船						合計
	汽船			帆船			汽船			帆船			
	大	小	計	大	小	計	大	小	計	大	小	計	
一月	一六	一〇	二六	二		二	一六	一〇	二六	二		二	五六
二月	一二	一一	二三	一		一	一二	一一	二三	一		一	四八
三月	一八	一九	三七	四		四	一八	一九	三七	一		一	七九
四月	二三	一五	三八	三		三	二三	一五	三八	二		二	八一
五月	二一	一五	三六	一		一	二一	一五	三六	一		一	七四
六月	二一	一四	三五				二一	一四	三五				七〇
七月	二一	一三	三四	二		二	二一	一三	三四	二		二	七二
八月	二三	一五	三八	三		三	二三	一五	三八	三		三	七九
九月	一九	一四	三三				一九	一四	三三				六六
十月	二二	一四	三六	二		二	二二	一四	三六	二		二	七六
十一月	一七	一四	三一	一		一	一七	一四	三一	一		一	六四
十二月	一八	一四	三二				一八	一四	三二				六四
計	二四二	一七四	四一六	二一		二一	二四二	一七四	四一六	二一		二一	八七四

國別	年別	明治三十三年			明治三十四年			明治三十五年			明治三十六年			明治三十七年		
		入	出	計	入	出	計	入	出	計	入	出	計	入	出	計
日本	噸	六三八	六三八	一二七六	七三八	七三八	一四七六	七三八	七三八	一四七六	八三四	八三四	一六六八	七六八	七六八	一五三六
	人	一四	一四	二八	一六	一六	三二	一六	一六	三二	一七	一七	三四	一四	一四	二八
埃及	噸															
	人															
英吉利	噸	九三六	九三六	一八七二	一二九六	一二九六	二五九二	一二九六	一二九六	二五九二	一〇八四	一〇八四	二一六八	一〇一〇	一〇一〇	二〇二〇
	人	一二六	一二六	二五二	一六八	一六八	三三六	一六八	一六八	三三六	一四一	一四一	二八二	一三二	一三二	二六四
支那	噸	八六八	八六八	一七三六	九三四	九三四	一八六八	九三四	九三四	一八六八	一〇〇一	一〇〇一	二〇〇二	九三四	九三四	一八六八
	人	一一二	一一二	二二四	一二一	一二一	二四二	一二一	一二一	二四二	一三〇	一三〇	二六〇	一二一	一二一	二四二
韓國	噸	二一	二一	四二	三一	三一	六二	三一	三一	六二	三一	三一	六二	三一	三一	六二
	人	三	三	六	四	四	八	四	四	八	四	四	八	四	四	八
抹丁	噸	一〇〇	一〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	二〇〇
	人	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二
和蘭	噸	二四〇	二四〇	四八〇	二四〇	二四〇	四八〇	二四〇	二四〇	四八〇	二四〇	二四〇	四八〇	二四〇	二四〇	四八〇
	人	二	二	四	二	二	四	二	二	四	二	二	四	二	二	四
佛蘭西	噸	一一二	一一二	二二四	一一二	一一二	二二四	一一二	一一二	二二四	一一二	一一二	二二四	一一二	一一二	二二四
	人	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇
獨逸	噸	一一二	一一二	二二四	一一二	一一二	二二四	一一二	一一二	二二四	一一二	一一二	二二四	一一二	一一二	二二四
	人	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二
布哇	噸															
	人															
墨國	噸															
	人															
白耳義	噸															
	人															
露西亞	噸															
	人															
瑞典	噸															
	人															
北米合衆國	噸	四二〇	四二〇	八四〇	一一〇二	一一〇二	二二〇四	一一〇二	一一〇二	二二〇四	一一〇二	一一〇二	二二〇四	一一〇二	一一〇二	二二〇四
	人	一	一	二	二	二	四	二	二	四	二	二	四	二	二	四
伊太利	噸															
	人															

國別／年別		明治三十三年		明治三十四年		明治三十五年		明治三十六年		明治三十七年	
		入	出	入	出	入	出	入	出	入	出
合計	噸	一、三三〇、一六三	一、三三〇、七三三	一、四四八、九五五	一、四四八、六四六	一、四四〇、一四三	一、四四〇、一四三	一、四八三、一〇二	一、四八三、一〇二	一、四四四、三三三	一、四四四、三三三
	隻	三、九九八	三、九九八	四、〇四三	四、〇四三	四、〇四三	四、〇四三	四、〇四三	四、〇四三	四、〇四三	四、〇四三
日本	噸	二、三三〇、七三三	二、三三〇、七三三	二、三三〇、七三三	二、三三〇、七三三	二、三三〇、七三三	二、三三〇、七三三	二、三三〇、七三三	二、三三〇、七三三	二、三三〇、七三三	二、三三〇、七三三
	隻	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八
英吉利	噸	一、三三〇、七三三	一、三三〇、七三三	一、三三〇、七三三	一、三三〇、七三三	一、三三〇、七三三	一、三三〇、七三三	一、三三〇、七三三	一、三三〇、七三三	一、三三〇、七三三	一、三三〇、七三三
	隻	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八
佛蘭西	噸										
	隻										
獨逸	噸	一、三三〇、七三三	一、三三〇、七三三	一、三三〇、七三三	一、三三〇、七三三	一、三三〇、七三三	一、三三〇、七三三	一、三三〇、七三三	一、三三〇、七三三	一、三三〇、七三三	一、三三〇、七三三
	隻	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八	一、三八八
露西亞	噸										
	隻										
北米合衆國	噸										
	隻										
伊太利	噸										
	隻										

備考　日本帆船は「ジャンク」形小帆船をも含む

同　上

（帆船之部）

國別／年別		明治三十三年		明治三十四年		明治三十五年		明治三十六年		明治三十七年	
		入	出	入	出	入	出	入	出	入	出
合計	噸	三五、六六六	三五、六六六	三六、九九八	三六、九九八	三六、八〇〇	三六、八〇〇	三六、九九八	三六、九九八	三六、八〇〇	三六、八〇〇
	隻	三五	三五	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六
日本	噸	二、三三〇	二、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇
	隻	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
英吉利	噸	三三、三三六	三三、三三六	三四、六六八	三四、六六八	三四、五〇〇	三四、五〇〇	三四、六六八	三四、六六八	三四、五〇〇	三四、五〇〇
	隻	三四	三四	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五
佛蘭西	噸										
	隻										
獨逸	噸										
	隻										
露西亞	噸										
	隻										
北米合衆國	噸										
	隻										
伊太利	噸										
	隻										

第十三節　内航船舶神戸港出入統計表

年次	入船						出船					
	汽船		帆船		小港船		汽船		帆船		小港船	
	隻	噸	隻	噸	隻	噸	隻	噸	隻	噸	隻	噸
明治三十三年	九九七	四二四、七五七	三二	三、八八	九八〇	四二七、六四五	九九七	四二四、七五七	三二	三、八八	九八〇	四二七、六四五
明治三十四年	一〇一三	四二〇、九八八	一四三	三、九〇八	一〇五六	四二四、八九六	一〇一三	四二〇、九八八	一四三	三、九〇八	一〇五六	四二四、八九六
明治三十五年	一〇四九	四二六、九八五	一四二	三、九〇五	一〇九一	四三〇、八九〇	一〇四九	四二六、九八五	一四二	三、九〇五	一〇九一	四三〇、八九〇
明治三十六年	一、一七〇	四八〇、三三	一四四	三、九三八	一、一四	四八四、二七一	一、一七〇	四八〇、三三	一四四	三、九三八	一、一四	四八四、二七一
明治三十七年	八九六	四四五、八三	一六四	四、三三	一、〇六八	四四九、一三	九〇八	四四五、八三	一六四	四、三三	一、〇六八	四四九、一三

備考

一、噸數は登簿噸に依らずして總噸數に依る以下皆同じ

二、本表中帆船は三十五年度迄は百噸以下のものは加算しあらざるも三十六年度以降に於ては之を計入したり是れ其噸數及噸數に於て著しく増加したる所以なり

次に三十七年の分を月別に區分すれば左表の如し。

同　明治三十七年度月別出入統計表

月別	入船						出船					
	汽船		帆船		小港船		汽船		帆船		小港船	
	隻	噸	隻	噸	隻	噸	隻	噸	隻	噸	隻	噸
一月	九六	四二、七二	一二	三、八八	九〇	四二、七二	九六	四二、七二	一二	三、八八	九〇	四二、七二
二月	七三〇	三三、八三〇	一三	三、九〇	八六	三三、八三〇	七三〇	三三、八三〇	一三	三、九〇	八六	三三、八三〇
三月	七三	三三、八三〇	一三	三、九〇	八六	三三、八三〇	七三	三三、八三〇	一三	三、九〇	八六	三三、八三〇

第二章　第十三節　内航船舶神戸港出入統計表

	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
	七三	七〇三	七三	七三	七三	七四	七九	六九二	七八	八九六
	三五〇三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	四六二	三五三	四八九	四八九六
	一四三	一四三	一四三	一四三	一四三	一四三	一四三	一四三	一四三	一六四三
	一〇六六	九四八	一〇四七	八七三	八六六	八六六	八九	一〇四八	八五四	一〇六八
	八五五	八六	一〇四七	八七三	八六六	八六六	八九	一〇四八	八五四	一〇六八
	三五〇七二	三五四	三五四	三五四	三五四	三五四	四六二	三五四	四八九	四八九六

鐵拐丸　所有者　兵庫縣保安號
總噸數二四噸五三　登錄明治三十四年十月十二日

隼丸　所有者　神戸桟橋株式會社
總噸數二五噸二　神戸市加納町六、一六　登錄明治三十五年一月二十一日

英航丸　所有者　攝津航業株式會社
總噸數一、四九〇噸九〇　攝津國武庫郡四宮町字三號地一、五五五　登錄明治三十五年三月二十八日

羽衣丸　所有者　三菱合資會社
總噸數三二噸三九　東京市麹町區八重洲町一、一　登錄明治三十五年四月二日

葵丸　所有者　大川大藏
總噸數二〇噸〇五　神戸市東出町二、一〇四　登錄明治三十五年五月十七日

鴎丸　所有者　日本郵船株式會社
總噸數二二噸四七　東京市麹町區有樂町一、一　登錄明治三十五年九月十六日

第一參宮丸　所有者　石崎作藏
總噸數九〇噸八八　四日市市大字高砂町六五　登錄明治三十五年十月十一日

松帆丸　所有者　兵庫縣保安號
總噸數一九六噸七九　登錄明治三十五年十月十二日

第二千代田丸　所有者　神戸水上警察署
總噸數一、三三六噸九　神戸市元町通六、二四ノ二　登錄明治三十五年十月二十一日

玄武丸　所有者　西川光之祐
總噸數六八六噸五六　淡島國淡路館區元町四八　登錄明治三十五年十月二十八日

都丸　所有者　山縣勇三郎
總噸數三七三噸七六　淡島國淡路館區元町四八　登錄明治三十六年三月九日

貫榮丸　所有者　山縣勇三郎
總噸數一五五噸二五　神戸市海岸通二、一六　登錄明治三十六年三月九日

敏馬丸　所有者　燃田清三郎
總噸數一〇三噸〇九　神戸市東川崎町二、一四　登錄明治三十六年五月五日

川崎造船所　所有者　株式會社川崎造船所
神戸市東川崎町二、一四　登錄明治三十六年七月十六日

川崎造船所　所有者　株式會社川崎造船所
登錄明治三十六年八月十二日

金谷丸　所有者　兵庫運輸株式會社　神戸市島上町番外一〇　大阪市西區四道頓堀通二、六七
總噸數六六噸〇五　登錄明治三十六年十月二十一日

生田丸　所有者　株式會社生田商會　神戸市海岸通二、二　登錄明治三十六年十一月十三日
總噸數六九一噸二六

富美丸　所有者　三上豊夷　神戸市中山手通四、二四　大阪市西區江戸堀南通二、九二
總噸數二、〇七九噸六八　所有者　田中省三　登錄明治三十七年四月四日

和歌丸　所有者　絹川安松　神戸市東出町二、一一六
總噸數七八四噸九八　登錄明治三十六年十二月十一日

瑞軒丸　所有者　高德藤五郎　神戸市古湊通二、一二三ノ一
總噸數四八噸七三　登錄明治三十七年四月十二日　長門國豐浦郡長府村大字豐浦村二、八四一

操江號　所有者　兵庫縣長谷川銈五郎　神戸市東出町二、一一四
總噸數三六三噸一七　登錄明治三十六年十二月十六日

滿珠丸　所有者　長谷川銈五郎　加賀國江沼郡瀨越村二三ノ九三
總噸數一、六六一噸三二　登錄明治三十七年四月二十日

高雄丸　所有者　廣海二三郎　神戸市東川崎町二、一四
總噸數三、一五二噸　登錄明治三十七年二月六日

明石丸　所有者　株式會社川崎造船所　加賀國江沼郡瀨越村二三九ノ九三
總噸數二五噸一一　登錄明治三十七年四月二十一日

御吉野丸　所有者　廣海二三郎　四日市市大字北條町五一
總噸數三、七〇六噸七九　登錄明治三十七年三月八日

小雛丸　所有者　加藤善四郎　神戸市東川崎町二、一四
總噸數三、一九二噸六九　登錄明治三十七年四月二十二日

湊丸　所有者　株式會社川崎造船所　神戸市東川崎町二、一四
總噸數三一總四七　登錄明治三十七年三月九日

榮丸　所有者　株式會社川崎造船所
總噸數二一噸三三　登錄明治三十七年四月二十九日

遼東丸　所有者　大家七平　加賀國江沼郡潮騒村二三ノ七七
總噸數二、五二一噸二　登錄明治三十七年五月十一日

古城丸　所有者　株式會社川崎造船所　神戸市東川崎町二、一四
總噸數二八噸八六　登錄明治三十七年五月十一日

生田丸　所有者　多留つね　神戸市東出町二、一〇
所有者　井上政吉　神戸市東川崎町四、二四
總噸數五一噸六一　登錄明治三十七年五月十三日

夕顏丸　所有者　平尾雅次郎　廣島市塚本町一五
總噸數二一噸五一　登錄明治三十七年五月二十六日

千珠丸　所有者　長谷川鉎五郎　長門國豐浦郡長府村大字豐浦村二、八四一
總噸數一、六八〇噸三九　登錄明治三十七年五月三十一日

舞子丸　所有者　株式會社川崎造船所　神戸市東川崎町二、一四
總噸數三二噸九四　登錄明治三十七年六月一日

率平丸　所有者　四本萬二　神戸市山本通三、一四八
總噸數三、七二三噸四五　登錄明治三十七年六月二日

日之出丸　所有者　木多半次郎　筑前國遠賀郡若松町大字若松一二三
總噸數三〇噸四四　登錄明治三十七年六月九日

飛鶴丸　所有者　水渡甚左衛門　神戸市西出町五九
總噸數三〇噸五三　登錄明治三十七年六月十日

西都丸　所有者　山田啓助　神戸市宮前町三
總噸數二九噸九三　登錄明治三十七年六月十日

勝丸　所有者　小倉庄太郎　京都市上京區寺町通二條下ル妙滿寺前町五
總噸數一、五九七噸〇七　登錄明治三十七年六月十八日

第二生田丸　所有者　株式會社生田商會　神戸市海岸通二、二
總噸數一、一五七噸四八　登錄明治三十七年七月五日

萬里丸　所有者　藤野四郎兵衛　神戸市山本通四、五
總噸數三、二三一噸〇三　登錄明治三十七年七月二十二日

第一豐貴丸　所有者　大本吉五郎　神戸市菲合町字一七七號二、一五
總噸數二五噸七六　登錄明治三十七年七月二十六日

第二多聞丸　所有者　八馬兼介　攝津國武庫郡西宮町內濱久保町四九
總噸數二、一三六噸〇七　登錄明治三十七年九月二十九日

三保丸　所有者　三菱合資會社　東京市麹町區八重洲町一、一
總噸數三八噸七五　登錄明治三十七年八月六日

豐富丸　所有者　間瀨秀太郎　尾張國知多郡半田町字北條九三
總噸數二、四四四噸六五　登錄明治三十七年十月八日

高尾丸　所有者　高尾要介　神戸市山本通四、一二九
總噸數二二噸五四　登錄明治三十七年八月二十四日

第一共榮丸　所有者　矢崎常三郎　加賀國江沼郡潮騒村二三ノ九三
總噸數二、三三二噸六七　登錄明治三十七年十月十三日

江戸丸　所有者　廣海二三郎　大阪市西區立賣堀南通六、二五
總噸數三、二二一噸八三　登錄明治三十七年九月二日

太和丸　所有者　大坪嘉太郎　大阪市四區立賣堀北通六、五九
總噸數一、五一九噸九九　登錄明治三十七年十月十九日

大山丸　所有者　大西爲助　神戸市加納町一、一五
總噸數二〇二噸二二　登錄明治三十七年九月五日

第二率平丸　所有者　川崎芳太郎　神戸市菲合町字一四四號二、一一五
總噸數四、三六七噸九五　登錄明治三十七年十月二十日

第二豐貴丸　所有者　大本吉五郎　神戸市中山手通四、一八ノ一
總噸數三一噸九四　登錄明治三十七年九月十六日

新運丸　所有者　山口辰之助　伊豫國越智郡波止濱村大字波止濱一九七
總噸數二一噸一七　登錄明治三十七年十月二十五日

樺太丸　所有者　八木龜三郎　神戸市加納町一、一五
總噸數二、八九五噸三　登錄明治三十七年九月二十日

第三率平丸　所有者　川崎芳太郎
總噸數一、九七九噸六六　登錄明治三十七年十二月一日

乾　坤　丸　神戸市戸兵庫淡町一、一八一
総噸数二、七八七噸三四　登録明治三十七年十二月二日
所有者　乾　新兵衛　現　喜　丸　備前國邑久郡美和村大字東須恵八八
総噸数一六一噸〇八　登録明治三十三年九月二十七日
所有者　池畑喜幸太

第三辰丸　武庫郡四宮町三號地一、五五五
総噸数二、〇一二噸八七　登録明治三十七年十二月二十八日
所有者　攝津航業株式會社　第六明治丸　神戸市関屋町一〇
総噸数六八噸三五　登録明治三十三年十一月九日
所有者　山口利兵衛

錦生丸　神戸市榮町通一、一七
総噸数一、四二七噸七五　登録明治三十七年十二月二十八日
所有者　呉錦堂　住吉丸　神戸市新在家町九四
総噸数八七噸三六　登録明治三十三年十一月二十九日
所有者　入江たつ

帆船之部

第十一號住吉丸　神戸市海岸通五、一四
総噸数八六噸七五　登録明治三十三年六月十五日
所有者　入江午吉　明悦丸　神戸市新在家町九四
総噸数九三噸一八　登録明治三十三年十二月六日
所有者　山野井喜代造

観音丸　神戸市海岸通五、一四
総噸数九〇噸〇九　登録明治三十三年六月十八日
所有者　山野井嘉代造　住吉丸　神戸市新在家町九四
総噸数一一四噸一五　登録明治三十四年二月二十一日
所有者　入江たつ

航榮丸　神戸市東出町二、五六
総噸数一八四噸五三　登録明治三十三年八月二十一日
所有者　川西善右衛門　第三貫榮丸　神戸市海岸通二、一六
総噸数六四噸六七　登録明治三十四年四月十三日
神戸市東出町四
所有者　川西龜太郎　運精丸　神戸市島上町番外一〇
総噸数二六噸二三　登録明治三十三年五月十四日
所有者　兵庫運輸株式會社

貫榮丸　神戸市海岸通二、一六
総噸数五七噸六八　登録明治三十四年五月三十一日
所有者　戀田清三郎　第二神祐丸　大阪市南堀江上通五、一八
総噸数一一三噸四九　登録明治三十五年四月十五日
所有者　五百井長平

神祐丸　大阪市西區南堀江上通五、一八
総噸数一一三噸一九　登録明治三十四年十月十六日
所有者　五百井長平　住吉丸　神戸市新在家町九四
総噸数一一四噸　登録明治三十五年六月十日
所有者　入江たつ

清正丸　神戸市北宮内町三九
総噸数二〇七噸三三　登録明治三十四年十二月十二日
所有者　新井清右衛門　三寶丸　神戸市島上町
総噸数一二四噸一八　登録明治三十六年五月十四日
所有者　曾根忠兵衛

新榮丸　神戸市北宮内町三九
総噸数一八〇噸　登録明治三十五年十月九日
所有者　新井清右衛門　住榮丸　神戸市島上町
総噸数六八噸四八　登録明治三十五年九月二十七日
所有者　三原勇五郎　南洋丸　神戸市島上町
総噸数一五七噸九五　登録明治三十六年十一月十三日
所有者　南洋物産合資會社

灘吉丸　所有者　高田角次郎
總噸數四四噸八四　登錄明治三十七年二月十二日　神戸市元町通三ノ二八

明徳丸　所有者　天羽兵二
總噸數一八二噸四七　登錄明治三十七年三月八日　神戸市島上町六三ノ二

大名丸　所有者　木元喜八
總噸數一五一噸〇六　登錄明治三十七年六月二十一日　神戸市島上町二六

丹久丸　所有者　黒河内丹治
總噸數一五二噸三　登錄明治三十七年八月十六日　神戸市北長狹通七、四六

第十五節　神戸港に於ける内外汽船會社と其航路

（明治三十八年二月調）

日本郵船株式會社神戸支店　海岸通一丁目　電話（五）四〇九。一、二三〇
同　神戸支店棧橋出張所　東川崎町二丁目　電話一五〇

航路

歐洲線　十二艘　毎二週一回　（明治三十八年二月現在七艘）

往航　横濱、神戸、門司、上海、香港、新嘉坡、卑南、古倫坡、蘇士、ポルトサイド、マルセイユ、倫敦、アントワープ、ミッドルスボロー間
復航　アントワープ、倫敦、ボルトサイド、蘇士、古倫坡、新嘉坡、香港、神戸、横濱間

船名　Manica.　2,619噸　Baralong.　4,187噸
Barotse.　4,122　Kintuck.　3,596
Bucentaur　1,773　Swazi.　4,940
Beira.　4,056

米國線　六艘　毎二週一回　（同　上　四　艘）

往復航共　香港、上海、門司、神戸、横濱、ヴヰクトリア、シアトル間
本線はシアトル港に於て大北鐵道に接續す

船名　神奈川丸　六、二六九噸　伊豫丸　六、三一〇噸
信濃丸　六、三六八　Minnesota.　21,000

濠洲線　三艘　毎四週一回　（同　上　休　航）

往復航共　横濱、神戸、門司、長崎、シドニー、メルボルン、木曜島、タウンスヴヰル、ブリスベーン間

横濱、孟買線　三艘　毎四週一回（同　上）

往航　横濱、神戸、門司、香港、新嘉坡、コロムボ、孟買間
復航　孟買、チュチコリン或はコロムボ、新嘉坡、香港、門司、神戸、横濱間

横濱、上海線　三艘　毎週一回雙方發　（同　上　四　艘）

往復航共　横濱、神戸、門司、長崎、上海間

船名　Wing Sang.　2,339噸　Bengloc.　3,006噸
Tai Sang.　2,383　Benvorlich　3,381

神戸浦潮斯徳線　二艘　毎二週一回雙方發　（同　上　休　航）

往復航共　神戸、門司、長崎、釜山、元山、城津、浦潮間但浦潮斯徳結氷中は城津に止め毎二週一回雙方發船

神戸韓國北清線　二艘　毎二週一回　（同　上　一　艘）

船名　薩摩丸　一、二五九噸

甲船往復共　神戸、門司、長崎、釜山、仁川、芝罘、大沽（復航寄港せず）牛莊間四週一回、但冬期は芝罘に止め三週一回雙方發

乙船往復共　神戸、門司、長崎、釜山、仁川、芝罘、大連、旅順口（復航寄港せず）大沽間四週一回、但冬期は旅順口に止め凡三週一回双方發

船名　日東丸　二、三三二噸

天津線　往復航共神戸、門司、芝罘、天津間毎一週半一回雙方發
牛莊線　往復航共神戸、門司、芝罘、牛莊間毎一週半一回雙方發
但し各線毎月一回宛往復共長崎に寄港す冬期は休航す

神戸北清線　三艘　毎週一回　（同　上　一　艘）

船名　Prometheus.　1,673噸

神戸天津線　一艘　毎月二回雙方發　（同　上　休　航）

往復航共　神戸、宇品、門司、天津間

神戸基隆線　二艘　毎月四回雙方發　（同　上　一　艘）

內二回往復航共門司寄港基隆行　內二回往復航共門司、長崎寄港基隆行

船名　薩摩丸　一、二五九噸

神戸小樽線（東廻）　七　艘　毎三日一回雙方發

往復航共　神戸、横濱、荻濱、函館、小樽間、復航三回目ニ一回宛四日市寄港

船名　神州丸　三四一九噸　神威丸　二一三九噸
Kilburn.　3.271　依姫丸　三一九九
高雄丸　三一五一　鹿兒島丸　四四〇五
Braemar.　3.601

横濱神戸小樽線（西廻）六艘　毎一週雙方發
（同上四艘）

往復航路　横濱、神戸、尾道、門司、境、敦賀、七尾（時に寄り）伏木、直江津、新潟、酒田、土崎、能代（夏期毎月一回往復）函館、小樽間（毎復航鰊津寄港）但冬期は直江津、新潟、酒田、土崎の寄港を止め爽（佐渡）舟川に寄港す

船名　千珠丸　一六八一噸　立山丸　二一七一噸
熊本丸　一九九三　築城丸　二五〇六

社船の多數は目下御用船とてし服務し居れるを以て從て航路及出帆の回數に多少の變動を來せり而して本社所有の船名及其噸數は左の如し。

安藝丸　六四四四噸　伊豫丸　六三一〇噸　阿波丸　六三〇九噸
信濃丸　六三六八　加賀丸　六三〇一　若狹丸　六二六五
備後丸　六二四七　佐渡丸　六二二七　因幡丸　六一八九
神奈川丸　六一八九　博多丸　六一八一　丹波丸　六一二四
鎌倉丸　六一二六　讃岐丸　六一一二　河内丸　六一〇一

土佐丸　五八二三　日光丸　五五三九　熊野丸　五〇七六
錫蘭丸　五〇六八　旅順丸　四八〇六　古倉母丸　四七〇九
孟買丸　四六二五　鹿島丸　四四〇五　天津丸　四一六一
春日丸　三八一〇　八幡丸　三八一七　吉林丸　三八〇八
仁川丸　三七八二　三池丸　三三六四　山口丸　三三二一
廣島丸　三一六三　松山丸　三〇九九　三河丸　二九三一
大連丸　二九二七　西京丸　二九〇四　神戸丸　二八七七
立神丸　二七〇三　博愛丸　二六三六　弘濟丸　二六三五
小倉丸　二五九六　山城丸　二六五〇　和歌浦丸　二五二七
築城丸　二五〇六　近江丸　二五〇一　横濱丸　二三七三
新潟丸　二一八四　山東丸　二〇三一　熊本丸　一九九三
營口丸　一九六六　酒田丸　一九六三　薩摩丸　一九三九
芝罘丸　一九二四　長門丸　一八六四　伏木丸　一八二九
高砂丸　一七九九　玄海丸　一四四七　兵庫丸　一四三八
住江丸　一四二五　肥後丸　一四一〇　越後丸　一一八〇
伊勢丸　一一五〇　十勝丸　一一一〇　釧路丸　一〇七六
尾張丸　一〇一六　陸奥丸　九一五　田子浦丸　七五六
日高丸　七三五　北見丸　七二九　駿河丸　七二六
北海丸　七一二

目下建造中　丹後丸　約七、一〇〇

因みに本社が政府より受け居る航路補助金は左の如し。

航路	契約滿了期	補助年額
沿海東洋線	三十八年九月	五五、〇〇〇円
濠洲線	三十九年三月	三五、六九八
孟買線	三十九年三月	一七、七五
歐洲線	四十二年十二月	二六七、六四〇
シャートル線	四十二年十二月	六四、〇三〇

大阪商船株式會社神戸支店　海岸通三丁目
電話（一三一一。一一二二）

同　兵庫出張所　島上町
電話　一七一一
（明治三十八年二月現在に據る）

航路　神戸基隆線　二艘　毎月四回
直航　往復共　神戸、門司、基隆間
（內二回は自由定期）

船名　恒春丸　二六七三噸

横濱打狗線　二艘　毎月二回
往復共　横濱、神戸、宇品、門司、長崎、基隆、澎湖島（往航のみ）安平、打狗間

船名　交通丸　一六〇四噸　日英丸　一三〇三噸
神戸打狗線　毎月一回
（自由定期）
往復共　神戸、鹿兒島、沖繩、八重山、基隆、澎湖島、安平、打狗間

船名　不定
大阪沖繩線　二艘　毎月二回
往復共　大阪、神戸、鹿兒島、大島、沖繩間

船名　大禮丸　一、二九九噸　二見丸　九三七噸
四週　大阪鹿島線　毎月二回
往復共　大阪、神戸、多度津、今治、三津濱、下關、博多、長崎三角、鹿島間

船名　不定
大阪釜山線　二艘　毎月三回
往復共　大阪、神戸、下關、博多、長崎、鎭原、釜山間

船名　不定
大阪群山線　二艘　毎週一回

往復共　大阪、神戸、門司、又は下關、厳原、釜山、馬山、木浦
群山間

船名 木浦丸 七五九噸　蒼龍號 六〇〇噸

大阪鎮南浦線　七艘　毎週三回

往復共　大阪、神戸、門司、又は下關、釜山、木浦、仁川、鎮南浦間、但冬季仁川止め

船名 義州丸 六〇三噸　Undine. 1.620噸
群山丸 七五九　安東丸 六〇三
漢城丸 一、〇一七　芙蓉丸 一、三五〇
viking. 1.420

大阪麗島線　三艘　隔日一回

往復共　大阪、神戸、細島、油津、鹿島間（五日目毎日向鹿島寄港）

船名 多摩川丸 五六五噸　信濃川丸 七〇七噸
富士川丸 五七五

大阪境線　四艘　四日目毎一回

往復共　大阪、神戸、多度津、下關、門司、仙崎、萩、江崎、濱田、温泉津、粟濱、境間、尚定期外臨時出帆久手に寄港

船名 金生丸 七八七噸　第五肱川丸 五六四噸
筑後川丸 七一〇　東照丸 六四五

大阪安來線　四日目毎一回

往航　大阪、神戸、多度津、下關、萩、須佐、濱田、温泉津、境
米子、安來、境間、尚臨時出帆往復久手に寄港
復航　境、温泉津、濱田、須佐、萩、下關、門司、多度津、神戸
大阪間

船名 不明

大阪舞鶴線　一艘　毎月三回兩地出帆

往復共　大阪、神戸、多度津、下關、門司（復復のみ）萩、濱田、境、橋津、加露、濱阪、津居山、舞鶴間

船名 金龍丸 三二噸

大阪下關線　五艘　兩地毎日一回出帆
（自由定期）

往復共　大阪、神戸、高松、多度津、牛窓、尾道、糸崎、忠海、竹原、長濱、音戸、吳、宇品、宮島、岩國、久賀、柳井、室津、三田尻、門司、下關間

船名 利根川丸 六五五噸　幸成丸 五九三噸
大井川丸 六五三　加茂川丸 四三一
天龍川丸 五三一

大阪宿毛線　三艘　毎奇日大阪出帆

往復共　大阪、神戸、高松、多度津、今治、三津濱、長濱、日出、別府、大分、佐賀關、八幡濱、川ノ石、吉田、宇和島、岩松、深浦、宿毛間、但し岩松は四日目毎寄港

船名 綠川丸 四八九噸　龍田川丸 四八七噸
松山丸 三七

大阪内海線　六艘　兩地毎日一回出帆

往復共　大阪、神戸、高松、多度津、今治、三津濱、長濱、別府、大分、佐賀關、臼杵、佐伯、土々呂、細島、内海間

船名 淡川丸 四〇〇噸　萬歳丸 四三二噸
姉川丸 二七三　九共同丸 三〇七
二日向丸 二六八　大歳丸 四九二

大阪熱田線　六艘　兩地毎日一回出帆

往復共　大阪、兵庫、和歌山、湯淺、比井、御坊、印南、田邊、周參見、串本、古座、勝浦、三輪崎、木本、二木島、九鬼、尾鷲、島勝、長島、濱島、波切、鳥羽、津、四日市、熱田間

船名 神龍丸 二〇七噸　浮世丸 三五六噸
大龍丸 二六六　四平安丸 二六六
紀洋丸 二〇五　松浦丸 三五〇

大阪徳島線　二艘　兩地毎日二回出帆

往復共　大阪、兵庫、鯛島間

船名 徳島丸 三一四噸　二共同丸 二五八噸

大阪由良線　一艘　兩地毎日二回出帆

往復共　大阪、兵庫、假屋、志筑、洲本、由良間

船名 千草川丸 一六七噸　蜂須賀丸 一五一噸

大阪高松線　二艘　兩地毎日一回出帆

往復共　大阪、兵庫、郡家、都志、湊、撫養、引田、白鳥、津田
志度（往航のみ）高松間

船名 生田川丸 一六九噸　第二御莊丸 一五二噸

社船の多數目下御用船となり居れるが故從て汽船の配置航海度數等多少異動あるを免れず而して本社の所有船名竝に噸數は左の如し。

臺中丸 三、三一九噸　臺南丸 三、三一一噸　臺北丸 二、七六六噸
福岡丸 二、四四四　大貞丸 二、四一一　恒春丸 二、四七三
釜山丸 二、三〇一　大利丸 二、二四六　大吉丸 二、〇七六
臺東丸 二、〇〇九　安平丸 一、八九八　大元丸 一、八四四
基隆丸 一、八六九　大仁丸 一、八五六　明石丸 一、七七一
大義丸 一、八五六　須磨丸 一、八五〇　京城丸 一、七〇四
平壤丸 一、七〇一　大禮丸 一、七九九　舞子丸 一、七六
舞鶴丸 一、〇九九　汕頭丸 一、〇四五　二見丸 九三七
義州丸 六〇三　安東丸 六〇三　群山丸 七五九
木浦丸 七五九　隅田川丸 七四六　筑後川丸 七一〇
信濃川丸 七〇七　木曾川丸 六五五　天龍川丸 六五六

利根川丸 六五五　大井川丸 六五三　香川丸 六一三
愛媛丸 六一三　富士川丸 五七五　白川丸 五六六
多摩川丸 五六五　金龍丸 五三一　鎮西丸 五一五
朝日丸 五〇四　手取川丸 四七七　加茂川丸 四三一
姫川丸 四三〇　武庫川丸 四一七　太田川丸 四〇六
綠川丸 四〇六　龍田川丸 四〇六　湊川丸 四〇〇
永康丸 四〇一　吉野川丸 三六〇　肱川丸 三五四
豊浦丸 三三一　扶桑丸 三一八　大野川丸 三一八
德島丸 三一四　佐波川丸 三一三　保津川丸 三一一
吉田川丸 三〇九　大龍丸 二九六　姉川丸 二七三
紀摂丸 二七一　大和川丸 二六五　加古川丸 二一五
紀伊川丸 二〇九　吉井川丸 一〇八　那賀川丸 一〇六
勝浦川丸 一〇五　紀洋丸 一〇五　那智川丸 一七
龍潤丸 一七〇　豊川丸 一六九　生田川丸 一六九
瑞鷹丸 一六九　千草川丸 一六七　犀川丸 一六五
海龍丸 一五八　蜂須賀丸 一五一　名取川丸 一四八
神宮丸 一四六　勝利丸 六五　無事丸 六三
目下新造中のもの
大亨丸 一、六五〇噸　大信丸 一、三五〇噸　大智丸 一、三五〇噸

青泥窪丸二、一〇〇　開城丸 二、一〇〇　城津丸 一、一〇〇
馬山丸 一、一〇〇　未定 三三〇　未定 三三〇　未定 三三〇

因みに本社が政府より受け居る航路補助金は左の如し。

航路	契約滿了期	補助年額
神戸韓國線	三十八年九月	三〇、〇〇〇円
日本海線	三十九年三月	一四〇、〇〇〇
上海漢口線	四十年十二月	二四四、九〇三
漢口宣昌線	同上	一一〇、三九六

株式會社 **生田商會** 海岸通二丁目
近海航路なるも其航海順路回數制合等一定せず

船名 第二生田丸 一、一五七噸

谷道神戸支店扱 海岸通三丁目 電話 五九一

航路

東西廻り 各神戸小樽線 出帆割合不定
（以下皆同じ）
九州各港より内地各港及北清へ石炭運送
北清より内地各港へ米穀、雑貨、紙類運送
南清より内地各港へ米穀、雑貨運送
北海道より北清及韓國へ枕木雑貨運送
韓國より内地へ米穀運送

船名				
勝振丸	二、三二一噸	手宮丸	二、二四二噸	
空知丸	一、七七七	日勝丸	一、三五八	
日東丸	二、一三三	日英丸	二、一二四	
東英丸	二、〇〇七	日ノ丸	一、九四七	
能登丸	一、三一六	中越丸	一、一九六	
第二琴平丸	四、一〇〇	萬里丸	三、一八〇	
伊吹丸	一、〇四七	北陸丸	二、一六二	
立山丸	二、一七一	千珠丸	一、九二〇	
賴朝丸	一、〇五九	摩耶山丸	九二五	
大安丸	一、四四九	志賀浦丸	一、二一一	
第一共榮丸	二、三三一			
京幾丸	五六八	久保丸	一、九二六	
相川丸	一、三五六	勢德丸	一、四二六	
Deramore.	1.479	錦生丸	三〇四一	
Helios.	8.82	Highlander.	1.595	
		財生丸	一、九二五	

三井物産合名會社神戸支店 海岸通三丁目
電話〔一〇八。一三六。七六三

航路

自會社の貨物を運送するに使用せらるゝのみなれば從て航路一定せず

船名				
萬田山丸	四五一噸	劍山丸	四一九噸	
彦山丸	三七一三	大孤山丸	三、〇一六	
有明丸	二、九六六	長白山丸	二、〇三〇	
富士山丸	二、〇四四	愛宕山丸	二、〇四四	
阿蘇山丸	一、七〇五			

三上合資會社扱 海岸通三丁目
電話〔一、三一四
一、五一四

航路

神戸門司間

船名				
泰盛丸	一六四噸			

神戸、安來間

船名				
吉野丸	四九一	宗信丸	二四四噸	

神戸、若津間

船名				
常盤丸	四六四	壽丸	三七一	

神戸、若津及北海間
船名 幸光丸 五四六噸 松前丸 六二八噸
神戸、北海間
船名 羽後丸 二、三〇〇 金喜丸 一、四四〇
神戸、釜關間
船名 錦龍丸 六六〇 笛島丸 一、六〇三
神戸、若津間及北海近海
和歌丸 七八四
船名 浦門丸 三二八 長成丸 七〇三
天祐丸 清德丸 三七八
甲辰丸 三五八
不定
船名 駿河丸 七五五 大洲丸 一、四五三
依姫丸 仁義丸 一、六七二
第四仁義丸

神戸送迎株式會社扱　第三波止場稅關構内　電話 一二三

航路
宇和島航路　隔日出帆
神戸、高松、多度津、今治、三津濱、門司、下關、博多、唐津、呼子、伊萬里、平戸、佐世保、島原、長崎、三角、若津間
佐賀關、川口、八幡濱、安土（月に六回）吉田、宇和島間
船名 第二宇和島丸 三五〇噸 第三宇和島丸 二九七噸
第四同 上 三七二 第五同 上 三七〇
第六同 上 四四四 第七同 上 四三四
土佐航路　毎日一回
神戸、浦戸間直行
船名 新高知丸 四七三噸 土州丸 四〇六噸
九十九丸 一七三
沖繩航路　二十日目毎一回
神戸、鹿島、大島、沖繩間
船名 廣運丸 一、三二二噸 球陽丸 六七九噸
横濱航路　九日目毎一回
神戸、横濱間直行
船名 三邦丸 七四五噸

尼崎滊船神戸出張店　海岸通四丁目　電話 一三五

航路
若津航路　三日目毎一回
大阪、神戸、多度津、今治、三津濱、門司、下關、博多、唐津、呼子、伊萬里、平戸、佐世保、島原、長崎、三角、若津間

西廻鹿島航路　毎一週間一回
大阪、神戸、多度津、今治、三津濱、門司、下關、博多、佐世保、長崎、三角、鹿島間

中國廻り長崎行　不定
中國各港を經て博多、唐津、呼子、伊萬里、平戸、佐世保、長崎間

中國航路　毎日一回
大阪、神戸、阪手、高松、多度津、鞆、尾道、糸崎、忠海、竹原、長濱、音戸、吳、廣島、宮島、岩國、柳井、室津、上關、平生、室積、下松、三田尻、新川、門司、下關、若松間

岡山航路　毎日一回
大阪、神戸、牛窓、九蚕、岡山、小豆島、高松、日比、田ノ口、味野、下津井、丸龜、多度津、福山、笠岡、寄島、玉島間

朝鮮航路　毎一週間一回
大阪、神戸、門司、下關、釜山、仁川、鎭南浦間

播州航路　毎日一回
大阪、兵庫、明石、高砂、飾磨、網干、室津、坂越間

船名 第一姫路丸 一三〇噸 新和歌浦丸 一四一噸
第一運輸丸 二三 第三電信丸 一五一
幸運輸丸 一五五 第一幸運輸丸 一九五

増倉小寺合名會社扱　海岸通六丁目　電話 六四八

航路
往復共　神戸、下關、門司、若松間（毎月六回）
船名 平安丸 四五六噸
往復共　大阪、神戸、高松、多度津、鞆津、尾ノ道、糸崎、竹原、音戸、吳、廣島、宮島、岩國、柳井、下松、室積、三田尻、門司、下ノ關、中津、宇ノ島、長洲（各船毎月四回以上）
船名 紀盛丸 一四五噸 光盛丸 一四八噸
利榮丸 三八五
第三幸運輸丸 一七七 新運輸丸 一七五
新電信丸 一六九 新崇敬丸 一六〇
旭川丸 二一三 電信丸 二六四
敬神丸 三六七 第三敬神丸 四〇七
新敬神丸 四九二 第三崇敬丸 三四八
第二崇敬丸 三五三 第一太湖丸 三五三
第二太湖丸 四九八 第二敬神丸 三七四
大有丸 六六一 長保丸 一三三
共同運輸丸 一四七 新第二運輸丸 一六〇
第二電信丸 二一九 神代丸 一〇六〇

往復共　大阪、神戸、高松、多度津、觀音寺、四條、三島、今治
三ッ濱、新居濱、川ノ江、長洲、中津、宇島、門司、下ノ關間

船名 狭貫丸 三三噸　**阿津丸** 一五七噸
往復共　大阪、神戸、高松、多度津、栖津、尾ノ道、糸崎、竹原
音戸、吳、廣島、宮島、岩國、柳井、三田尻、門司、下關、若松間

船名 江州丸 一三六噸
中國廻り線は通じて毎日一回出帆す

山中傳四郎支店扱　榮町二丁目　電話 一〇一七

航路

神戸、中國各港寄港、下關間　毎日一回若しくは隔日
下關寄港伯州行　不定
下關寄港釜山仁川行　不定
下關寄港香港行　不定
下關寄港九州行　不定

船名 土佐丸 一三五噸　**江州丸** 一六五噸
加陽丸 四三　**第四共同丸** 四四
第四福山丸 一〇〇　**若松丸** 九〇
神宮丸 三〇〇　**神祐丸** 四〇〇
海城丸 三三五　**正榮丸** 七五
絨丸 一一〇　**妙見丸** 九〇

大原回漕店扱　榮町三丁目　電話 五六二

航路 不定

船名 日進丸 二七三五噸　**日米丸** 一三九五噸
日勝丸 一三五六　**日海丸修繕中**
第二元山丸 一八三六　**須磨浦丸** 二一三五
秀吉丸 六九六　**日清丸** 一一〇〇
日ノ出丸 一一〇〇　**千球丸** 一四九六
喜佐方丸 二三七三

山中庄兵衛支店扱　榮町四丁目　電話 四〇七

航路

大阪、神戸、廣島、大島、沖繩間　毎月二回

船名 薩摩丸 九六三噸　**金澤丸** 一二三五噸
沖繩丸 一三七一　**大和丸**(自由航)一五一九
大山丸(自由航)二〇一二

小栗回漕店扱　川崎町　電話 三一一

航路 不定

船名 第十一觀音丸 二一五〇噸　**第十五觀音丸** 二四七四噸
第十七觀音丸 六一〇　**第二十觀音丸** 二五六三　**攝津航業株式會社兵庫出張所**　東出町二丁目　電話五九九

航路

兵庫、品川間　毎一週間一回
兵庫、鹽飽、小橋間　不定
兵庫、門司、直江津、新潟、酒田、土崎間　不定
兵庫、山崎、小橋間　不定
神戸、北濱間　不定
神戸、香港間　不定

第廿一同 上 九六七　**第廿二同 上** 一一〇七
第廿三同 上 一五二六　**第廿四同 上** 一八五五
長崎丸 三七七　**美代丸** 二九七四
土洋丸 二一六六　**萬國丸** 二一三九
東洋丸 二五五六　**武藏野丸** 二九七六
明保野丸 二四五〇　**第二永田丸** 一一六三
第八永田丸 三六〇　**第十一同 上** 四二一
第十二同 上 五三一　**第十三同 上** 五六九
第十四同 上 六六八　**第十五同 上** 五六一
愛知丸 一三六七　**幸照丸** 五六一
三友丸 六二一　**福山丸** 一八六二
末廣丸 一四五九　**滿球丸** 一五六八
門司丸 二〇四〇　**筑紫丸** 一〇六〇
長幸丸 一八六八　**北都丸** 三一六三
米山丸 二八二三　**千球丸** 一八六〇
小雛丸 三一九二　**知多丸** 四九六
勢徳丸 一四二六　**相川丸** 一五三六
アヨイサン丸 一九八四

中村組兵庫支店扱　鍛冶屋町　電話 五九七

航路 不定

船名 竹ノ浦丸 二七〇五噸　**北雄丸** 九一八噸
都丸 三五九　**玄武丸** 六九九
隆盛丸 一一九九　**宗谷丸** 五四一
利尻丸 三〇三　**禮文丸** 五三三
豊臣丸 一四五六　**生玉丸** 六六三

伊吹丸　一〇四噸　鮫龍丸　一四五噸
大平丸　一三一　平安丸　一四五
函館丸　一四六　姫龍丸　一三〇

前田回漕店扱　松屋町　電話一七九

航路　長崎、鹿兒島、兵庫間　每月四回

汽船　多聞丸　一三四噸　川邦丸　一四五噸

以上內國船の大部は三十八年一月現在に於て御用船たるもの多く其航路として執るものゝ中には從前取りつゝありし航路、或は御用船解産後採らんとする航路、又は現在執り居る航路等ありて、部船商船二社を除き他は殆んど其船舶を示すに止まり茶より一定したるものに非や、且代理店元扱と雖するものにて同一の船舶を二三ヶ所に於て取扱ふ場合あれば從つて船名の重複を免れざることあるべし。

外國船の部

ボストン、タウボート汽船會社
Boston S.S. & Towboat Co.

ドッドウエル商會扱　港岸通五番　電話七五三

航路　米國ニューヨーク、橫濱、門司、上海、香港、マニラ間

出帆の割合　約二十日目一回

船名　Shawmut. 9,500噸　Pleiades. 3,752噸
Hyades. 3,752　Tremont. 6,500
Lyra. 4,417

イースタン、オーストラリアン汽船會社(一)
Eastern & Australian S.S. Co,

ベンライン汽船會社(二)　Ben Line S.S. Co.

ニッス商會扱　港岸通七番　電話四九二

航路
(一)橫濱、門司、香港、ポートダーウイン、木曜日、アッスン、シンガポール一回

出帆の割合　每月一回

船名　Eastern. 3586噸　Australian. 2,838噸
Empire. 4,496

航路
(二)橫濱、門司、長崎、香港、新嘉坡、アントワープ、倫敦

出帆の割合　每月一回或ハ二回

船名　Benalder. 3,044噸　Benlomond. 2,670噸
Bengloe. 3,005　Benmohr. 3,000
Benvorlich. 3,410　Benclench. 4,158
Benarty. 3,910　Benlarig. 3,921
Benveune. 2,505

北獨逸ロイド汽船會社　Norddeutscher Lloyd Bremen.

アーレンス繼續社扱　港岸通十番

航路
橫濱、門司、長崎、上海、香港、新嘉坡、半岡、古倉母、錫蘭、紅海、ポートサイド、ナプリ、マルセイユ、ジブラルター、サウサンプトン、アントワープ、ハンブルグ、アンターケルン、獨逸國(主要各港寄港)

出帆の割合　歐洲線二週間每一回　遠洲線四週間每一回

船名　Prinz Sigismund. 3,302噸　Wellehad. 4,761噸
Prinz Waldemar. 3,227　Prinz Alice. 10,881
Prinz Heinrich. 6,263
Prinz Ragent Luitpold. 6,288
Preussen. 5,295噸　Bayern. 5,034噸
Sachsen. 5,026　Zieten. 8,043
Roon. 8,022　Seydlity. 7,942

漢堡アメリカ汽船會社　Hamburg-America Line.

イリス商會扱　港岸通十二番　電話四三七

航路
橫濱、門司、上海、香港、新嘉坡、半岡、古倉母、錫蘭、紅海、ポートサイド、馬賽、ジブラルター、ハンブルグ間

出帆の割合　二週一回

船名　Scanbia. 4,375噸　Slavonia. 2,274噸
Rhenania. 6,000　Rhaetia. 6,000
Rugia. 6,000　Aragonia. 3,531
Segovia. 5,872　Sambia. 5,623
Suevia. 3,909

加奈太太平洋鐵道汽船會社
Canadian Pacific Railway Co,s Royal Mail S.S. Line.

高花町十四番　電話七五

航路
晩太哇、ビクトリヤ、橫濱、門司、長崎、上海、香港間

ジャンキンス會社(一)　Jenkins & Co.

エム・サミュル會社(二)　M. Samuel & Co.

サミュル・サミュル會社　神戸香港間毎月二回　横濱三六丸

航　路

(一)神戸、上海、香港、新嘉坡、香港、廈門、カムラン、古金甲、香港、廣東、新嘉坡、セイロン、ボンベイ、スエズ、ポートサイド、マルセイユ、ロンドン

船出帆の割合　毎月約二回

船名				
Imperatrix.	4.194噸	Imperator.	4.119噸
Bohemia.	4.000	Tirol.	2.812
Thalia.	2.371	Austria.	6.500
Nippon.	6.317	Erzh-Franz—Ferdin.	6.043
China.	5.999	Persia.	5.900
Silesia.	5.159	Trieste.	5.095
Marq—Bacquehem.	4.409	Vindobona.	4.351
Gisela.	4.253	Maria Valerie.	4.235
Maravia.	3.504	Melpomene.	2.968

航　路

(二)マルセイユ、倫敦、トルコ、ポートサイド、古金甲、香港、廣東、新嘉坡、香港、上海、神戸、横濱

佛國郵船會社　Compagnie Des Messageries Maritimes.

神戸三十六着

航　路

橫濱、神戸、上海、香港、サイゴン、新嘉坡、古金甲、西貢、タントイー、スエズ、ポートサイド、マルセイユ、巴里

船出帆の割合　毎月二回

船名				
Australien.	6.569噸	Polynesien.	6.568噸
Sydney.	4.232	Caledonien.	4.248
Tourane.	6.343	Tonkin.	6.363
Ernest-Simons.	5.707	Oceanien.	4.259
Yarra.	4.255	Salazie.	4.255
Himalaya.	6.005	Sinai.	4.856

墺太利ロイド汽船會社(一)
Austrian Lloyds Steam Navigation Co.

船出帆の割合　未定

船名				
Denbighshire.	2.489噸	Radnorshire.	1.889噸
Flintshire.	2.476	Monuonthshire.	3.297
Merionethshire.	1.950		

航　路

(二)倫敦、直布羅、馬耳、埃及、紅海、古金甲、ポートキャニング、ニコバル、スマトラ、マラッカ、シンガポール

船出帆の割合　未定

船名				
Bulysses.	3.958噸	Silaerlip.	4.904噸
Pinna.	4.100	Strombus.	3.928
Telena.	3.124	Elax.	2.612
Cowrie.	3.155	Clam.	2.311
Attaka.	310	Bullmouth.	2.607
Cardium.	3.953	Conck.	2.314
Enplectela.	2.507	Goldmouth.	7.446
Rock light.	2.133	Tracas.	2.657
Turbo.	2.659	Valute.	2.599

亞米利加亞細亞汽船會社　American-Asiatic S.S. Co.

アカウン・トムス商會扱　橫濱神戸三回着　横濱三六丸

航　路

橫濱、門司、上海、香港、マニラ、新嘉坡、セイロン、紅海

船出帆の割合　毎月一回

船名　未定

ジャバ、支那、日本汽船會社　Java-China-Japa Lijn.

バン・キーローン商會扱　神戸十六着　横濱一〇三回

航　路

橫濱、香港、トヒイ、スラバヤ、チラチャプ、スラバヤ、アカヤー回

船出帆の割合　四週間毎一回

船名			
Tjimahi.	5.000噸	Tjipanas.	5.000噸
Tjilatjap.	5.000		

大平洋汽船會社		Pacific Mail S.S. Co.
東西洋汽船會社	(一)	Occidental and Oriental S.S. Co.
東洋汽船會社		Toyokisen Kaisha.
ポートランド亞細亞汽船會社(二)		Portland & Asiatic S.S. Co.

航　路　神戸六十七着

（一）香港、ホンコン、廣東、廣昌、
厦門、上海、香港間

出帆の割合　香港及廣東各毎月二回三分

船名				
	China.	4,940噸	Doric.	4,784噸
	Manchuria.	13,688	Coptic.	4,448
	Korea	11,276	Gaelic.	4,206
	Siberia.	3,904	Mongolia.	4,909

航路

（二）ホーチミン、廣東、廣昌、門司、厦門、上海、香港間

出帆の割合　毎月一回

船名				
	Arabia.	4,400噸	Aragonia.	5,100噸
	Nicomedia.	4,300	Numantia.	4,300

因みに東洋汽船會社が政府より受ける航路補助金は左の如し

航路	契約滿了期	補助年額
香港桑港線	明治四十二年十二月	一〇一、三六〇圓

大洋汽船會社　Ocean Steam Ship Co.
支那相互汽船會社（一）　China Mutual Steam Navigation Co.
支那航海汽船會社（二）　China Navigation Co.

バターフイールド、エンド、スワイヤ扱

航路　江戸前百三番　電話六四六

（一）滿昌、マルセイユ、倫敦、アントワープ間、（イ）
サベナー汽船（ロ）
滿昌、ヒクトリヤ、ギランド、スコヤ間（ハ）

出帆の割合　（イ）二週間一回（ロ、ハ）毎月一回位

船名				
	Slentor.	6,773噸	Achilles.	7,043噸
	Pakling.	4,447	Tantalus.	3,620
	Polyphemus.	2,574	Ningchow.	7,604
	Calchas.	6,448	Oanfa.	7,650
	Peleus.	7,441		

航路

（一）滿昌、香港、漢口和、ニューチャンド間

出帆の割合　毎月約一回半

船名				
	Changsha.	2,269噸	Chingtu.	2,268噸
	Taiyuan	2,269	Tsinan.	2,269

ピーオー汽船會社　Peninsular & Oriental S. Nabigation Co.　代理店百十番　電話一、〇三一

航路

神戸、滿昌、上海、香港、スエンイン、古倉庫、ボートサイド、マルセイユ、倫敦、アントワープ間

出帆の割合　毎月二回以上

船名				
	Java.	4,093噸	Pera.	7,635噸
	Candia.	6,482	Malta.	6,064
	Socotra.	6,009	Banca.	5,995
	Nubia.	5,914	Mazagon.	4,997
	Palawan.	4,686	Borneo.	4,573
	Japan.	4,319	Manila.	4,210
	Ceylon.	4,094	Formosa.	4,045
	Malacca.	4,045	Pekin.	3,957
	Tientsin.	3,950		

以上明治廿八年一月迄に神戸港に來航したる汽船中最大汽船は郵船會社扱米國大北汽船會社所有シャートル香港、馬尼拉線ニチンタ號にして之に次ぐは亦ソコトル、サイベリヤの姉妹船となす、今左にニチンタ號の要領を摘記すべし。

汽船ニチンタ號要領

總噸數	一一、〇〇〇噸	乘組員數	三〇人

長	六〇米	速力	一六節
巾	一二、〇〇〇米	貨物馬力	一一、〇〇〇
深	六米	汽缶の種類	ニクロース水管式
船艙の高	六、四〇米	汽機の種類	雙螺旋四聯成
載貨容積	一〇、〇〇〇噸	揚貨機	電力機廿一個
載貨重量	一二、六〇〇噸	製造所	米國ニューヨーク市ニューヨーク汽船會社
排水噸數	一六、五〇〇噸	進水年月	千九百三年四月
載貨吃水	一〇米	船客定員	一等一一四人、二等六〇人、三等八五人

第十六節　港内小蒸汽船調

船名	噸數	所有者
櫻	一四〇噸	兵庫縣港務部
港	一六〇	同
藤	一五〇	同
飛	一四〇	同
鳳	一四〇	同
諏訪	一三〇	神戸水上警察署
高取	六〇	同
保安	一五〇	同
第一海關	一二〇	神戸稅關

第二海關	一三〇五	神戸稅關	同
第四海關	九七一	同	同
快信	三、七七	神戸郵便電信局	同
連鶴	一七四九	同	同
輔仁	一〇、一〇	日本郵船會社	同
鷗影	四六五	同	同
御北野	二、四七	同	同
姫島	一八九〇	同	同
菊水	一六九四	大阪商船會社	同
第三日ノ出	一六八四	同	同
隼	一七四四	神戸棧橋會社	同
八千代	二五、一〇	同	同
はやふさ	一八四八	同	同
神兵	九〇三	川崎造船所	同
旭	一〇、八	同	同
亜水	一三五〇	同	同
舞子	一五八四	同	同
	三、九四	同	同

榮	一三五、三	川崎造船所	同
川崎	七六二	同	同
しのゝめ	三、〇三	同	同
錦	一八四五	同	同
緑	一一〇六	同	同
紅葉	二、八六	同	同
兵神	一一、三六	同	同
勇	一八四五	同	同
第三浪花	一九六二	兵庫運輸會社	同
神港	一八〇三	同	同
第一服部	一四、一三	神戸良水會社	同
光運	一八八六	共同曳船會社	同
那智	三、六四	三井物産會社	同
小鳥	一五五六	三菱會社	同
保	三、七五	同	同
玉	一三、三	岡田信太郎	同
伊勢	六、五五	鍋加甚七	同
十一	八〇四	倉橋芳藏	同
明治	三〇四四	安川敬一郎	同

日之出	三〇、三五	木多半次郎	スタンダード石油商會
第三若松	四一、五一	堀川タッ	ヒー、オー汽船會社
第二若松	三、四四	同	パックニルフオラー
神山	一九四一	山口辰之助	オリエンタルホテル
第二神山	七五、〇〇	同	ジエー、エラーケン
金城	一五、六三	同	クリステンセン
榮	一七、六八	ニッケル商會	ロイド汽船會社
大阪	七、〇九	同	セー、グーウィルキンソン
テンボー	六、七九	同	大川大藏
ウキリー	二、六二	同	安永芳藏
イーグル	一七、六三	同	谷脇邦之助
マツギー	二、〇三	同	
ビスマルク	一七、六七	同	
クルーサー	一〇、七〇	同	
第一伊勢	九五〇	伊勢市五郎	
電	六、四四	デツキ、ブルニ商會	
タンサン	二、五七	エツチ、ジユリエ	
摩耶山	一四、六二	ジエー、ライオンス	
鹽屋	三、九八	同	

第十七節　神戸三ノ宮兵庫三驛乘降客數及貨物集散噸數表

驛名	月別	旅客 乘車人員	旅客 降車人員	貨物 發送噸數	貨物 到着噸數
三ノ宮	三十七年一月	一二、一二人	一〇、九五人	三、五九噸	一七、八四噸
	二月	一〇、四三	一〇、三三	三、六九	三、七九
	三月	一〇、一〇	一〇、一五	一、八五	一、八三
	四月	一二、八〇	一二、一五	三、四一	一、四三
	五月	一一、〇六	一一、〇三	一、七三	一、七三

	月	計												
神戸	六月	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
	七月	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
	八月	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
	九月	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
	十月	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
	十一月	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
	十二月	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
	計	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
三ノ宮	三十七年一月	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
	二月	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
	三月	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
	四月	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
	五月	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
	六月	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
	七月	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
	八月	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
	九月	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
	十月	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
	十一月	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
	十二月	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
	計	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八

第十八節　神戸港航海旅客出入表

	月別	合計	兵庫											
			計	三十七年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
乘船人員	內國航路	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇
	外國航路	九六二	九六二	九六二	九六二	九六二	九六二	九六二	九六二	九六二	九六二	九六二	九六二	九六二
	計	一一三六二	一一三六二	一一三六二	一一三六二	一一三六二	一一三六二	一一三六二	一一三六二	一一三六二	一一三六二	一一三六二	一一三六二	一一三六二
上陸人員	內國航路	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇	一〇四四〇
	外國航路	九六二	九六二	九六二	九六二	九六二	九六二	九六二	九六二	九六二	九六二	九六二	九六二	九六二
	計	一一三六二	一一三六二	一一三六二	一一三六二	一一三六二	一一三六二	一一三六二	一一三六二	一一三六二	一一三六二	一一三六二	一一三六二	一一三六二

第十九節　郵便貯金一覽表

年度	預入		拂戻		年度末日現在	
	度數	金額	度數	金額	人員	金額
廿二年	三五八二	一一〇四五七円	五七九	一〇八四四円	一〇一八	一一〇四五七円
廿三年	六六七五	一四四一五五	九七四	一八四九一	一一三六	一三六九六三
廿四年	四四五〇	一九五四五八	七九〇	一四四一五五	一二四九	一五六九六六
廿五年	一二五七	一二四五七七	一〇八二	一〇八四四四	一二三六	一三六九六三
廿六年	一二〇三	一二〇三四〇	一〇四五	一〇四五四〇	一二三六	一三六九六三

本表年度は會計年度即ち毎年四月一日より翌年三月末日迄の調査とす

明治三十七年月別表

月次	區別	預入		拂戻	
		度數	金額	度數	金額
一月		一一四五〇	一一五九一円	一一五九	一一五九一円
二月		一三五八六	一三一二五〇	一三五九	一三一二五〇
三月		一八一〇五	一八一〇五四	一四四八	一四四八四四
四月		一四四八四	一四四八四四	一四四八	一四四八四四
五月		一三一二五	一三一二五二	一三一二	一三一二五二
六月		一一四五〇	一一四五〇四	一一四五	一一四五〇四
七月		一一四五〇	一一四五〇四	一一四五	一一四五〇四
八月		一一四五〇	一一四五〇四	一一四五	一一四五〇四
九月		一一四五〇	一一四五〇四	一一四五	一一四五〇四
十月		一一四五〇	一一四五〇四	一一四五	一一四五〇四
十一月		一一四五〇	一一四五〇四	一一四五	一一四五〇四
十二月		一一四五〇	一一四五〇四	一一四五	一一四五〇四
計		一八〇二九	一六九三五九	一三五九	一三五九八五

三十七年中の前年度（三十七年一、二月を含む）に比し預入金額及新規入員に於て多大の進度を呈せしは市民一般に逐年貯蓄の必要を感し來りしと同時に開戰以來一時盛に貯蓄奬勵をなせし結果著しく激增したるものにして、拂戻額の增加せしは國庫債券應募の影響ならんも而も其

差引に於ては尚預入の增加せしを見る

第二十節　郵便爲替一覽表

年度	振出			振拂		
	證書枚數	金額	波額	證書枚數	金額	波額
三十二年	九七五	八三二九	八九三五	七五三	七三五	八九三五
三十三年	一〇四八	一〇三四	一二三六	九八二	九八二六	一二三六
三十四年	一二〇九	一二六〇八	一二九八	一〇三四	一〇三四	一二九八
三十五年	一四四八	一四九二	一四九二	一二七〇	一二七〇	一四九二
三十六年	一六〇四	一六〇四	一六〇四	一四九二	一四九二	一六〇四

本表は會計年度に依る

明治三十七年月別表

月次	區別	振出			振拂		
		枚數	金額	波額	枚數	金額	波額
一月	內國	一二八八	一二四九三	一二四九三	一〇三四	一〇三四	一二四九三
	外國	六五	一三五		六五	一三五	
	計	一二九三	一二六〇八		一〇九九	一〇九九	
二月	內國	一二〇一	一二五三八	一二五三八	一〇三四	一〇三四	一二五三八
	外國	七五	一三五		七五	一三五	
	計	一二七六	一二六七三		一一〇九	一一〇九	
三月	內國	一二〇一	一二五三八	一二五三八	一〇三四	一〇三四	一二五三八
	外國	七五	一三五		七五	一三五	
	計	一二七六	一二六七三		一一〇九	一一〇九	
四月	內國	一二〇一	一二五三八	一二五三八	一〇三四	一〇三四	一二五三八
	外國	七五	一三五		七五	一三五	
	計	一二七六	一二六七三		一一〇九	一一〇九	
五月	內國	一二〇一	一二五三八	一二五三八	一〇三四	一〇三四	一二五三八
	外國	七五	一三五		七五	一三五	
	計	一二七六	一二六七三		一一〇九	一一〇九	
六月	內國	一二〇一	一二五三八	一二五三八	一〇三四	一〇三四	一二五三八
	外國	七五	一三五		七五	一三五	
	計	一二七六	一二六七三		一一〇九	一一〇九	
七月	內國	一二〇一	一二五三八	一二五三八	一〇三四	一〇三四	一二五三八
	外國	七五	一三五		七五	一三五	
	計	一二七六	一二六七三		一一〇九	一一〇九	
八月	內國	一二〇一	一二五三八	一二五三八	一〇三四	一〇三四	一二五三八
	外國	七五	一三五		七五	一三五	
	計	一二七六	一二六七三		一一〇九	一一〇九	
九月	內國	一二〇一	一二五三八	一二五三八	一〇三四	一〇三四	一二五三八
	外國	七五	一三五		七五	一三五	
	計	一二七六	一二六七三		一一〇九	一一〇九	
十月	內國	一二〇一	一二五三八	一二五三八	一〇三四	一〇三四	一二五三八
	外國	七五	一三五		七五	一三五	
	計	一二七六	一二六七三		一一〇九	一一〇九	
十一月	內國	一二〇一	一二五三八	一二五三八	一〇三四	一〇三四	一二五三八
	外國	七五	一三五		七五	一三五	
	計	一二七六	一二六七三		一一〇九	一一〇九	
十二月	內國	一二〇一	一二五三八	一二五三八	一〇三四	一〇三四	一二五三八
	外國	七五	一三五		七五	一三五	
	計	一二七六	一二六七三		一一〇九	一一〇九	
合計	內國	一二八八	一二四九三	一二四九三	一〇三四	一〇三四	一二四九三
	外國	六五	一三五		六五	一三五	
	計	一二九三	一二六〇八		一〇九九	一〇九九	

第二十一節　郵便電信發着表

年度	通常郵便物		小包郵便物		電報	
	引受	配達	引受	配達	發信	受信
三十二年	一四九九三二	一四九八六〇	七七〇	九七三五	四二七〇〇	四二七〇〇
三十三年	一四六九三二	一四六二七五	九七三五	二八四八	四二七〇〇	四二七〇〇

本表年度は會計年度による

明治三十七年月別表

區別	月次	普通郵便				小包郵便				合計
		發信		受信		發送		到着		
		內國	外國	內國	外國	內國	外國	內國	外國	
一月		一二八八六	一三五	一二四九三	一三五	一二五	一二五	一二四	一二四	一八一八
二月		一二〇一	一三五	一二五三八	一三五	一二五	一二五	一二四	一二四	一八一八
三月		一二〇一	一三五	一二五三八	一三五	一二五	一二五	一二四	一二四	一八一八
四月		一二〇一	一三五	一二五三八	一三五	一二五	一二五	一二四	一二四	一八一八
五月		一二〇一	一三五	一二五三八	一三五	一二五	一二五	一二四	一二四	一八一八
六月		一二〇一	一三五	一二五三八	一三五	一二五	一二五	一二四	一二四	一八一八
七月		一二〇一	一三五	一二五三八	一三五	一二五	一二五	一二四	一二四	一八一八
八月		一二〇一	一三五	一二五三八	一三五	一二五	一二五	一二四	一二四	一八一八
九月		一二〇一	一三五	一二五三八	一三五	一二五	一二五	一二四	一二四	一八一八
十月		一二〇一	一三五	一二五三八	一三五	一二五	一二五	一二四	一二四	一八一八
十一月		一二〇一	一三五	一二五三八	一三五	一二五	一二五	一二四	一二四	一八一八
十二月		一二〇一	一三五	一二五三八	一三五	一二五	一二五	一二四	一二四	一八一八
合計		一二八八	一三五	一二四九三	一三五	一二五	一二五	一二四	一二四	一八一八

年月	種別	電信					電話					
		發信			受信		發信			受信		
		内國	外國	計	内國	外國	内國	外國	計	内國	外國	計
三十六年度		三五、三五〇	四八四三	三九、九一五	四六、八五〇	四、九三一	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇
三十七年一月		三五、三五〇	四八四三	三九、九一五	四六、八五〇	四、九三一	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇
三十七年二月		三五、三五〇	四八四三	三九、九一五	四六、八五〇	四、九三一	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇
三十七年三月		三五、三五〇	四八四三	三九、九一五	四六、八五〇	四、九三一	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇
三十七年四月		三五、三五〇	四八四三	三九、九一五	四六、八五〇	四、九三一	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇
三十七年五月		三五、三五〇	四八四三	三九、九一五	四六、八五〇	四、九三一	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇
三十七年六月		三五、三五〇	四八四三	三九、九一五	四六、八五〇	四、九三一	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇
三十七年七月		三五、三五〇	四八四三	三九、九一五	四六、八五〇	四、九三一	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇
三十七年八月		三五、三五〇	四八四三	三九、九一五	四六、八五〇	四、九三一	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇
三十七年九月		三五、三五〇	四八四三	三九、九一五	四六、八五〇	四、九三一	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇
三十七年十月		三五、三五〇	四八四三	三九、九一五	四六、八五〇	四、九三一	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇
三十七年十一月		三五、三五〇	四八四三	三九、九一五	四六、八五〇	四、九三一	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇
三十七年十二月		三五、三五〇	四八四三	三九、九一五	四六、八五〇	四、九三一	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇	一四、三五〇	三、三四〇	一七、六九〇

備考　普通郵便外國の欄に於て發信受信とも毎月其員數の同しきは其年の初め四週間の平均を採り計算したるものにして實際に於て大差なきものとす

第二十二節　電話度數表

年月	種別	市内	市外	長距離	計
三十六年度		六、二九八、六五六	一、三九、七九九	五、八四四	六、四四四、二四四
三十七年一月		五五、二四〇	一一、三一三	四四四	五六、八一五
三十七年二月		六五、六四四	一三、〇三三	五五六	六七、二六三
三十七年三月		六五、三四〇	一三、〇一九	五七四	六六、三三三
三十七年四月		六五、一八〇	一三、〇六四	六〇五	六六、八九二
三十七年五月		五八、二四四	一三、一四四	七四四	五九、九二二
三十七年六月		五九、一三〇	一四、一九二	五八四	六一、一〇二
三十七年七月		六〇、四〇三	一四、〇一三	六二四	六二、一〇一
三十七年八月		六一、〇三五	一四、九七八	六四〇	六五、〇五三
三十七年九月		六一、四七五	一三、六五五	四九七	六五、六二七
三十七年十月		六五、三四〇	一三、六八七	四三五	六八、五六四
三十七年十一月		六〇、〇四五	一三、四四三	五四五	六四、〇四三
三十七年十二月		六一、六五〇	一三、七四二	五九三	六五、九八五
計		七四、七五五、四五六	一五七、八三	六、九五三	七九、三二九

備考

一、市内とは神戸電話交換局加入區域を云ひ長距離とは名古屋以東、市外とは其他近距離を云ふ

一、年度は會計年度に依る

第三章

第二十三節　神戸商業會議所歷史と其議員

明治二十三年九月商業會議所條例が發布せられ法律上より見たる神戸商業會議所は此時を以て生れたるに相違なきも、而も其事實に於ける濫觴に至つては實に今より二十八年の昔にあり、卽ち明治十一年七八月の比時の兵庫區長神田兵右衛門及神戸商業講習所長甲斐織衛は當時兵庫神戸の商人が尙未だ舊來の保守的氣風を脫却せず開港場商人として甚不適當なるを慨し、是が改善の方法として時々集會の上商業に關する利害を攻究し各自の智識を交換することの最も有效なるべきを思料し其頃東京に於て新たに創設せられたる商法會議所の制に倣ひ、縣令森岡昌純の同意を得廻文を發して有志者の贊同を求め、會場を島上町舊問屋會所と定め爰に初めて少數有志の團體は形造られ、會頭に神田兵右衛門副會頭に藤田積中を選擧す、後幾何もなく會場狹隘の故を以て鍛冶屋町舊北濱總會所に移り役員を增設し且仲間中より一般に月賦を以て百圓宛を醵出せしめ基本金となす、同年十月十四日正式の許可を受く、當初開會は每月一六の日を以てし更に每五の日に改む明治十二年從來の區制廢せられ兵庫神戸の二區合併して神戸區となるや商法會議所は神戸區商法會議所と改稱し區費の中より年五百圓宛の補助を受くることとなり次ひて縣廳に向ひ新築費壹萬圓借入の義を出願したるが此事は遂に許可に至らずして已む、十三年一月島上町より東川崎町一丁目專崎彌五平構內に移轉し、二月の會議に於て白洲退藏を會頭に選擧したり、然るに白洲は事故の爲め間もなく其任を辭し副會頭藤田積中又次ひて其職を罷むるに至りたれば爾後正副會頭は暫らく缺員の儘となし理事に於て其事を處置したり、同年六月神戸商況新誌第一編を發刊す、而も表面は斯の如く逐次進運に向ふの觀あるに拘らず裏面に於ては開所以來種々困難なる事情續綿し一部有志者の熱心繼續維持に盡瘁するありと雖も惜哉一般の思想未だ幼稚なる時代のことゝて甚しきに至つては會議所其ものを無用

の長物視するものあるに至り、事々漸く非にして收入は遂に經費を支持するに足らず縣廳に向つて陳情請願すること一再に止まらざりしが、當時不換紙幣下落の爲め世は不景氣の頂點に達し縣に在つても獨り會議所に限り救濟の途を與へ難く、氣息奄々たる會議所は遂に十三年八月以後全く滅亡の姿となり爾來五年間再生を見る能はず、十九年末に至り時の縣知事內海忠勝深く之れを慨し有志に勸誘する所あり其結果山川勇木、鈴木岩次郎、田中元三郎、池田貫兵衞、山本勇太郎、中西市造、小寺泰次郎、松原良太、島丸藤左衞門、岡田元太郎、池長通、川西清兵衞、神田兵右衞門、藤田積中、有馬市太郎、船井長四郎、生島四郎左衞門等十七人は十月十日連署して會議所設立の許可と補助金下付を願ひ出で十一月十七日に至り之れに對して知事より認可の指令を與へたり、此に於て發起人等は起草委員を設けて規則の編纂に著手し翌二十年二月稿成り其筋の許可を得又會議所建設の敷地に充てん爲め、東川崎町鐵道局用地一部拂下げの義を出願し、是亦無事採用せらるゝ處となり敷地面積千七百七十五坪餘を購入し區部地方稅より二十年度補助金として支出されたる二千圓の內金を以て之れに充當したり、三月八日發起人會を開き五名の總代を撰び諸般の事務を委ね當分假事務所を東川崎町舊株式取引所內に設け書記を置きて庶務を整理せしむ、六月十日發起人總會に於て村野山人を會頭に小寺泰次郎を副會頭に藤田積中、田中元三郎、神田兵右衞門、岡田元太郎、松原良太を理事に撰舉し尙一般會員より每一ヶ月壹圓宛の會費を支出すべきことを議決したり、而して此徵收率に就ては後屢ば變更增大せられ二十四年下半期に於ては一等拾五圓より九等壹圓迄となし二十六年度に於て更に一等四拾圓以下各等之れに準じて引上げをなし只九等は依然壹圓に止む、是より先き事務所は先の株式取引所より假りに又其新築の神戸倶樂部二階に移轉され居たるが狹隘の爲め事務漸く增加するに連れ不便を感ずること甚しく發起人は遂に相議して前年宮內省に於て三井銀行より御買上げ相成りたる御用邸內建物無代下付竊議の事を內務知事に懇請し其斡旋に依りて七月七日許可の指令に接し同時に舊貿易會所財產賣却代金六千圓をも會議所新築費として交付せられたれば設計を立て工事に著手せり、二十一年一月役員改撰を行ひ村野會頭、小寺副會頭重任したり、已にして建築中の會議所は同年四月十六日を以て落成を告げ盛大なる開所式を擧ぐ、二十三年九月法律第八十一號を以て、商業會議所條例の發布ありたれば十月十四日其創始會を開き諸般の準備を整へ十一月二十日設立申請書を提出して十二月九日認可を得たり、翌年一月二十七日神戸市長は發起人の請求に依り二月十日議員撰擧の旨を公示し期日に至り二百十三通の投票を以て四十名の議員を撰擧し十六日最初の會議を開く、同年七月上旬中上川彥次郎會頭に岡田元太郎副會頭に擇任せられ、外に特別委員八名を置き重要問題ある每に出席して意見を述べしむることゝなしたり、後震時中上川會頭辭職し村野山人再び其後を襲ひ、二十五年四月十八日村野辭して山本龜太郎代つて會頭の椅子に就く、爾來會議所は格段特筆するが如きことなく、只三十五年中法律第三十一號を以て商業會議所稅不納者に對し直接國稅不納者と同一の取扱をなすことに定められたる旨發布せられ從來の義務的納稅の性質此處に一變し、夫より未納者を出すこと尠なく會議所の基礎一層確立するに至る、三十六年四月岸本豐太郎山本の後を襲ひて會頭となり以て今日に至る。（三十八年二月末記）

役員

會頭	岸本豐太郎	副會頭	杉山利介
副會頭	直木政之介	常議員	瀧川辨三
常議員	橫田孝史	同	本多義知
同	室谷藤七	同	小倉庄太郎

議員

住所	職業	氏名
元町通五丁目一一二	藥商	橫田孝史
元町通六丁目二七二	呉服商	杉山利介
楠町六丁目二三四	燐寸製造業	直木政之介
下山手通五丁目八三	花莚及雜貨直輸商	小倉庄太郎
榮町通五丁目二二	砂糖商	高橋孔稜
相生町四丁目一二一	爲眞乘	中村甚之介
兵庫新町八	神戸勞働株式會社取締役社長クレー製造煉瓦製竹業材木商	大庭竹四郎
		室谷藤七

元町通五丁目八　西澤織物商　丹波良造
相生町二丁目五一　遠酒業　小野權四郎
多聞通六丁目四八　金錢貸附業　園田藤吉
宮内町四一　菓子商　三浦半兵衛
東川崎町三丁目二〇九　醤油製造業　鍋加苔七
切戸町五一五　米穀商　橘彌三郎
下山手通七丁目七二　米穀商印刷業　前田由松
山本通四丁目一五　株式會社川崎造船所取締役社長　松方幸次郎
兵庫宮前町六四　米穀燐寸小賣商　魚澄惣一郎
楠町四丁目一七九　燐寸製造業　瀧川辨三
海岸通四丁目四二　運送業　三城彌七
海岸通六丁目一〇　海陸産物仲買及販賣業　植田德松
栄町通五丁目六一　製茶及海陸産物仲買及販賣業　中村清治
兵庫濱町二丁目一四　銀行業　岸本豐太郎
磯上通五丁目四四　木綿及絹物染物業　井上善吉
北長狭通七丁目八　味噌、醤油販賣業　森田佐右衛門
野田村一四　竹籔製造業　八木平太郎
元町通一丁目二一八　製茶販賣業　瓢庭榮次郎
相生町二丁目八　石炭商、金錢貸附業　高見義確

住所職業氏名特別議員

山本通五丁目八四　神戸又新日報五州社々長　渡邊尚
楠町三丁目四三　辯護士　川瀬彦輔
明石郡垂水村ノ内字醫屋　山陽鐵道株式會社專務取締役　牛場卓藏
中山手通六丁目二八　辯護士　太田保太郎
日本郵船株式會社神戸支店支配人　谷井保

清酒販賣業　高羽爲介
竹籔製造業　吉田平兵衛
西洋毛糸物販賣業　生島四郎左衛門
製茶及袋子販賣業　菅音次郎
味噌、清物販賣業　奥田由太郎
メリヤス、ジヤツ、西洋雜貨販賣業　芦田幸太郎
畳草、洋服販賣業　髙橋政吉
木炭、石炭販賣業　髙德梅吉
土木請負業、シヤツ、チル販賣業　山下秀次郎
呉服太物販賣業　合資會社端商店
燐寸製造業　本多義知
砂糖、乾物、鑛類販賣業　川西龜太郎

第二十四節　銀行及諸會社調

銀行之部

株式會社　**日本商業銀行**　假治屋町一番　電話特一六一〇
同　支店　元町一丁目　電話特五三一
資本金　貳百萬圓　設立　明治二十八年十一月
頭取　安田善三郎　常務取締役　柏木庄兵衛
取締役　武井守正　取締役　原田虎太郎
同　澤田清兵衛　同　有馬市太郎
同　川西清兵衛　取締役兼支配人　秋山忠直
監査役　澤野定七　監査役　石川茂兵衛
同　森岡彦　副支配人　岡本武藏
文書課長兼貸金課長得心　山崎民造　貸替課長兼預金課長得心　堀田卯之助
出納課長得心　安田莊右衛門　元町支店長　弘中藤一

株式會社　**兵庫縣農工銀行**　海岸通六丁目　電話四〇三
資本金　百萬圓　設立　明治三十一年三月
頭取　鳴瀧幸恭　取締役　伊藤長次郎
取締役　賀集寅次郎　取締役　堀謙治郎
取締役　平尾源太夫　監査役　武内和三郎
監査役　遂萊林太郎　監査役　波部本次郎
支配人　大谷吟右衛門

株式會社　**第六十五銀行**　戸場町三十六番　電話特一一〇六
同　湊東部出張所　多聞通三丁目　電話　二九六
資本金　五拾萬圓　設立　明治十一年十一月
頭取　池田貫兵衛　取締役　星崎琢磨
取締役　曾根正命　取締役　光村利藻
取締役　尾上清兵衛　監査役　山田喜介
監査役　中居豊三郎
湊東部出張所主任　平野嘉七郎

株式會社　**神戸貯蓄銀行**　榮通五丁目　電話　四一六
同　兵庫支店　戸場町三番　電話　四一七

資本金　拾五萬圓　設立　明治二十八年八月
專務取締役　渡邊徹　取締役　川端又五郎
取締役　安藤行敬　監査役　木原熊吉
取締役兼支配人兵庫支店主任　神原彌吉　監査役　辰馬保藏
監査役　島田遠

岸本銀行　湊町二丁目　電話　四一五
同南支店　北仲町　電話　三一四
同湊東支店　多聞通六丁目　電話　七三三
同葺合支店　小野柄通六丁目　電話　八八四
同神戸支店　元町通四丁目　電話　四六〇

資本金　拾萬圓　設立　明治二十七年十月
行主兼務社員　岸本豐太郎
業務擔當兼社員　濱崎正太郎
兼支配人　鷲塚貞操
南支店主任　竹林一郎
湊東支店主任　宮崎廉三
葺合支店主任　松原雄
神戸支店主任　山本粂藏

株式會社　湊東協和銀行　相生町二丁目　電話　一四三

資本金　九萬圓　設立　明治二十八年十二月
專務取締役　北野藤兵衛　取締役　福橋龜吉
取締役　田中甚介　取締役　日高伊之吉
監査役　水江寛三郎　監査役　堀江金一郎
監査役　小野寺勝

株式會社　湊西銀行　神明町四十五番　電話　六二六
同運河支店　松原通一丁目　電話　九一八
同須磨出張所　停車場前

資本金　五萬圓　設立　明治二十九年十月
取締役　末正繁太郎　取締役　村津甚平
取締役　廣田重助　取締役　壺見嘉吉
取締役　和田市郎右衛門　監査役　北井虎藏
支配人　板野慶三郎　運河支店兼須磨出張所主任　板野慶三郎
須磨出張所主任　岡村勇造

株式會社　兵庫貯蓄銀行　湊町二丁目　電話　四一五
同神戸支店　元町四丁目　電話　四六〇
同湊東支店　多聞通六丁目　電話　七三三
同葺合支店　葺合小野柄通　電話　八八四

同南支店　北仲町　電話　三一四

資本金　參萬圓　設立　明治二十六年十一月
頭取　取締役　岸本甚介　取締役　岸本豐太郎
取締役　田中利三郎　取締役　岸本孝太郎
兼支配人　松本藤兵衛　監査役　金澤和助
監査役　角井辰右衛門　神戸支店主任　赤城憲一
湊東支店主任　山本粂次郎　葺合支店主任　森野英三郎
南支店主任　宇野皐

横濱正金銀行神戸支店　榮町三丁目　電話特一一一　九六八

本社　橫濱南仲通五丁目　頭取　相馬永胤
資本金　貳千四百萬圓　設立　明治十三年二月
神戸支店支配人　青木鐵太郎　副支配人　安部成嘉

株式會社　第一銀行神戸支店　榮町四丁目　電話特一一三九

本社　東京日本橋區兜町　頭取　澁澤榮一
資本金　壹千萬圓　設立　明治六年七月

神戸支店支配人　岸崎昌　兵庫出張所主任　西條峯三郎

合名會社　三井銀行神戸支店　榮町三丁目　電話特一一四

本社　東京日本橋區駿河町　社長　三井高保
資本金　五百萬圓　設立　明治九年七月
神戸支店長　小野友次郎

株式會社　臺灣銀行神戸支店　榮町四丁目　電話特八六九九五二

本社　臺灣臺北文武街　頭取　柳生一義
資本金　五百萬圓　設立　明治三十二年六月
神戸支店長　梶原磯辰

株式會社　三十四銀行神戸支店　元町三丁目　電話二七九三

本社　大阪東區高麗橋三丁目　頭取　小山健三
資本金　五百萬圓　設立　明治十一年三月
神戸支店長　兼兵庫出張所長　祖山鍾三
兵庫出張所　江川町四一　電話　五九四
同兵庫出張所　森井常次郎

株式會社　浪速銀行神戸支店　榮町五丁目　電話一四五

本社　大阪東區淡路町二　專務取締役　野元暁同
資本金　四百萬圓　設立　明治十一年一月
神戸支店長　松方正雄　支店副長　河野盛太郎

株式會社　北濱銀行神戸支店　榮町三丁目　電話　一四〇五一四
本社　大阪東區北濱三　頭取兼常務取締役　岩下清周
資本金　參百萬圓　設立　明治三十年三月
神戸支店長　吉田鐵太郎

合名會社　鴻池銀行神戸支店　榮町三丁目　電話　四九五
同　神戸支店兵庫出張員　派出所　湊町一丁目　電話　七八一
本社　大阪東區今橋二　社長　鴻池善右衛門
資本金　貳百萬圓　設立　明治三十三年十一月
神戸支店長　桑原羊次郎　兵庫出張所長　桑原羊次郎

株式會社　三十八銀行神戸支店　榮町三丁目　電話　二一
本社　姫路市呉服町　頭取　伊藤長次郎
資本金　百貳拾萬圓　設立　明治十一年十一月
神戸支店長　駒井巷　副支店長　木村三二郎

住友銀行神戸支店　榮町一丁目　電話　特一〇四三・四四

本社　大阪東區今橋四　行主　住友吉左衛門　電話　一六五
資本金　壹百萬圓　設立　明治二十八年九月
神戸支店支配人代理　外山一郎
兵庫支店支配人　岩橋大六　代理　谷清水

三菱合資會社銀行部神戸支店　相生町一丁目　電話特七四
同　神戸支店兵庫出張所　島上町七八　電話六一七
本社　東京麹町區八重洲町一　社長　岩崎久彌
資本金　壹百萬圓　設立　明治二十八年十月
神戸支店長　木村久壽彌太　兵庫出張所長　木村久壽彌太
副長　松本鼎三郎

合資會社　加島銀行神戸支店　榮町五丁目　電話　四七一
本社　大阪西區土佐堀通一　業務擔當社員頭取　廣岡惠三
資本金　參拾萬圓　設立　明治二十六年六月
神戸支店長　江村忠之助

株式會社　加島貯蓄銀行神戸支店　榮町五丁目　電話四七一
本社　大阪西區土佐堀通一　取締役頭取　廣岡久右衛門
資本金　參萬圓　設立　明治二十八年十二月

神戸支店長　江村忠之助

會社之部

日本郵船株式會社神戸支店　海岸通一丁目

電話（一、一〇九、一三〇、一五〇、一五〇
本社　東京市麹町區有樂町一丁目　社長　近藤廉平
資本金　弐千弐百萬圓　設立　明治十八年十月
神戸支店長　谷井保

大阪商船株式會社神戸支店　海岸通三丁目

電話（一三一、一六、一三三
同　兵庫出張所　島上町　電話　一七三
本社　大阪市北區宮島町　社長　中橋徳五郎
資本金　壹千百萬圓　設立　明治十七年五月
神戸支店長　加福力太郎

中越汽船株式會社神戸支店　川崎町一〇　電話　六七二
本社　高岡市櫻馬場　社長　石黒幾太郎
資本金　弐拾萬圓　設立　明治二十一年十一月
神戸支店長　筏井徹四郎

Chartered Bank of India Australia & China.（株式）
神戸支店　浜花町二六番　電話一一六一
本社　英國龍動スレッドニートル街
資本金　八拾萬磅（英貨）　設立　西暦一八五三年
神戸支店代表者　J. Archer.

China export-import & Bank Co.（株式）
神戸支店　京町七五番　電話　七五五
本社　獨國漢堡市クロックケンギーセルクル
資本金百萬馬　設立　明治二十三年一月
神戸支店代表者　H. Boetel.

Hongkong Shanghai Banking Co.（株式）
神戸支店　海岸通二番　電話　六四二
本社　英領香港クインス、ロード
資本金壹千萬弗　設立　西暦一八六七年
神戸支店代表者　J. Maclean.　買辨　藍卓峯

外國銀行之部

本　社　東京市京橋區南新堀町一　社　長　說田　彦助
資本金　四拾六萬九千圓　設立　明治二十九年二月
業　務　運送及船橋業　社　長　中川榮治郎

攝津航業株式會社兵庫出張所　東出町二丁目電話特五九九
本　社　武庫郡西ノ宮町　社　長　辰馬半右衞門
資本金　五拾萬圓　設立　明治二十年七月
業　務　船客送迎及曳船業　業務擔當社員　增倉繁太郎（外三）

山陽鐵道株式會社　濱崎通四丁目　電話（二）五一三
資本金　貳千四百萬圓　設立　明治二十一年一月
專務取締役　牛場　卓造

阪神電氣鐵道株式會社　北長狹通二丁目　電話　一〇六六
本　社　武庫郡西ノ宮町　取締役　小曾根喜一郎（外四）
資本金　百五拾萬圓　設立　明治三十二年六月
支配人　二木　彦七

兵庫運輸株式會社　島上町一〇八　電話　二一〇
資本金　拾萬圓　設立　明治二十二年四月
社　長　有馬市太郎　支配人　藤原多民治

神戸逓送株式會社　海岸通三丁目（中稅關構內）電話　二一三
資本金　貳萬五千圓　設立　明治二十二年十二月
業　務　運送及船橋業　社　長　中川榮治郎

神戸解船合資會社　海岸通四丁目　電話　一二六三
資本金　壹萬七千四百圓　設立　明治二十七年三月
業　務　船客送迎及曳船業　業務擔當社員　增倉繁太郎（外三）

共同曳船株式會社神戸支店　海岸通三丁目　電話（二）二八〇　二一六
同　兵庫出張所　島上町　電話　特四二九
同　神戸棧橋出張所　神戸棧橋戲道構內　電話　一一八四
本　社　大阪北區宮島町　社　長　安井　勝潔
資本金　貳拾萬圓　設立　明治二十七年三月
神戸支店長　藤岡　忠輔

神戸棧橋株式會社　加納町六丁目　電話　一二一
資本金　五拾萬圓　設立　明治十七年十一月
社　長　田中市兵衞　支配人　吉田喜一郎

合資會社港榮商會　榮町三丁目　電話　特八八二
資本金　壹萬圓　設立　明治三十三年十月

業　務　內外貨物運輸逓送
業務擔當社員　鶴田甚太郎

港開合名會社　榮町三丁目　電話　特二一三
資本金　壹萬五千圓　設立　明治三十四年六月
業　務　稅關貨物取扱及貨物運送業
業務執行社員　田中　儀助

合名會社山中回漕店神戸支店　榮町四丁目　電話　四〇七
本　社　大阪市西區立賣堀北通六丁目　支配人　水谷德次郎
資本金　壹萬五千圓　設立　明治三十五年八月

日華貿易合資會社　海岸通四丁目一〇　電話　特二〇四
業　務　運送業　主　任　松井善次郎

大吉合資會社　海岸通二丁目四　電話二〇五。八九四
同　出張所　神戸停車場構內　電話　六〇六
資本金　貳萬圓　設立　明治三十四年八月
業　務　海陸貨物運搬取扱
業務執行社員　大島元三郎

株式會社生田商會　海岸通二丁目

資本金　六萬圓　設立　明治三十六年三月
業務執行社員　鶴田甚太郎

合名會社富島組神戸出張所　海岸通四丁目
本　社　大阪市北區富島町　組　長　岡崎　龜造
資本金　拾萬圓　設立　明治三十四年一月
業　務　運送及稅關貨物取扱業
神戸出張所長　鈴木松之助

大濱組合資會社　垈合濱通八丁目　電話　八九七
資本金　壹萬二千七百圓　設立　明治三十四年四月
業　務　運搬受負業　代表社員　重田　岩吉

合資會社片野回漕店　宮內町四六　電話　特一六六
資本金　壹萬圓　設立　明治三十一年二月
業務擔當社員　片野　重吉

合資會社平和商會　富屋町
資本金　六萬圓　設立　明治二十八年八月
業　務　石炭及回漕業　業務擔當社員　喜多伊兵衞（外一）

內國通運株式會社神戸支店　東川崎町一丁目二　電話特一五五
本　社　東京市日本橋區佐內町　社　長　吉村甚兵衛
資本金　七拾五萬圓　設立　明治五年六月
神戸支店長　小池　敬定

神戸電燈株式會社　榮町通六丁目　電話　五一
資本金　六拾萬圓　設立　明治二十一年九月
業　務　電氣事業凍氷製造
社　長　頴川　君平　支配人　鈴木辰五郎

神戸瓦斯株式會社　芦原通四丁目　電話　七四二
同　出　張　所　榮町通五丁目　電話　五九五
資本金　貳拾萬圓　設立　明治三十一年六月
社　長　杉山　利介

兵庫運河株式會社　四柳原町九三　電話　一七八一
資本金　六拾萬圓　設立　明治二十七年八月
社　長　鹿島　秀麿

湊川改修株式會社　荒田町三丁目　電話　二三四
資本金　壹百萬圓　設立　明治三十年八月
社　長　秋山　恕郷　支配人　武岡　豐太

株式會社川崎造船所　東川崎町二丁目　電話（特七三七。一五一
資本金　四百萬圓　設立　明治二十九年十月
社　長　松方幸次郎　副社長　川崎芳太郎

因之島船渠株式會社神戸支店　錨治屋町　電話　八八六
本　社　廣島縣御調郡土生村　社　長　田阪初太郎
資本金　貳拾萬圓　設立　明治三十四年一月

兵庫倉庫株式會社　（倉庫業者欄參照）
東京倉庫株式會社神戸支店　（倉庫業者欄參照）

運河倉庫合名會社　（倉庫業者欄參照）

兵庫共濟株式會社　和田岬　電話　三九六
資本金　九萬圓　設立　明治二十二年六月
業　務　水族館及家屋倉庫貸貸
社　長　竹岡　豐太　支配人　浦木　弘

株式會社神戸商品取引所　榮町六丁目　電話　特一四一
資本金　貳拾萬圓　設立　明治二十年八月
業　務　米穀雜穀肥料石油石炭諸公債證券有價證券賣買取引
理事長　中村惣兵衛

株式會社神戸米穀株式外四品取引所　水木通三丁目　電話（一〇三。四九九六九
資本金　貳拾萬圓　設立　明治二十九年九月
業　務　米穀雜穀肥料石油石炭諸公債證券有價證券賣買取引
理事長　山本龜太郎

鐘淵紡績株式會社兵庫支店　東尻池　電話（特九五。特一、一四六
本　社　東京府南葛飾郡隅田村　電話（特二八三
資本金　五百八拾萬參千四百圓
設立　明治二十年五月
取締役社長　三井養之助　兵庫支店長　武藤　山治

東洋棉西合資會社　元町一丁目五七
資本金　貳萬七千圓　設立　明治二十九年六月
業　務　支那鷄卵輸入其他諸物貨輸出入
無任業務擔當社員　土谷仙太郎

內外綿株式會社神戸支店　榮町二丁目三九。電話　五八三
本　社　大阪市北區源蔵町　社　長　中野太右衛門
資本金　百貳拾五萬圓　設立　明治二十年九月
業　務　棉花絲綿布其他輸出入貿易及同工業汽船運送業
神戸支店主任　川邨　靜三

合資會社興泰商會　海岸通三丁目　電話（特三〇二。特八四三
資本金　拾貳萬壹千圓　設立　明治三十二年十二月
業　務　棉花直輸入及其他委托販賣
業務擔當社員　周　熊市（外一）

神榮株式會社　榮町三丁目二　電話　五九
資本金　六拾萬圓　設立　明治二十年五月
業　務　生絲俵托賣買及荷爲替金立替
社　長　伊藤長次郎

合名會社鈴木商店　榮町三丁目七　電話　特一五
資本金　五拾萬圓　設立　明治三十五年十月

業務　砂糖樟腦輸出入　代表社員　鈴木　よね

直輸砂糖合資會社　海岸通五丁目　電話　特三〇七

資本金　拾萬圓　設立　明治三十三年五月

業務　砂糖麥粉直輸入　業務執行社員　藤田　助七

合資會社フラワー商會　濱町一丁目　電話　特四九七

資本金　貳萬圓　設立　明治三十七年十月

業務　小麥粉直輸入　業務擔當社員　岸上　源作

大阪糖業株式會社神戸支店　榮町四丁目　電話　四一一

本社　大阪市南區鰹町通二丁目　社長　岩崎定三郎

資本金　拾萬圓　設立　明治二十二年五月

業務　砂糖米利堅粉直輸入販賣　神戸支店主任　馬場孫兵衛

關西花崗石合資會社　榮町六丁目

資本金　壹萬五千圓　設立　明治三十四年十一月

業務　石材及石材工事請負　業務執行社員　三浦　梅吉（外三）

關西石材合資會社　宮内町四六

資本金　壹萬五千圓　設立、明治三十一年十月

業務　船舶解撤及船舶賣買媒介

合名會社海商組　兵庫鍛冶屋町

資本金　壹萬圓　設立　明治三十四年二月

業務　海商地理仲立　代表社員　大岡純太郎

神戸共成株式會社　多聞通二丁目

同　出張所　多聞通五丁目

同　出張所　兵庫算所町

同　出張所　三宮町

資本金　壹萬圓　設立　明治三十二年六月

業務　土地建物賣買物品委托販賣保險募集民刑訴訟法經定電話便用權讓受渡新聞雜誌配達諸員其他人事百般ノ周旋　取締役　土井　一郎（外三）

株式會社兵神館　楠町七丁目　電話　五五七

同　神戸出張所　加納町四丁目　電話　五五八

同　兵庫出張所　北逆瀬川町　電話　五五九

資本金　拾萬圓　設立　明治三十三年三月

業務　貸家、土地ノ保證　社長　伊賀保太郎　事務長　土本角太郎

合資會社香伍社　辨天町一　電話　一、一〇五

資本金　參萬五千四百貳拾參圓　設立　明治三十六年七月

業務　果物青物委托販賣　代表社員　吉田吉兵衛

合名會社中井商店　三宮町一丁目　電話特　六七〇

資本金　貳萬圓　設立　明治三十四年三月

業務　屏風竹具雜貨委托販賣　社員　中井　政吉（外一）

神戸家屋建築合資會社　下山手通四丁目

資本金　壹萬圓　設立　明治三十五年二月

業務　土木建築請負　業務擔當社員　田坂　其吉

神戸起業合資會社　大開通一丁目

資本金　參萬圓　設立　明治三十一年十月

業務　土地家屋賣買貸借紹介土木建築請負　業務擔當社員　竹田　文吉

明治工業株式會社　西出町　電話　一六九

資本金　六萬圓　設立　明治二十一年十月
業務　土木建築請負　社長　小野　喜六

日本園藝株式會社　長田村
資本金　六萬圓　設立　明治二十九年四月
業務　庭園築造土木建築請負果樹庭木類諸盆栽培養並販賣
社長　伊藤六三郎

神戸勞働株式會社　荒田町三丁目　電話　七六八
資本金　拾萬圓　設立　明治三十三年十二月
業務　勞働建築請負　社長　大庭竹四郎

神戸渡航合資會社　元町六丁目　電話　四九三
資本金　參萬圓　設立　明治二十七年九月
業務　海外移住民取扱　業務擔當社員　吉川藤五郎

赤心株式會社　下山手六丁目　電話　二三一
資本金　拾萬圓　設立　明治十三年八月
業務　北海道混同農業　社長　鈴木　清

大陸殖民會社出張所　東川崎町二丁目
帝國殖民會社出張所　東川崎町二丁目

神戸市行清合資會社　元町四丁目
資本金　八萬四千圓　設立　明治三十三年六月
業務　屎尿汲取汚物掃除請負
代表社員　高田　義夫

兵庫衞生合資會社　切戸町
資本金　壹萬圓　設立　明治三十四年八月
業務　屎尿汲取　業務擔當社員　荒木政太郎

兵庫肥料合資會社　新在家町二〇
資本金　七萬圓　設立　明治三十三年五月
業務　屎尿汲除掃除　業務擔當社員　入江　午吉

自衞株式會社　仲町三丁目
資本金　拾萬圓　設立　明治三十三年九月
業務　屎尿汲除販賣藥劑掃除請負
社長　藤尾　幸一

森本合名會社　元町二丁目　電話　六三八
資本金　壹百萬圓　設立　明治三十三年十二月
業務　不動產賃貸　業務執行社員　森本六兵衞（外二）

佐野合名會社　西出町
資本金　拾萬圓　設立　明治三十五年八月
業務　不動產賃貸　代表社員　佐野松左衞門

資合金融合資會社　葺合町二三七二
資本金　壹萬圓　設立　明治三十年九月
業務　貸金業　社長　深谷　讓

共榮合資會社　小野柄通五丁目
資本金　壹萬千五百圓　設立　明治三十一年一月
業務　貸金業　代表社員　井上　善吉

諏訪山合資會社　山本通四丁目
資本金　壹萬五千圓　設立　明治三十年三月
業務　貸金業　業務擔當社員　今井鹿之助

杉本材木合資會社　北長狹通三丁目二二　電話　二二四四
資本金　壹萬圓　設立　明治三十六年七月
代表社員　杉本定次郎

日本木材株式會社　東尻池村六　電話　一八二
資本金　拾萬圓　設立　明治三十三年十月
社長　神田直五郎

內外礦油合資會社　北長狹通二丁目
資本金　壹萬圓　設立　明治三十三年一月
業務擔當社員　河合　要造

三熊兄弟合名會社　下山手通三丁目　電話特一、四六九
資本金　壹萬千五百圓　設立　明治三十六年二月
業務　明輝油花莚販賣　社員　三好　重吉

合資會社日英石油商會　榮町通二丁目　電話　四八
資本金　設立　明治三十八年二月
業務　ライジングサン石油會社輸入タンク石油一手販賣
業務擔當理事　江藤　岩彦（外一）

柿崎合名會社　南仲町　電話特一八一
資本金　拾萬圓　設立　明治三十四年十月
業務　石油鑛油販賣　業務執行社員　柿崎　嘉藏

山登石油合資會社　戸坂町　電話特一九五

資本金　六萬圓　設立　明治二十一年十月
業　務　土木建築請負　社　長　小野　喜六

日本園藝株式會社　長田村
資本金　六萬圓　設立　明治二十九年四月
業　務　庭園築造土木建築請負果樹庭木類苗盆栽培養並販賣
社　長　伊藤六三郎

神戸勞働株式會社　荒田町三丁目　電話　七六八
資本金　拾萬圓　設立　明治三十三年十二月
業　務　勞働建築請負　社　長　大庭竹四郎

神戸渡航合資會社　元町六丁目　電話　四九三
資本金　參萬圓　設立　明治二十七年九月
業　務　海外移住民取扱　業務擔當社員　吉川藤五郎

赤心株式會社　下山手六丁目　電話　二三一
資本金　拾萬圓　設立　明治十三年八月
業　務　北海道混同農業　社　長　鈴木　清

大陸殖民會社出張所　東川崎町二丁目
帝國殖民會社出張所　東川崎町二丁目

神戸市行清合資會社　元町四丁目
資本金　八萬四千圓　設立　明治三十三年六月
業　務　屎尿汲取汚物掃除請負
代表社員　高田　義夫

兵庫衛生合資會社　切戸町
資本金　壹萬圓　設立　明治三十四年八月
業　務　屎尿汲取　業務擔當社員　荒木政太郎

兵庫肥料合資會社　新在家町二〇
資本金　七萬圓　設立　明治三十三年五月
業　務　屎尿汲除掃除　業務擔當社員　入江　午吉

自衞株式會社　仲町三丁目
資本金　拾萬圓　設立　明治三十三年九月
業　務　屎尿汲除販賣藁莚掃除請負
社　長　藤尾　幸一

森本合名會社　元町一丁目　電話　六三六
資本金　壹百萬圓　設立　明治三十三年十二月
業　務　不動產賃貸　業務執行社員　森本六兵衞（外二）

佐野合名會社　四出町
資本金　拾萬圓　設立　明治三十五年八月
業　務　不動產賃貸　代表社員　佐野松左衞門

葺合金融合資會社　葺合町二二七二
資本金　壹萬圓　設立　明治三十年九月
業　務　貸金業　社　長　深谷　讓

共榮合資會社　小野柄通五丁目
資本金　壹萬千五百圓　設立　明治三十一年一月
業　務　貸金業　代表社員　井上　善吉

諏訪山合資會社　山本通四丁目
資本金　壹萬五千圓　設立　明治三十年三月
業　務　貸金業　業務擔當社員　今井鹿之助

杉本材木合資會社　北長狹通三丁目二二　電話　二二四四
資本金　壹萬圓　設立　明治三十六年七月
代表社員　杉本定次郎

日本木材株式會社　東尻池村六　電話　一八二
資本金　拾萬圓　設立　明治三十三年十月
社　長　神田直五郎

內外礦油合資會社　北長狹通二丁目
資本金　壹萬圓　設立　明治三十三年一月
業務擔當社員　河合　要造

三熊兄弟合名會社　下山手通三丁目　電話特一、四六九
資本金　壹萬千五百圓　設立　明治三十六年二月
業　務　明燿油花莚販賣　社　員　三好　重吉

合資會社日英石油商會　榮町通二丁目　電話　四八
資本金　設立　明治三十八年二月
業　務　ライジングサン石油會社輸入タンク石油一手販賣
業務擔當理事　江藤　岩彥（外一）

柿崎合名會社　南仲町　電話特一八一
資本金　拾萬圓　設立　明治三十四年十月
業　務　石油鑛油販賣　業務執行社員　柿崎　嘉藏

山登石油合資會社　戸場町　電話特一九五

資本金　五萬圓　　設立　明治三十二年二月
社　長　伊藤　良藏

日米石油合資會社　濱花町五六　電話　五　三
資本金　拾五萬圓　　設立　明治三十五年二月
業　務　石油委托販賣、紐育スタンダード代理店
業務擔當社員　高津　英馬(外二)

小島合名會社神戸出張所　元町五丁目
資本金　弐萬圓　　設立　明治二十九年九月
業　務　絨毯買洋服製造販賣
業務擔當社員　小島善五郎

株式會社渡邊屋呉服店　相生町五丁目　電話　一一九四
資本金　參萬圓　　設立　明治三十四年九月
專務取締役　山田　永忠

日本紙類貿易株式會社　海岸通六丁目　電話五六八
資本金　參萬五千圓　　設立　明治二十九年八月
社　長　岡崎　高厚

合資會社鼎商會　湊町一丁目
資本金　五萬圓　　設立　明治三十二年二月
業　務　毛布和洋紙販賣　　代表社員　石井源兵衛

合名會社大倉組神戸出張所　榮町一丁目　電話特一三六
本　社　東京市京橋區銀座通二丁目
資本金　壹百萬圓　　設立　明治二十六年十一月
業　務　海外貿易及諸官衙民間需用品供給

日本用達株式會社森本合名會社　湊町二丁目
資本金　參萬圓　　設立　明治三十三年八月
業　務　諸官衙用達　　代表社員　竹田　種松

日本緞通株式會社　三宮町三丁目
資本金　五萬圓　　設立　明治三十六年四月
取締役　藻川豐三郎(外四)

日本毛織株式會社　戸場町　電話特六二四
資本金　五拾萬圓　　設立　明治二十九年十二月
社　長　川西清兵衛

神戸商品合資會社　八幡通四丁目
資本金　壹萬圓　　設立　明治三十二年八月
業　務　木材米穀賣買　　業務擔當社員　田熊　豐吉

兵庫精米株式會社　大開通六丁目　電話一〇四二
資本金　六萬圓　　設立　明治三十年三月
業　務　米麥精製販賣　　專務取締役　澤野　定七

日本精米株式會社　今出在家町三丁目　電話特　九一
資本金　四拾萬圓　　設立　明治二十年九月
專務取締役　木谷吉次郎　　支配人　永見　吉明

日本米穀株式會社　銀治屋町五一　電話　一六八
資本金　五拾萬圓　　設立　明治二十年十二月
專務取締役　柏木庄兵衛　　支配人　山下　幸雄

三菱合資會社神戸支店　相生町一丁目　電話特　七四六七
本　社　東京市麹町區八重洲町一丁目
資本金　五百萬圓　　設立　明治二十六年十二月
業　務　鑛山業造船運送鑛物製煉及銀行業
支店長　木村久壽彌太

播磨採鑛合資會社　多聞通二丁目　電話　一〇
資本金　參萬五千圓　　設立　明治三十二年四月
專任業務擔當社員　伊賀保太郎

有馬鑛泉合資會社神戸支店　三宮町一丁目　電話一、四六七
本　社　有馬郡有馬町　　社　長　鳥井　駒吉
資本金　參萬圓　　設立　明治三十三年十二月
業　務　鑛泉精製販賣　　支配人兼支店長　村田猪久馬

水銀鑛業合資會社　北長狹通五丁目
資本金　五萬圓　　設立　明治二十九年六月
業　務　水銀鑛採堀及水銀製煉販賣
社　長　小磯　吉人

神戸屠畜株式會社　茸合眞砂通二丁目
同　支　店　東尻池村
資本金　壹萬圓　　設立　明治二十三年一月
專務取締役　河野　貞吉

株式會社神戸屠畜場　東尻池村
資本金　參萬圓　　設立　明治三十五年九月
社　長　田寺　敬信

播磨採鑛合資會社　多聞通二丁目　電話　一〇

神戸畜産株式會社　莊合町長井　電話[一〇六三]
資本金　貳萬五千圓　設立　明治二十九年一月
社長　河井　貞一

株式會社神戸兵庫家畜定市場　東尻池村
資本金　貳萬圓　設立　明治三十四年九月
社長　田寺　敬信

東京製網株式會社兵庫分工場　入江通五丁目　電話三七五
本社　東京麻布區木村町
資本金　五拾萬圓　設立　明治二十年四月
業務　麻網網索鐵索其他各種網類
分工場主任　山本　孝止

兵庫興業株式會社　吉田新田字濱山
資本金　參萬圓　設立　明治二十九年四月
業務　製網業
社長　高橋　喜介

日本紙軸燒寸製造合資會社　水木通四丁目　電話[一一九六]
資本金　貳萬圓　設立　明治二十八年十二月
專任業務擔當社員　淺井　嘉藏

良燧合資會社　水木通一丁目　電話　六一五
資本金　貳拾萬圓　設立　明治三十年十二月
業務　燐寸製造
社長　瀧川　辨三

開榮株式會社　大開通三丁目　電話　六一一
資本金　拾五萬圓　設立　明治二十六年三月
業務　燐寸製造
社長　澤田清兵衛

合名會社大阪朝日新聞社神戸通信販賣局　榮町五丁目　電話[一〇三七]
本社　大阪市北區中之島三丁目
資本金　拾參萬五千圓　設立　明治二十八年十月
業務擔當社員　村山　龍平（外一）

合資會社大阪每日新聞社神戸支局　相生橋四詰　電話七六二
本社　大阪市東區大川町
資本金　拾五萬圓　設立　明治二十六年十二月

神戸演劇株式會社　相生町三丁目
資本金　四萬圓　設立　明治二十六年十二月
社長　澤野　定七

兵庫演劇株式會社　東柳原町
資本金　貳萬五千圓　設立　明治三十五年十二月
取締役　小林　初藏（外四）

神陶株式會社　元町二丁目　電話特一、一六五
資本金　參萬圓　設立　明治二十八年四月
業務　陶器磁器販賣
專務取締役　山本貞三郎

神戸木工株式會社　三宮町二丁目　電話一、一五八
資本金　拾萬圓　設立　明治三十六年四月
業務　諸箱製造販賣
取締役　山本龜太郎（外四）

淺井合名會社　三宮町二丁目　電話　七三五
資本金　壹萬貳千圓　設立　明治三十六年二月
業務　凍氷販賣
代表社員　淺井　嘉藏

久組　三宮町三丁目　電話　八〇五
合名會社
資本金　七萬九千圓　設立　明治三十二年七月
業務　麥稈及麥稈眞田紐製造販賣
代表社員　矢切芳太郎

神戸牛乳滅菌合資會社　莊合二宮町一丁目
資本金　壹萬圓　設立　明治三十三年九月
業務　牛乳委托販賣竝乳製品製造
代表社員　山口　豐吉

神戸樟腦精製合資會社　八雲通六丁目　電話　六二七
資本金　參萬圓　設立、明治三十五年四月
業務執行社員　谷　勘治

日本製茶輸出株式會社　相生町一丁目　電話　八四五
資本金　貳拾萬圓　設立　明治二十九年二月
專務取締役　駒田彦之丞

京參合資會社　南仲町
資本金　壹萬圓　設立　明治二十七年八月
業務　酒類賣買
業務擔當社員　高羽　爲介

日本商標印刷合資會社　水木通二丁目九　電話　八〇三
資本金　拾五萬圓　設立　明治三十七年一月
社長　金子　定雄

山崎合名會社兵庫支店　小物屋町

神戸九資株式會社　大開通
資本金　八萬圓　設立　明治三十四年八月
業務　火葬取扱兼具貸貸　取締役　平松友太郎（外二）

其隣株式會社　川崎町　電話一、〇五六
資本金　拾萬圓　設立　明治三十一年五月
業務　鐵道及工業用品船具販賣
社長　鎌田磐藏

奥田合資會社　戸場町
兵庫海魚合資會社　今出在家町二丁目
資本金　壹萬貳千圓　設立　明治二十六年四月
業務　海魚市場其他海魚賣買
業務擔當社員　田中利三郎（外三）

神戸良水株式會社　東川崎町二丁目　電話　五七四
資本金　九萬圓　設立　明治三十一年六月
業務　船舶給水曳船
社長　直木政之介

趙齋合資會社　相生町二丁目
資本金　壹萬圓　設立　明治三十年四月
業務　火葬取扱兼具貸貸
業務擔當社員　三浦半兵衛（外二）

關西寫眞製版印刷合資會社神戸支店　再度筋字楠　電話一〇七四
本社　大阪市東區高麗橋五丁目
社長　光村利藻
資本金　壹萬圓　設立　明治三十四年十月
神戸支店主任　高木秀太郎

喜多組池田河内合名會社　濱邊通三丁目　電話五〇九
資本金　壹萬五千圓　設立　明治二十七年六月
業務　晒木蠟委托販賣製造
代表社員　池田貫兵衛

株式會社神港倶樂部　下山手六丁目　電話　七三
資本金　貳萬三千九百七拾五圓　設立　明治三十年五月
業務　智識交換親睦娯樂席貸
社長　兼松房次郎

小野濱鐵工コークス株式會社　磯上通三丁目
資本金　參萬千五百圓　設立　明治三十五年九月
取締役　入江　午吉（外二）

日本食鹽コークス株式會社　御崎村字南幡　電話一、四四八
資本金　五萬圓　設立　明治三十六年六月
取締役社長　宝谷　藤七

合資會社京華社神戸支店　榮町通五丁目　電話　七七八
本社　京都市三條通東洞院東
業務執行社員社長　後川　文藏
資本金　壹萬參千圓　設立　明治二十八年十二月
業務　諸新聞廣告取扱　支店長　細木貞三郎

帝國海上運送火災保險株式會社神戸出張所（保險業者）
横濱火災運送信用保險株式會社神戸支店（關參照）（保險業者）
東京海上保險株式會社神戸支店（關參照）（保險業者）
日本海上運送保險株式會社神戸支店（關參照）（保險業者）
日本酒造火災保險株式會社神戸出張所（關參照）（保險業者）
京都生命保險株式會社神戸出張所（關參照）（保險業者）
日本火災保險株式會社神戸支店（保險業者）
日本生命保險株式會社神戸出張所（關參照）（保險業者）
日宗火災保險株式會社神戸出張所（關參照）（保險業者）
日宗生命保險株式會社神戸出張所（關參照）（保險業者）
內國生命保險株式會社神戸出張所（關參照）（保險業者）

東京火災保險株式會社神戸支店（保險業者）
大同生命保險株式會社神戸出張所（關參照）（保險業者）
大阪火災保險株式會社神戸出張所（關參照）（保險業者）

本項に於て銀行は其總てを、會社は壹萬圓以上の資本金のものを集めたるも內には資本金額の不明なるものにて單に見込を以て揭げたるものあり、尙役員調の如きは三十六、七兩年度に涉りて調査し內幾分は三十八年調のものあるも從つて訂せば從つて變じ須臾も停止することなければ本書發行の日に於ては已に尠からざる移動あるべきを覺悟せり讀者請ふ諒せよ

第二十五節　元居留地商館及其他の外國商館營業案內

○一番（英）　海岸通　電話　二九二
ストロン商會　横濱七一番　六四二
W. M. Strachan & Co. Ltd.
支配人　G. C. Town.
日本人館員　山口常三郎　春藤作太郎

阿倍第二　大原曉三
營業種目　洋銀、金巾、洋織物、綿花、雜貨、金屬類、器械類、輸入　鋼、米穀輸出　保險代理業

〇二　番（英）　港岸通　電話六四二
香港上海銀行　横濱二番
Hongkong Shanghai Banking Corporation.
支配人　J. Maclean.　貝瀞盛卓峯
日本人館員　奥田峻太郎　分銅傳吉
營業種目　銀行業

〇三　番（米）　港岸通　電話一、三一〇
スミス、ベーカー商會　横濱一七八番
Smith Baker & Co.
支配人　D. B. Taylor. A. Rasumssen.
營業種目　米、棉國、花莚、輸出　時計、陶器、石油、輸入

〇五　番（英）　港岸通　電話七五三
ドッドウェル商會　横濱五〇番
Dodwell & Co. Ltd.
支配人　Geo. J. Melhuish.
日本人館員　長瀬治三郎
營業種目　汽船代理店　保險代理業

〇五　番　港岸通
米國領事館　United States Consulate.

〇五　番（英）　港岸通
ペニー商會　Geo. J. Penney.
館主　Geo. J. Penney.
日本人館員　廣岡敎太郎
營業種目　競賣仲立業

〇七　番（英）　港岸通　電話四九二
コルネス商會　Cornes & Co.　横濱五四〇八番
館主　Cornes.
日本人館員　高橋治次郎　大岡柴田關松林
營業種目　小麥粉、穀物、肥料、洋反物、染物、鐵類、機械類、紙、綿花、時計、繊維類、

小間物輸入　保險代理業　汽船代理店

〇八　番A（佛）　居留町　電話三五五
ライマース、ライフ商會　Reimers & Reiff.
館主　Richard Reiffy.
支配人　Nirrnheim.
日本人館員　池田正友　海堀清助　鳥居定吉
營業種目　羅紗、毛布、砂糖、亞鉛板其他輸入

〇八　番（獨）　港岸通
オットライマース商會　横濱一八六番
Ott Reimers & Co.
支配人　E. Krevatin.
日本人館員　水野孫七　谷本信次郎　井上庄次郎
營業種目　鋼、繊物、染料、原生絲、原布其他天產物輸出業

〇八　番B（米）　港岸通　電話四九一
萬國通運銀行　横濱七五番
International Banking Corporation.
支配人　J. D. Longmire.
營業種目　銀行業

〇九　番　居留町
澳地利匈牙利領事館　Austro-Hungarian Consulate.

〇九　番B　居留町
英國領事館　British Consulate.

〇十　番　港岸通
白耳義國領事館　Belgian Consulate.

〇十　番　港岸通
巴西副領事館　Brazilian Vice Consulate.

〇十　番（英）　港岸通　電話三六七
アーレンス繼續社　横濱二九番
H. Ahrens & Co., Nachf.
支配人　A. Hofmann.
日本人館員　早川喜三郎　杉村佐太郎

土橋卯之助　牛島英雄
鳥居由太郎
營業種目　鑛油類、機械、藥品、麗紗、染料、其他輸入保險代理業

○十一番（米）　京町
ジョージ、エッチ、メーシー商會　横濱二一六番
Geo. H. Macy & Co.
支配人　James Green.
日本人館員　市村梅太郎
營業種目　製茶輸出

○十二番（佛）　港岸通　電話四三二六二番
イリス商會　C. Illies & Co.　横濱五四番
總支配人　Busehel.
支配人　R. Pohl. R. Koops.
日本人館員　吉川久七　吉川友一
千賀市太郎　石祝熊吉
笹本芳川
營業種目　機物、鐵、染物、蓄機械類、其他輸入鋼、機關、紙天、其他輸出　汽船荷理店　保險代理業

○十四番（日、英）　前町
日本語公會出版社　Church Publishing House.
英國聖書會社　The Bible. House.
支配人　F. Parrott.
日本人館員　K. 箱　田　H. 箱　田
營業種目　聖書其他基督教書類賣捌

○十四番（英）　前町
ベネット、ダニエル商會　横濱二番
Bennet Daniel & Co.
館主　W. R. Bennett.
日本人館員　樺原孝太郎
營業種目　外國爲替仲買業

○十四番（米）　原花町　電話六五
加奈陀太平洋鐵道汽船會社　横濱一四番
Canadian Pacific Railway Co.s Royal Maill S.S. Line.

支配人　G. Millward.
日本人館員　小山田仙太郎
營業種目　汽船業

○十四番B（英）　前町
平野鑛泉株式會社
Hirano Mineral Water. & Co. Ltd.
支配人　C. O. Heath.
營業種目　平野天然炭酸水瓶詰販賣

○十四番B（英）　前町
リチル商會　H. E. Reynell & Co.
館主　H. E. Reynell.
支配人　R. Ross-Reid.
日本人館員　内田幸二郎　佐野
營業種目　洋酒、宅鍵物、鐵類其他輸入保險代理業

○十五番　通定町
ロビンソン　W. J. Robinson.

○十六番A（英）　揚屋町　電話三六一番
セス商會　Seth & Co.
館主　R. A. Sethna.
支配人　A. J. Buckley D. H. Korkhan.
M. J. Doctor.
日本人館員　岩田平吉　石田五三郎
水田宇平　松永豐助
營業種目　棉花、洋酒、外國米其他輸入樟腦、木、機物、麻田其他輸出

○十六番A　揚屋町
レデー倶樂部　Ladies' Club.
會員　Mrs. Hansell.

○十六番（英）　前町
ピー、エス、カベルデュ商會　P. S. Cabeldu & Co.
館主　P. S. Cabeldu.
日本人館員　伊藤米吉
營業種目　裁縫、家具商及倉庫業

○十六番B　前町

領事館　領事館

○十六番B(獨)　前町
ノルマル・デスペンサリー會社
Narmal Dispensary Ltd.
支配人　W. Schmidt.
營業種目　藥品並化學用品

○十七番(英)　前町　電話三四三
ダビド商會　S. J. David & Co.
支配人　M. J. Masses,
營業種目　綿花商

○十七番(清)　前町
怡生　E. Sang.
營業種目　理髮業

○十八番(英)　前町
兵庫ホテル　Hyogo Hotel.
支配人　W. H. Walters.
日本人使員　鈴木倉太郎　末永義治

○十八番A(英)　前町
ヒー・シー・シーム商會　A. C. Sim & Co.
組主　A. Richardson.
營業種目　諸藥品、香水、石鹸類商、及ラムチ製造業

○十八番B(英)　明石町
ライオン商會　Lyons & Co.
組主　J. Lyons.
日本人使員　住野庄三郎
營業種目　貨物陸揚及船積請負業

○十八番(英)　明石町
バックニル・フォーラー　Dr. J. Bucknill Fowler.
醫師

○十九番　明石町
倉庫

○二十番(英)　榿壹町　電話三五〇
ルカス商會　H. Lucas & Co.　橫濱七四番
組主　H. Lucas.
支配人　G. C. Pakenham.
日本人使員　金井良井内乕藏
營業種目　雜貨輸出入業　汽船代理店　保險代理業

○二十番(英)　榿壹町　電話三五〇
ドルーエル商會　A. Drewel & Co.
組主　A. Drewel.
日本人使員　堀本羅太郎
營業種目　船舶運貨貸借業　運送仲立業　石炭、酒類、炭酸水販賣

○二十番B(英)　榿壹町
アレキシスダニエルハンセル
Alex. N. Hansell F. R. I. B. A.
組主　A. N. Hansell.
日本人使員　横山榮吉
營業種目　建築技師

○二十一番B(獨)　榿壹町
アイ・エイ・エリオン　I. A. Ailion.
組主　I. A. Ailion. D. Ailion.
日本人使員　遠藤松本江本
營業種目　雜貨輸出入及仲買業

○二十一番B(獨)　榿壹町
オルデンブルグ・エンド・シャイド
Oldenburg & Scheidt.
組主　E. Oldenburg. F. Scheidt.
營業種目　貸船仲買業

○二十一番(獨)　榿壹町
ノイベルト商會　Neubert & Co.
組主　G. Neubert.
營業種目　輸出入業

○二十一番(米)　須花町
イー・エッチ・タスカ商會　橫濱一九四番
E. H. Tuska.
組主　E. H. Tuska.

支配人　Prosper Ternes.

日本人館員　上柳　上田　永北原
　　北花木　松田　永野
　　米湖　久保

營業種目　水金、陶器用繪具、衛生、自轉車及同
　　付屬品等輸入　陶器類、竹器類、絹
　　物類、天產物、海產物、其他雜貨輸出

○二十三番（英）　元花町

リチル商會輸出部

H. E. Reynell & Co. Export Department.

館主　H. E. Reynell.

日本人館員　守屋　慈治

營業種目　雜貨輸出

○二十三番（英）　元花町　電話二三三五

神戸ヘラルド新聞社　Kobe Herald.

社長　A. W. Curlis.

支配人　J. 門田

○二十五番（獨）　仲町　電話四三一

フワバーボイト商會　Faber & Voit.

支配人　H. Clement.

日本人館員　富政次郎　獲庭龜治
　　志馬源藏　井上友三郎
　　井村祐太郎

營業種目　染粉、織物、小間物、銅鐵類、棉花、毛
　　絲輸入　竹材、樟腦、アンチモニー
　　米、燐寸、白蠟、花莚、其他雜貨輸出
　　船舶買賣　汽船代理店　保險代
　　理業

○二十六番（英）　濱花町　電話二六一

チャータード銀行　横濱五八番

Charterd Bank of India Australia and China.

支配人　J. Adamson.

日本人館員　當沼四郎　森忠太郎

營業種目　銀行業

○二十六番（英）　元花町　電話六九八

ブラオン商會　Brown & Co.　横濱七二番

支配人　H. Gill.

日本人館員　藤田　茂

營業種目　織物、毛布、銅鐵、砂糖、綿絲、棉
　　花輸入　米、燐寸、蚕糸、田圃其他
　　雜貨輸出　汽船代理店　保險代
　　理業

○二十六番（英）　元花町　電話六九八

ロビソン商會　Robison & Co.　横濱三番

支配人　H. Gill.

日本人館員　藤田　茂

營業種目　汽船代理店　保險代理業

○二十六番B（米）　元花町　電話二三三二

ヴアキユーム油會社　横濱六〇番

Vacuum Oill Co.

支配人　H. E. Daunt.

營業種目　機械油及雜貨販賣業

○二十七番　仲町

ジエーシーアベル宅　Mrs. J. C. Abell.

○二十八番（佛）　根岸町　電話三七八

オツペンヘール、フレール商會　横濱一三番

Oppenheimer Freres.

支配人　E. Blum.

日本人館員　坪川掌吉　達藤　等
　　村上孟次郎　山田安之助
　　時枝卯之松

營業種目　金屬、洋酒、時計、石鹼、サフラン、樂
　　品、染料、織物、其他輸入　樟腦、花
　　莚、竹材、蚕糸、木蠟、魚油、安質母
　　尼、米、牛皮等輸出

○二十九番（英）　根岸町　電話二八七

イーエヌチハンター商會　E. H. Hunter & Co.

館主　E. H. Hunter.

支配人　E. W. Norl.

日本人館員　渡邊高綠太郎　中野豐太郎
　　奥才五郎

營業種目　諸機械器具、造船鐵材、船舶用品、

金物類、綿糸、塗料油、鑛、外國木材、煙草、米穀、瓦質陶器、硫黄其他雜物輸出入品一切　燐鑛石、硫酸アンモニヤ、及骨粉燐石、其他人造肥料輸入販賣

○四十番（英）　明石町

スキップワオースハンモンド商會
Skip warth, Hammond & Co.
支配人　S. Fidler.
日本人館員　梶原成藏
營業種目　西洋諸織物、小間物類販賣　洋服裁縫

○三十一番B（獨）　明石町　電話三六九

ベッカー商會　Becker & Co.　横濱一九五番
館主　E. Becker.
支配人　H. Von Hammerstein. K. Bandclow. K. Roller.
日本人館員　芳木正助　青池德吉

井原金一　滋田辰二郎
大井原孝太郎
營業種目　機械類雜貨其他輸入　保險代理業

○三十一番A　仲町

グロッセル商會倉庫

○三十一番A（獨）　明石町　電話七九八

グロッセル商會　Grosser & Co.　横濱一八〇番
館主　A. Haseke.
支配人　N. Richler.
日本人館員　福田八之助　市田德松
福田辰貴智　古川倍造
營業種目　染粉、洋酒、織物、鐵類、毛絲、硝子、洋紙、皮、セメント、其他輸入　樟腦、花莚、竹材、寒天、鑛油、白蠟、燐寸、其他輸出　保險代理業

○三十一番A（英）　明石町

ダウン倶樂部　Down's Club.
館主　W. Down.

○三十一番（獨）　明石町　電話一一〇六

ルンゲ、トーマス商會　横濱九〇番
Runge & Thomas.
支配人　J. Sturcke. F. Horstmann. Ott Busing.
營業種目　直輸出入業

○三十五番（英）　四町

ジョン、バーチ會社　Jno. Birch & Co., Ltd.
バーチ、キルビー會社　Birch, Kirby & Co., Ltd.
支配人　S. Meadows.
日本人館員　中津渉炳也　長井辰十九
岡本駒四郎
營業種目　金物類、機械類一切輸入

○三十五番　仲町　電話六六三

木原商會
館主　木原福三郎
營業種目　船具並各工業用品輸入販賣

○三十六番（英）　仲町　電話七九六

ハッチソン商會　横濱一八三番
Hutchison & Co.
支配人　H. J. Marshall.
日本人館員　村上外治　松山信二郎
營業種目　金巾、織物、洋絲、其他輸入　保險代理業

○三十六番（米）　仲町

エフ、ダブルユー、ホーン　横濱七〇番
F. W. Horne.
館主　F. W. Horne.
支配人　J. A. Rabbitt.
日本人館員　木原栃嗣　山口庶一
營業種目　米國諸機械工具輸入

○三十七番　仲町

加特利克教會　Catholic Mission.

○三十八番（佛）　仲町

佛國郵船會社　横濱九番
Compagnie des Messageries Maritimes.

支配人　L. Roux. A. Chaix.
日本人館員　原吾槌　田淀大造
營業種目　汽船業

○三十八番　仲町
杉村洋行
館主　杉村興一郎
館員　田村重矩　足立榮助
營業種目　日清商館出入商

○三十八番（英）　仲町
テヴアーソン、マクタビシュ
Teverson and Mactavish.
館主　Teverson. Mactavish.
營業種目　手形及金銀仲買業

○三十九番（英）　明石町
テーラー、クーパー商會　Taylor, Cooper & Co.
館主　W. S. Taylor.
日本人館員　林純治　原田確次郎
中村成一　多田公平
宮島正太郎
營業種目　仲買諸機械輸入　花莚雜貨輸出

○四十一番（佛）　英町
聖嬰利亞女學校
Prphelinat des Soeurs de l'enfant Jesus.
校長　Ildephonse.

○四十二番A（英）　四町　電話三五九
イー、パベニー　E. Pabany.
支配人　K. R. Dandawala.
日本人館員　友藤鶴次松村長造
吉川猶次郎　篠原耕吉
營業種目　棉花綿絲輸出入

○四十二番B（清）　四町
廣同生　Kwong Tong Sang & Co.
館主　盛紹廷
營業種目　食料品其他洋酒麥粉小間物販賣

○四十二番C（佛）　英町
ゴメス兄弟商會　Gomes Bros, & Co.
館主　J. B. Gomes.
支配人　F. S. Souza.
營業種目　雜貨輸出入

○四十二番（英）　英町　電話五七九
エー、シー、シャークー　A. C. Shakoor.
館主　A. C. Shakoor.
日本人館員　ソ千崎
營業種目　米、綿輸入

○四十三番A（清）　四町
其昌號　Kee Cheong.
支配人　李細其
營業種目　羅紗洋服裁縫

○四十三番B（清）　四町
怡南　E. Nam & Co.
支配人　任省修
營業種目　製本、印刷、文房具、食品其他販賣

○四十三番　四町
三之宮郵便局

○四十四番　仲町
スミス、ベーカー商會倉庫

○四十六番（英）　携帶町　電話一六三四九
セール、エンド、フレンザー株式會社　横浜一六七番
Sale & Frazer Ltd.
館主　R. S. Sale. V. M. Sale.
日本人館員　伊庭與吉
營業種目　諸機械、銅、鐵類、船具、鉱、織物、其他輸入、保險代理業

○四十七番（獨）　明石町
エー、エストマン商會　横浜七四番
A. Oestmann & Co.
館主　A. Oestmann.
支配人　L. Babsien.
日本人館員　鶴田勇造　進藤富造
石原擴

營業種目　電氣器械、毛絲織物、タオン絲、皮革、金物類、諸機、器械、時計、紙其他小間物類輸入　天產物輸出

○四十六番　明石町
神戸ユニオン教會　Kobe Union Church.

○四十八番（英）　明石町　電話二四三
イー、デー、サスヱン商會　E.D. Sassoon & Co.
支配人　M. S. Joseph.
日本人館員　金絲邦太郎
營業種目　棉花、仲買、雜貨輸出入

○四十八番　明石町
外海商會
館主　外海鐵太郎
營業種目　棉花仲買、雜貨輸出入

○四十九番（露）　榿園町　橫濱二六番
ポラック兄弟商會
Pollak Brothers.

○五十一番（英）　榿園町　電話九七二
エル、デイ、アブラハム商會　橫濱三八番
L. D. Abraham & Co.
館主　L. D. Abraham.
營業種目　蚕種買出、花莚、艀漁、毛皮其他雜貨輸出

○五十一番（英）　榿園町
シュラフ商會　Shroff & Co.
館主　U. M. Mehta.

○五十一番（英）　榿園町
エッチ、イー、ボットルウヲラー商會
H. E. Bottlewalla & Co.
館主　H. E. Bottlewalla.

○五十一番（英）　榿園町　電話九七二
ジー、ドッサ商會　G. Dossa. & Co. Ltd.
支配人　V. M. A. Pathan.
日本人館員　川口孝吉
營業種目　米、綿輸入

○五十二番（英）　榿園町
シングルトン、ベンダ株式會社　橫濱九六番
Singleton, Benda & Co. Ltd.
館主　C. Benda.
日本人館員　荒川由藏　石田保三郎
田中兵治郎　淺見房次郎
田中安松　小野米治太郎
柴田常吉
營業種目　自轉車、反物其他雜貨輸入　雜貨輸出

○五十二番　榿園町
兵庫大阪商業會議所
Hiogo and Osaka, General Chamber of Commerce.

支配人　T. Feicke.
日本人館員　吉岡群彦　遠山貸一
樹德太郎
營業種目　蚕種、花莚、天產物、パリヤス其他雜貨輸出入業

○五十一番（英）　榿園町　電話九七二
エル、デイ、アブラハム商會　橫濱三八番
L. D. Abraham & Co.
館主　L. D. Abraham.
營業種目　蚕種買出、花莚、艀漁、毛皮其他雜貨輸出

○五十一番（英）　榿園町
シュラフ商會　Shroff & Co.
館主　U. M. Mehta.

○五十一番（英）　榿園町
エッチ、イー、ボットルウヲラー商會
H. E. Bottlewalla & Co.
館主　H. E. Bottlewalla.

○五十一番（英）　榿園町　電話九七二
ジー、ドッサ商會　G. Dossa. & Co. Ltd.
支配人　V. M. A. Pathan.
日本人館員　川口孝吉
營業種目　米、綿輸入

○五十二番（英）　榿園町
シングルトン、ベンダ株式會社　橫濱九六番
Singleton, Benda & Co. Ltd.
館主　C. Benda.
日本人館員　荒川由藏　石田保三郎
田中兵治郎　淺見房次郎
田中安松　小野米治太郎
柴田常吉
營業種目　自轉車、反物其他雜貨輸入　雜貨輸出

○五十二番　榿園町
兵庫大阪商業會議所
Hiogo and Osaka, General Chamber of Commerce.
會頭　F. J. Bardens.
副會頭　Ch. Lange Dera Camp.
日本人書記　中野昌

○五十三番（日）　榿園町　電話六三一
ライジング、サン、石油株式會社　橫濱二七番
Rising sun Petroleum Co., Ltd.
支配人　J. H. Fawkner.
日本人館員　乙野口M船橋
G大坪
營業種目　營業用並、米國產石油輸入

○五十三番（英）　榿園町
ジェー、エラートン　J. Ellerton.
館主　J. Ellerton.
日本人館員　K富田
營業種目　海陸取扱、ロイド船名錄取次販賣

○五十四番（英）　榿園町　電話三六六
サミュル、サミュル商會　橫濱二七番
Sameul, Sameul & Co.

支配人　F. J. Bardens.
日本人館員　廣間米吉　堀内千太郎
　　島山一郎　笠屋有吉
　　宮田保次郎　矢澤豹彦
營業種目　雜貨輸出入　汽船代理店　保險代理業

○五十四番（英）　海岸通
ヤンツーキャン海上保險株式會社
Yangtsz Insurance Association. Ltd.
支配人　J. D. Thomson.
營業種目　保險業

○五十五番　仲町
倉庫

○五十五番　仲町　電話七〇二番
野澤組　横濱二四番
支配人　野澤雄治
館員　SK吉　M山崎
　　S中　村岡

○五十六番（米）　元町　電話三五六番
フレザー商會　Frazar & Co.　横濱一一〇〇番
支配人　A. W. Crombie.
日本人館員　友常毅三郎
營業種目　蒸氣機械、鐵道諸機械、其他機械類、機關油、棉花輸入　銀行及保險代理業

○五十六番BA（米）　元町　電話三五一番
紐育スタンダード石油會社支店　横濱八番
Standard oil company of New York.
支配人　E. G. Ackermann.
日本人館員　川口平次郎　塚本永喜
　　仁田九朔　坂原重一
營業種目　石油其他諸油、蠟、輸入

○五十六番（英）　元町
ジャーデン、マヂソン商會茶業部
Jardine, Mathson & Co. Tea Department.

營業種目　蚕糸原田、鹿木貞田、其他雜貨輸出入

○五十九番A　元町
シングルトン、ベンダ商會倉庫

○五十九番B（獨）　元町
リチャード、レルフ宅　Richard Relff.

○六十番（獨）　波止場　電話九一四番
ベルグマン商會　Bergmann & Co.　横濱一五四番
館主　H. Ramseger.
日本人館員　吉田松三郎　河内清吉
營業種目　雜貨輸出入

○六十一番　元町
ハント商會倉庫

○六十二番（英）　元町
ハント商會　Hunt & Co.　横濱二一二番
支配人
日本人館員　三田文吉
營業種目　製茶輸出　保險代理業

營業種目　製茶輸出

○六十三番（英）　元町　電話六八九番
シワン、トムス商會　Shewan, Toms & Co.
支配人　H. E. Green.
日本人館員　財津龜三郎　伊藤龍一
　　森本新吉　S三輪
　　T吉賀
營業種目　砂糖、米、棉花、鐵類、毛布輸入　椅子、花莚、綿絲、付木、フランネル、絣、寒冷紗、石炭、硫黄、安眞帝尼其他雜貨輸出　汽船代理店　保險代理業

○六十四番（英）　元町　電話一三六六番
ブラック、モーア商會　Black More. & Co.
支配人　J. L. Brown.
日本人館員　池田豐三郎
營業種目　雜貨輸出入

○六十五番　元町
ブラウン商會倉庫

○六十六番（閣）　原花町
エドマンド・スタッケン　Edmund Stucken.
館　主　E. Stucken.
營業種目　輸出入　保險代理業

○六十六番（米）　仲町
ハーロード・スレード
Harold Slade. M. D. D. D. S.
醫師（齒科及眼科）

○六十七番　仲町
フベボイト商會倉庫

○六十八番（閣）　京町　電話六六
エー・マイエル商會　横濱二四番
A. Meier & Co.
支配人　W. Heitmann.
日本人館員　安倍平吉　安倍卯三郎
橋本泰藏
營業種目　毛絲、毛織物、フランチル、染粉、洋紙、硝子、器械類、時計類輸入

○六十九番（英）　京町
プリース・マリアンス株式會社　横濱二六三番
Priest, Marians & Cc. Ltd.
支配人　W. King.
日本人館員　唐津俊一　木谷大郎
菱田平十郎　Y松田

○七十番（英）　京町　電話四五六
バウデン兄弟商會　横濱五五番
Bowden Brothers & Co., Ltd.
支配人　N. M. Campbell.
日本人館員　清水倘三郎　進藤才助
營業種目　牛皮、牛骨、動物肥料、錫、鉛、無水安母尼亞、織物、其他雜貨輸入　銅、米、糠、硫黄、其他雜貨輸出

○七十番（英）　京町　電話一三六七
モリソン商會　Mollison & Co.　横濱八四番
支配人　Matthew Brown.

日本人館員　石井篤平
營業種目　洋反物、火藥、其他雜貨輸入　雜貨輸出

○七十二番　京町
ベント商會倉庫

○七十三番　京町
ゲーン・エヴイソン・スタッチブリー商會
Geen, Evison, Stutchbury & Co.　横濱八六番
支配人　H. T. Paub.
日本人館員　荻倉宮吉　黒木孝重
營業種目　陶器、玩具、其他雜貨輸出

○七十五番（閣）　京町　電話七五五
謙信洋行支店　横濱九六番
China export-import & bank Compagnie.
支配人
日本人館員　西山野村米谷吉田
營業種目　藥品、染粉、雜貨其他輸入　雜貨輸出銀行業

○七十六番（米）　京町　電話八三六
アベンハイム兄弟商會　Abenheim Bros.
館　主　R. E. Abenheim.
日本人館員　田中加藤兒島
營業種目　諸織物、雜紙、喞筒、光學器械、時計、自轉車、自動車、同附屬品、金物細工品其他雜貨輸入

○七十六番（閣）　京町　電話一三九九
カーロウイッツ商會　Carlowitz & Co.
支配人　A. Camerson.
日本人館員　K高城　D城野
T岡高　崎城
T加藤　B S道
T亀井　杉杉原
T河前　江原
營業種目　花莚、家和其他雜貨輸出入

○七十七番　北町

ラベニ商會倉庫

○七十八番A(佛)　京町
エヂチ・メレキ　H. Merecki.
仙主　H. Merecki.
日本人仝員　本田近藏
營業種目　ラシャ・諸羅紗輸入

○七十八番A(佛)　指圖町　電話I・I五〇
ギシン・シュミンガー　横濱九三番
Gisin and Schoedninger.
仙主　A. Gysin
支配人　R. Muller.
日本人仝員　渡邊貞次郎　田邊已之助
北村新次郎　栗村眞太郎
營業種目　洋反物・化粧品・其他雜貨輸出入

○七十八番B(蘭)　京町　電話I・〇五五
イー・エル・ヴァンニーロップ　横濱一七九番
Ed. L. Van Nierop.
仙主　Ed. L. Van Nierop.
日本人仝員　谷口貢之助
營業種目　反物・鐵材・紙・其他雜貨輸入　雜貨輸出

○七十八番B(蘭)　京町
イー・エル・ヴァンニーロップ宅　Ed. L.Van Nierop.

○八十七番(佛)　仲通二丁目　電話I四七
オリエンタル・ホテル　横濱一一番
The Oriental-Hotel., Ltd.
支配人　G. A. Adam.

○八十一番(英)　京町　横濱三七番
クン・ヘモル　Kuhn & Komor.
仙主　J. Kuhn.
日本人仝員　村上譯太　中尾由松
山本菊松　村上豐候
營業種目　美術品販賣

○八十一番A(英)　京町
ベリニー商會　Berigny & Co.
仙主　Th. de. Berigny.
支配人　H. Pitteri.
日本人仝員　伊東鐵之助　吉原久次郎
營業種目　輸出入　保險代理業

○八十二番(英)
ジェー・クリフォード・ウイルキンソン
J. Clifford Wilkinson.
仙主　J. Clifford Wilkinson.
日本人仝員　若柳音二郎
營業種目　炭酸水・シイスキー・其他食料品販賣

○八十三番　京町
エス・スコペロチャー兄弟商會水先案內事務所
S. Schopelocher Bros. & Co. Pilats Office.
支配人　W. Loxton.
營業種目　水先案內業　（水先案內業ヲ參照）

○八十三番A(獨)　京町
シモン・エヴァース商會　Simon Evers & Co.
支配人　O. Brull. H. Janke.
日本人仝員　S・塚本　T・田母澤
Y・神油　H・河野
營業種目　雜貨輸出

○八十四番　前町
ジョージ・エチ・アシイ倉庫

○八十五番(英)　江戸町　電話七一九
エル・ジー・ヒーリング商會　横濱二二番
L. J. Healing & Co.
支配人　J. L. Graham.
日本人仝員　片岡貞一　龜岡唯吉
營業種目　電氣機械・蒸氣式械其他輸入

○八十七番(英)　江戸町
ジェハンジー・ビー・ペチト商會
Jehangir, B. Petit & Co.
支配人
日本人仝員　岡田彦七　渡邊安太郎
營業種目　棉花・米其他輸入・燐寸・樟腦其他輸出

○八十七番（丁）　江戸町
チー・エイ・クリステンセン商會
T. A. Christensen & Co.
主館　T. A. Christensen.
支配人　K. P. Johanson.
日本人館員　吉永芳松　鈴木勇太郎
營業種目　貨物陸揚及船積請負

○八十七番　江戸町
ウエルカム・ソサイチー
Welcom Society.
會長　服部一三
幹事　牛場卓藏

○八十七番　江戸町
上海トイレット倶樂部神戸支部
Shanghai Toilet Club Kobe branch.
支部長　E. Tamburini.

○八十七番（米）　仲町
太平洋汽船會社　Pacific mail S. S. Co.
東西洋汽船會社　Occidental and Oriental S. S. Co.
東洋汽船會社　Toyokisen Kaisha.
ポートランド亞細亞汽船會社
Portland & Asiatic S. S. Co.
支配人　W. W. Campbell.
營業種目　汽船業

○八十八番（米）　仲町　電話三〇番
支那日本貿易株式會社　横濱八九番
China and Japan Trading Co., Ltd.
支配人　T. F. mcgrath.
日本人館員　田村平兵衛　青木吉治
山良一郎　羽山仙吉
大平　深澤富太郎
池谷富三
營業種目　鋼鐵類鐵道用材棉花諸雜貨輸入
保險代理業

○八十八番（米）　仲町
ジャパン・ニース・ファン商會
Japanese Fan Co.
館主　F. E. Barto.
日本人館員　辻　岡本要人
營業種目　雜貨輸出

○八十八番（米）　仲町
チー・エフ・マグラス宅　Thos. F. Mcgrath.

○八十九番　江戸町
日支貿易會社倉庫

○九十番　江戸町
佛國領事館　French Consulate.

○九十番　江戸町
西班牙國領事館　Spanish Consulate.

○九十番（英）　江戸町　電話一三三番
エヌ・フーテハリー・アンド・サンス
N. Futehally & Sons.
館主　H. N. Futehally.
營業種目　米其他輸入　雜貨輸出

○九十一番（獨）　北町　電話一七〇番
エム・ラスペ商會　横濱一九六番
M. Raspe & Co.
館主　H. R. Raspe.
支配人　E. Behr.
日本人館員　總吉井田亦吉
營業種目　米砂糖織物棉花洋紙鐵類護機械人造肥料輸入　燐寸蚕種眞田米白蠟菜種草蓆天鹿機其他雜貨輸出

○九十一番　北町
丁抹國領事館　Danish Consulate.

○九十二番（英）　江戸町
くりヤ商會　Hellyer & Co.　横濱一一五番
館主　A, T. Hellyer.
支配人　C. H. Lightfoot.
日本人館員　大串福次郎　篠原誠次郎
營業種目　製茶輸出

○九十三番B（英）　江戸町　電話一六四
エー・カメロン商會　横浜七五番
A. Cameron & Co.
エー・デアス商會　A. Death & Co.
住　　主　A. Cameron. A. Death.
支 配 人　P. Fraser.
日本人館員　岡田倉太郎　古川莊吉
　　内山
營業種目　輸出入　倉庫業　保險代理業

○九十四番（英）　英町
醫學士ソルニクラフト　Dr. Thornicraft.

○九十四番（英）　英町
ラルフス・ミーラー　Ralphs. miller M. B. C. M. Edin.
醫師

○九十四番（英）　英町
デー・ロス・キルパトリック
D. Ross Kilpatrick, M. B. C. B.
醫師

○九十五番（米）　江戸町
イー・エッチ・ギル宅　E. H. Gill.

○九十六番B（英）　英町　電話一三九
ジー・ストラウス商會　横浜一一〇四番
G. Strauss & Co.
支 配 人　J. S. Scott.
日本人館員　勝田佐太郎　西村豐次郎
　　手塚清太郎
營業種目　綿物、絲毛其他雜貨輸出

○九十六番　江戸町
ストラウス商會倉庫

○九十七番　江戸町
ベリヤ商會倉庫

○九十九番（米）　北町　電話三四八
米國貿易株式會社　横浜一一八番
The American Trading & Co. Ltd.
支 配 人　J. S. Happer.

日本人館員　遠藤吉次郎　原田二郎
　　有阪忠平
營業種目　鐵、造用諸材料、銅鐵物、諸機械、洋反物、雜貨輸入　雜貨輸出　保險代理業

○百番（獨）　江戸町　電話一〇〇三
ウインクレル商會　横濱一五六番
Winckler & Co.
支 配 人　F. Westhahlen.
日本人館員　今村猶次郎　唐邦居政
　　末高與次郎　小林健一郎
營業種目　麥稈眞田、竹材、貝殼、其他雜貨輸出

○百一番（獨）　江戸町　電話一三〇一
シモン・エバース商會　横濱一五番
Simon, Evers & Co.
住　　主　Alb. Simon.
支 配 人　F. Ludecke.
日本人館員　小松德次郎　柴田保藏
　　井戸里吉　小橋森太郎

日本人館員　宮田廣藏　井上友太郎
　　中川安太郎
營業種目　雜貨輸入　保險代理業

○百二番　江戸町
シモン・エバース商會倉庫

○百三番（英）　電話六四六
バターフィールド・エンド・スワイヤ商會　横濱七番
Butterfield & Swire.
支 配 人　W. G. Robinson.
日本人館員　坂井常三郎　森川辰之助
　　笹山龜吉　三木譽一
營業種目　汽船代理店　保險代理業

○百四番（獨）　江戸町　電話三六八
カール・ローデ商會　横濱七〇番
Carl Rohde & Co.
支 配 人　G. Petersen.
日本人館員　前田奈良三郎　宮地梅吉
　　前田彌一郎

營業種目　鐵、船具、染粉、藥品、洋反物、紙、肥料
綿花、砂糖、火藥、其他雜貨輸入
マトーゼ販賣

○百四番　江戸町
白耳義副領事館　Beruvian Vice Consulate.

○百五番　江戸町
デラカンプ商會倉庫

○百七番（英）　伊藤町　電話〔〇四五
ジャーデン、マセソン商會　横濱一番
Jardine, Matheson. & Co.
支配人　H. V. Hensen.
日本人館員　前田恒太郎　鹿島榮次郎
長岡又三郎
營業種目　鐵道諸機械、銅、鐵、砂糖、綿絲、石鹸
其他輸入　米、銅、蚕種、眞田、生絲
屑絲、其他雜貨輸出　銀行業
汽船代理店　保險代理業

○百八番　伊藤町
ジャーデン、マセソン商會倉庫

○百九番（英）　伊藤町　電話〔〇三一
ピーオー汽船會社　横濱一五番
Peninsular & Oriental Steam Navigation Co.
支配人　Alf. Woolley.
日本人館員　近藤廣太郎　松島非之助
營業種目　汽船業

○百十番（英）　伊藤町　電話三七六
フィンドレイ、リチャードソン商會　横濱六番
Findlay, Richardson & Co.
支配人　J. Marshall.
日本人館員　北島兵助　三治彦太郎
兼目純　仮田吉之助
野田明三郎
營業種目　洋絲織物輸入　雜貨輸出
保險代理業

○百十一番　伊藤町
フィンドレイ、リチャードソン商會倉庫

○百十三番（米）　北町　横濱二六九番
ヱー、エー、ヴァンタン商會
A. A. Vantin & Co.
支配人　A. Rock.
日本人館員　堀口菊次郎　辻誠二
營業種目　雜貨輸出入

○百十四番　東町
ベリヤ商會倉庫

○百十五番　東町
獨逸領事館　Garman Consulate.

○百十五番　東町
瑞西領事館　Swiss Consulate.

○百十六番A（佛）　東町
ジュール、マルタン　Jules Martin.
位主　Jules Martin.
日本人館員　松尾富之助
營業種目　寫眞鏡販賣

○百十六番（米）　東町
ゼー、エム、ムーア宅　J. M. Mur.

○百十六番（獨）　東町
コンコルヂア倶樂部　Club Concordia.
支配人　F. Popert.
日本人館員　堀彌三郎

○百十八番（佛）　仲町　横濱九三番
ジェー、ウイトコースキ商會
J. Witkowski & Co.
支配人　L. Lazarus. M. Gottlinger.
日本人館員　山本錄
營業種目　瑞西製金銀メタル、時計、洋酒、諸器械輸入　蚕種、眞田、雜貨、天產物輸出

○百十八番B（英）　仲町　電話六九九
ケー、ハッサム　K. Hassam.
位主　K. Hassam.
支配人　C. Ebrahim.
日本人館員　友井栄吉　南和三郎

○百十九番　倉庫　伊藤町

○百二十番　デラカンプ商會倉庫　伊藤町

○百二十一番（獨）　デラカンプ商會　Delacamp & Co.　東町　電話六三三
　主　Ch, Lange Delacamp.
　支配人　O. Fischer.
　日本人館員　池田彌三郎　中澤政次郎
　營業種目　織物、毛布、藥品、染粉、洋紙、諸機械雜貨輸入　麥稈、真田、花莚、籐通、白蠟、竹材輸出

○百二十二番（獨）　チャールス、ランゲ、デラカンプ宅　御前町
　Ch, Lange Delacamp.

○百二十三番　デラカンプ商會倉庫　東町

○百二十五番　ウイトコースキ商會倉庫　東町

○ディック、ブラン商會(英)　Dick, Bruhn & Co.　港岸通一丁目一番
　主　J. Dick.
　支配人　O. Olsen.
　日本人館員　濱西三永
　營業種目　食料品販賣

○アーサー、ボンド(英)　Arthur & Bond.　港岸通一丁目一番　横濱三八番
　主　D. E. Dairs.
　營業種目　美術品販賣

○ナンシ、カイラズ商會(英)
　Nansee, Khairaz & Co.
　港岸通一丁目一番
　支配人　M. Spiteri.

製造

○エッチ、エー、セネット商會（英）
　H. A. Sennett & Co.
　港岸通一丁目三十三番
　主　H. A. Sennett.
　營業種目　運送業

○東源號(清)　Tong Guen & Co.
　港岸通一丁目五十一番　電話三九一
　主　李光泰
　營業種目　汽船取扱　輸出入業

○シー、ニッケル、エンド、コムパニー、リミテッド(英)
　C. Nickel & Co. Ltd.
　港岸通二丁目三番　電話一三九
　主　C. Nickle.
　日本人館員　石田佐太郎　松浦恒三郎
　　　茨木藤三郎　松浦通四郎
　　　油　鄕
　營業種目　貨物陸揚、貨物船積、船內荷役、外國

日本人館員　大田彌一
營業種目　米穀、棉花、印度物產產輸入

○ジー、エル、トムソン商會(英)
　J. L. Thompson & Co.
　港岸通一丁目三番
　主　J. W. Franklin.
　日本人館員　金山德太郎　村上四郎
　　　楠本一郎
　營業種目　藥種

○ケリー、エンド、ウオルシュ會社(英)
　Kelly & Walsh, Ltd.
　港岸通一丁目三番　橫濱六〇番
　主　J. W. Franklin.
　營業種目　煙草、書籍、文房具販賣

○エム、フィッツジラルド商會(英)　M. Fitzgerald & Co.
　港岸通一丁目三番
　主　J. W. Franklin.
　營業種目　ラムチ、ソーダ水、其他夏季飲料水

貨物仕拂送金

○同孚泰(支)　Tong Foo Tai.
　港岸通四丁目十四番　電話五四
　營業種目　米穀、海産物直輸出入商

○オクシデンタル・サルーン(獨)　Occidental Saloon.
　支店一丁目一番
　館　主　H. Julien.
　支配人　H. Fruhs Choppen.
　日本人館員　桃谷
　營業種目　洋酒、食料品販賣　海軍用達

○シー・エー・カムルーデン商會(英)
C. A. Camroodin Co.
　支店一丁目六番
　支配人　V. H. Toorabelly.
　日本人館員　和田幸
　營業種目　綿糸其他雜貨輸出入

○ジャパン・クロニクル新聞社(英)
The Japan Chronicle.
　支店一丁目六番　電話一一六
　社主　Robert Young.
　支配人　A. W. Sherriff.
　日本人社員　片桐謝吉　辻秋傳
　尾崎岩吉　佐藤寅吉

○ゼー・ターナー・ハリソン
Capt. J. Turner Harrison. M. M. S. A.
　支店一丁目三十五番
　館　主　J. Turner Harrison.
　營業種目　海事檢査員

○グレート・イースタン・ホテル(英)
Great Eastern Hotel.
　支店一丁目三十六番
　館　主　A. M. Apcar.
　支配人　C. M. Arratoon.
　日本人館員　藤森金次郎　中谷安松

○ウイマーク商會(英)　Geo. Whymark Co.
　支店一丁目八十一番　電話一〇一〇

　館　主　Hary Russell.
　日本人館員　劉洞愈次郎
　營業種目　食料品、洋酒輸入販賣

○ウイマーク、トムソン(英)
Whymark & Thompson.
　支店一丁目八十三番
　館　主　G. H. Whymark.　J. L. Thompson.
　日本人館員　堀尾昌七
　營業種目　鏡鏡者　雜貨販賣

○タタ商會(英)　Tata & Co.
　支店一丁目三十七番　電話五一一
　支配人　P. D. Saklatvala.
　日本人館員　N 日野　K 岡田
　S 櫻井　K 竹内
　S 中村
　營業種目　輸出入業

○ヘルラー・ブラザース商會(英)　Heller Bros.
　三宮町一丁目十八番　横濱一七六番
　支配人　C. Wallner.
　日本人館員　小山珊之助　齋藤仁九郎
　麻田利三郎
　營業種目　輸出入業

○デルボーゴ商會(米)　Delbourgo & Co.
　三宮町一丁目三番八番
　支配人　E. Antaki.
　日本人館員　且常藏
　營業種目　雜貨輸出

○ケー・エー・ジェー・チョータマール商會(英)
K. A. J. Chotirmall & Co.
　三宮町一丁目三十九番
　支配人　R. Haroomal.
　營業種目　輸出入業

○エム・エー・レーバーン商會(英)
M. A. Raeburn & Co.
　三宮町一丁目三十九番
　館　主　M. A. Raeburn.
　日本人館員　奥平覺治

營業種目　雜貨輸出

○ダブルユー・テーラース(英)　W. Tallers.
三宮町三丁目二十六番
館　主　W. Tallers.
日本人館員　眞鍋豐治　能勢助松
營業種目　雜貨輸出入

○エー・エム・イサホーイ(英)　A. M. Essabhoy.
三宮町三丁目二十六番　電話[二六三]
館　主　A. Mahomedally.
支配人　H. M. Shekh Ahmed.
日本人館員　C・岡　尋
營業種目　藥品・綿其他輸入　機子其他輸出

○マーチン・ブラザース(英)　Martin Brothers.
三宮町三丁目二十七番
館　主　M. Z. Martin.
日本人館員　M・　山
營業種目　輸出入業

○エス・エム・エイ・プーナワラ(英)　N. M. A. Poonawalla.
三宮町三丁目二十八番
館　主　Esmail A.

營業種目　輸出入業

○ジー・シー・ハーチスフェルド(獨)　G. C. Hirschfeld.
三宮町三丁目八十番
館　主　G. C. Hirschfeld.
日本人館員　西本貫雄　木下政一
營業種目　雜貨輸出

○エム・ムサホーイ(英)　M. Musabhoy.
三宮町三丁目九十五番
館　主　M. Musabhoy.
日本人館員　井橋安吉
營業種目　雜貨輸出

○マッケイ商會(英)　Mckay. & Co.
三宮町三丁目百六十番
館　主　P. H. Mckay. S. Ogura.
日本人館員　島村浩造　本町國三郎

○エー・エム・アプカー商會(英)　A. M. Apcar & Co.
三宮町三丁目百六十三番
館　主　A. M. Apcar.
日本人館員　岡部市太郎
營業種目　雜貨輸出入

○日本輸出入コミッション會社(米)
Japan Import and Export Commision Co.
三宮町三丁目百六十四番
支配人　J. Gnggenheim.
日本人館員　堀　尊治　臼井清造
松田榮助
營業種目　雜貨輸出入

○亞細亞輸出入商會(米)　Asiatic Export & Import Co.
北長狹通三丁目三宮驛前上
支配人　F. C. Hellenbrand.
日本人館員　松治政次郎
營業種目　雜貨輸出入

○エッチ・ロス・スプラック(獨)　H. Roth Sprack.
北長狹通三丁目一番
館　主　H. Roth Sprack.
營業種目　麵包製造販賣

○ジー・レーノー商會(佛)　J. Reynaud.
北長狹通三丁目八番　榎茂一五七番
支配人　L. Jubin.
日本人館員　吉岡菊藏
營業種目　蒸汽罐田・其大小・其他雜貨輸出入

○ポフームル・ブラザース(英)　Pohoomull Bros.
北長狹通三丁目二十四番　榎茂一四六番
支配人　R. Hemundas.
營業種目　雜貨輸出

○エム・ヴェンドレル(西)　M. Vendrell.
下山手通三丁目四十三番
館　主　U. Vendrell.
日本人館員　高柳政藏
營業種目　雜貨輸出　ヴラムと商會代理店

○サンチアゴ・ギスベート(西)　Santiago Gisbert.

中山手通二丁目十二番
館　主　Juan Sellis.
營業種目　輸出入業

○カリフォーニアン・ホテル(米)　Californian Hotel.
中山手通三丁目八十六番
館　主　M. Payne.
日本人館員　石　川

○神戸サムタリアム(米)　Kobe Samtarium.
山本通二丁目四十二番
院　長　S. A. Lock Wood M. B.
醫師　看護婦

○シー・ウエンベルジャー商會(獨)
C. Weinberger & Co.
元町通一丁目　電話一一五〇
館　主　C. Weinberger.
支配人　C Wilckens.
日本人館員　水上與三郎　西島虎二
齋藤余三郎
營業種目　雜貨輸出入

○ビー・オンスタイン商會(獨)　B. Ornstein & Co.
元町通一丁目
館　主　B. Ornstein.
支配人　W. Bonger
營業種目　雜貨輸出入

○ウイリアム・ケール商會(英)　William Kerr & Co.
元町通一丁目　電話九六六
館　主　William Kerr.
日本人館員　近藤仙太郎　堀　由太郎
營業種目　輸出入業

○エー・ヴリル合名會社(米)　Averill, Olmsted Co.
栄町通三丁目十七番
館　主　F. H. Olmsted.
日本人館員　村松吉太郎
營業種目　雜貨輸出

○ゼー・エル・ギル・ペレラ(米)　J. L. Gil Pereira.
栄町通三丁目十六番　電話五一七

支配人　T. W. Hellyer.
日本人館員　M'　辻
營業種目　茶其他輸出入

○ジョン・エフ・ダフ(英)　John F. Duff.
栄町通二丁目四番
館　主　John F. Duff.
支配人　J. W. Ottoson.
日本人館員　西本市松　加藤　一
營業種目　雜貨輸出

○ストローム商會神戸支店(英)
Strom & Co. Kobe branch.
栄町通二丁目四番　電話一一二番
支配人　C. T. Purvis.
日本人館員　井口慶太郎
營業種目　麻田其他雜貨輸出

○ダブリュー・エンド・ジー・スローン(米)
W. & J. Sloane.
八幡通二丁目五番
支配人　S. L. Holbrook.
日本人館員　山口　清
營業種目　花莚輸出

○ベッセル・ブラザーズ(英)　Bethell Bros.
雲井通八丁目十一番　電話七〇番
支配人　S. E. Giles.
日本人館員　松村仙太郎
營業種目　雜貨輸出入

第二十六節　神戸の實業組合

案内

神戸貿易商同業組合
事務所　北長狭通四丁目一二二

役員

組長	梅本卯太郎	副組長	大幸喜作
評議員	中村三平	評議員	小島長清
評議員	八木平太郎	評議員	岡西勝造
評議員	吉田熊太郎	評議員	中部寅之助
評議員	村源衛太郎	評議員	野主愼作

評議員　吉田平兵衛　評議員　丹下良太郎　陶磁器　花隈町五五　村上政次郎
評議員　鹽崎與三郎　評議員　清水彌三　絹織物　下山手通二丁目三一　伊東善三郎
評議員　酢屋久平　評議員　小林榮藏　金屬美術品　元町通四丁目五〇　濱田篤三郎
評議員　關　銀作　　　　陶磁器　北長狹通一丁目　富村富一
　　組合員　　種　三宮町一丁目三　笠谷音吉
業名　住所　氏名　　雜種　三宮町一丁目二六四　武川捨吉（盛進株式會社支店）
陶磁器　元町二丁目二〇〇電話【一二五五】　山本直三郎（神陶株式會社專務取締役）　陶磁器　元町通一丁目二二ノ一　谷口與十郎
紙類　海岸通六丁目三　電話五六六　橘本卯太郎（日本紙類貿易株式會社）　陶磁器　元町通二丁目一八電話【一二六六】　清水彌三
屏風　雲井通六丁目二七　岡西勝藏　陶磁器　北長狹通三丁目八　鈴木金右衛門
漆器　榮町四丁目三八　小島長一、清藏　織物　元町通一丁目二四一　今川銀太郎
竹器　磯上通三丁目二五　吉田半兵衛（常滑貿易株式會社支店主任）　風　二宮町四丁目六五電話【一四七二】　西羽與一郎
陶磁器　小野柄通八丁目五八　竹村愈三郎　漆器　元町通二丁目一八九　岡本利兵衛
絹織物　北長狹通三丁目五三　大幸喜作　風　加納町四丁目一九九ノ二　加藤保之助
大割籠　下山手通六丁目二四二　八木平太郎　陶磁器　三宮町二丁目五九　河田信二
陶磁器　元町通三丁目二六〇　福田源太郎　陶磁器　元町通二丁目一九六　武川タマ
雜種　北長狹通三丁目九四　森田金藏　雜種　北長狹通四丁目七電話【一二四一】　田口榮藏
雜種　三宮町二丁目九四　酢屋久平　雜器　元町通二丁目一九四　田中龜之進
絹織物　三宮町二丁目三二七　中村三平　竹金屬品　元町通一丁目四一　熊谷清七
貝釦　三宮町二丁目二四四　屏風　二宮町三丁目一一六　松岡久七

貝類　御幸通三丁目一七〇　松村忠吉　陶磁器　三宮町三丁目一〇〇　中部寅之助
絹織物　三宮町三丁目二九電話【一四五七】　夫馬勘次郎（京都陶磁器合資會社）　簾　元町通一丁目八七　村田慶祐
陶磁器　三宮町一丁目七八　小西又兵衛　竹器　三宮町一丁目一六〇　久保田種吉
貝釦　北野町一丁目　青柳正好　陶磁器　小野柄通八丁目五九　寺澤留四郎
籠　元町通二丁目二六二　齋藤仁三郎　屏風　加納町四丁目二七ノ一　天井市郎兵衛
玩具物　元町通二丁目一九一　北村與助（淺雲堂支店）　陶磁器　加納町五丁目二〇六　阪本源吾
雜種　元町通二丁目八　三宅忠藏　種　元町通一丁目二九　下村九十郎
屏風　三宮町一丁目一　電話【一四一六】　鹽崎與三郎（田代支店）　雜種　三宮町二丁目一六　科野龜太郎
陶磁器　加納町四丁目一九五　小林清二　屏風　北長狹通二丁目一五九　鹽崎祐七
陶磁器　元町通二丁目二四四　鈴木吉五郎　種　元町通一丁目一二二ノ二　清水亞松
竹細工　元町通三丁目四三六　磯野留吉　漆器　下山手通二丁目一四　關　銀作
陶磁器　三宮町一丁目八二ノ一　泉　兵次郎　屏風　中山手通一丁目二四〇　橋本房次郎
雜種　三宮町一丁目二六〇ノ三　服部平三郎　陶磁器　元町通一丁目一九〇　岡本小一郎
陶磁器　元町通一丁目二一五　西田與三次郎　雜器　煙火　元町通二丁目一光電話【一二一四】　義野主愼（彩光舍）
竹器　三宮町一丁目三〇五　太田久吉　金屬品　北長狹通二丁目一一〇　田中爲藏（信號器　食貿易）
織物　元町通二丁目二三三　瀧波文平　器　北長狹通三丁目九八　田中由松（合名會社田中商會）
漆器　三宮町一丁目一八九　玉置佐市　寫眞畫　元町通二丁目一九五　楚上雄藏
雜種　磯邊通三丁目一三八　苗村德次　雜種　加納町二丁目　南野幸右衛門
竹簾　南邊瀨川町四三　中澤利助

絹織物　元町通一丁目一二三　野田直次郎　陶器及雜種　元町通一丁目七　中川定治郎
織物　元町通一丁目二四九　福田三次　雜種　海岸通三丁目二六　苗村源次郎
陶磁器　元町通一丁目八七ノ一　田上支店　藤田篤二　雜種　北長狹通七丁目六二　中塚御代
寫眞　元町通一丁目二三三　深澤貞　雜種　元町通一丁目一ノ二　馬場榮吉
雜種　三宮町一丁目一五一　小橋平四郎　織物　元町通三丁目三四〇　松本善藏
絹織物　元町通二丁目一八二　小西佐右衛門　玉簾　中山手通一丁目一八三　丸山松次郎
陶磁器　北長狹通四丁目三七　小林榮藏　雜種　三宮町三丁目一四一　阿曾小太郎
雜種　元町通一丁目二一七　近藤節之助　雜種履物　元町通三丁目二六一　三浦喜代松
竹器　榮町通三丁目一一　寺島半藏　竹器　下山手通二丁目四三　杉本治三郎
陶磁器　三宮町一丁目三七〇　鈴木善太郎　雜種　榮町通一丁目一　帆足三郎
竹器　三宮町一丁目一三八　泉南廣株式會社　井上丑松　竹器　三宮町一丁目一八五番　合名會社中井商店社長　吉田熊太郎
籐器　北長狹通三丁目一五七　井上慶助　陶器　三宮町一丁目二七　田代重太郎
陶器　中山手通四丁目八〇　今田丑之助　陶磁器　北長狹通一丁目五三　廣川研三
雜種　北長狹通二丁目二二ノ一三　東亞商會　長谷川常次郎　織物　北長狹通三丁目五〇　須東商店出張所　服部直道
鉋刃　中山手通一丁目一五　長谷川協藏　刷子　大阪府四成郡鷄洲村大字浦江四八　渡邊田鶴吉
竹器　三宮町三丁目一二七　大西宣吉　絹布　元町通二丁目一九八　飯田商店　髙木福治郎
屏風　琴緒町五丁目六九　梶本慶吉　雜種　元町通二丁目二四三　藤井松太郎
屏風　北長狹通二丁目五二ノ四　高田竹治郎　紙類雜貨　元町通一丁目四二　須田商會

雜種　三宮町一丁目元製紙場跡　今西安太郎　雜種　淡町二丁目一八四　永島寅藏
絹物　三宮町三丁目六一　西尾類藏　竹器　三宮町一丁目一六七　溝畑政次郎　松川出張店
雜種　三宮町一丁目一六　奥村展親　陶磁器　加納町五丁目一六　山本淺見
竹器　北長狹通二丁目六八　金澤正三　貝釦　下山手通六丁目一〇　井上六三郎　勅使河原神戸出張所
漆器　元町通一丁目二三　山西鹿次郎　雜種　榮上通五丁目一ノ二　映治郎　滋榮會社
雜種　下山手通二丁目一〇　清水林吉　陶器　三宮町一丁目八二ノ三　加藤鎭三郎　武井合資會社
陶器　元町通一丁目八七　北川作右衛門　紙器　中山手通二丁目一三二　梅田寅吉　林屋支店
陶器　三宮町一丁目三〇四　山崎商店支店　紙　元町通三丁目二四　林悅郎　丸天合資會社
紙　元町通三丁目四三七　內海市太郎　陶器　下山手通三丁目三七　村喜太松
陶器　三宮町一丁目六　平井彌八　雜貨　加納町五丁目一八　和田辰之助
敷物　三宮町二丁目三一一　丹下良太郎　雜種　北長狹通二丁目六九　伊吹利兵衛
竹器　茸合北本町四丁目三八　山口イク　屏風　琴緒町五丁目一四八　貝石茂介
雜貨　北長狹通八丁目一五九ノ一　中川直八　雜種　北長狹通三丁目五四　吉村乙八
陶磁器　三宮町一丁目一　白石利平　陶器　下山手通一丁目四四　今津健三郎
絹物　天鷲絨蓆　元町通二丁目二四二　大和商會　島村武一　雜貨　三宮町二丁目八　吉多邸藏
絹綿商　三宮町三丁目六二　兩毛商店　增澤勇　陶器　三宮町二丁目一五　中山仁太松
神代杉類標鏡　元町通五丁目二九　米積清七　雜貨　加納町三丁目一五　松田治郎吉
絹縮雜種　武庫郡魚崎村二八　大島德行　笛　今井俊三

木屑織物　下山手通四丁目外三四　赤野重太　海岸通六丁目一〇　電話一、〇三三〇
銅器　三宮町一丁目一七一　藤田善六　榮町通三丁目二二　電話九七六　泉銀商店　植田德松
陶器　三宮町二丁目一八二　伊藤勇次郎　榮町通六丁目一三〇　電話一、二一九　今中秀一郎
銅器　三宮町一丁目二八〇　稻積東七　三宮町二丁目三一四　電話一、二二八　池田貫兵衛
陶磁器　三宮町三丁目一三七　下方こう　元町通三丁目三一三　電話七九三　石川貫治
雜種　三宮町二丁目一八五　電話六七〇　米田忠五郎支店　下方政吉　御幸通六丁目九五　電話一、二八四　濱田政
漆器　元町通一丁目四六　名手驛一支店　中井政吉　海岸通四丁目二九　電話一〇四　伴傳兵衛
　川崎町八　電話一、四三五　新原次太郎
　日華貿易合資會社　電話五二六　日本生絲貿易株式會社
　日本製茶輸出株式會社　電話八四五　日清貿易商會　福原芳治
　伊藤商店　電話一、〇九二　岩井神戸支店　岩尾慶藏　海岸通二丁目二　電話一四二　西田由松
　佐々木種三郎　電話一、二四二　岩井神戸支店　榮町通五丁目八一　電話一、二三九　棒谷ッウ
　井上方勝　電話八六二　北長狹通三丁目一五　電話三四二　同孚泰　海岸通四丁目三七　電話三九一　東源號　李泰光　德修　電話一、二九五　何德修
　磯野商店　米井源次郎　榮町通二丁目外一二　電話一二六五　九三　海岸通一丁目一一　電話一二六　富永機助
　伊藤良藏　榮町通四丁目五五　電話一、二二八　海岸通二丁目二　電話一〇九二
　怡和號　麥少彭　榮興　電話一二六九　三八　海岸通五丁目三八　電話一、二一八　西口清助
　怡生號　管南照　電話一二六八　九八四　榮町通三丁目六八　電話一、〇二三　棒谷ッウ
　吳錦堂　榮町通二丁目二七ノ一　電話四九　佐比江町一二　電話一〇九二

右組合外に尚左の貿易商店あり

大倉組神戸出張所　大澤商店支店　大澤善助　海岸通一丁目一ノ一　電話一三七　榮町通二丁目一四一　電話一、一六二　元町通一丁目五七　電話一、一三三三　三宮町三丁目九六ノ一　電話一〇八三　莊令町一八九三　電話四〇四　榮町通六丁目一八〇　電話一、三一三　成田清之助
大島兵太郎　榮町通二丁目一　電話一三七　三宮町三丁目二六　電話一、一六二　元町通一丁目二六七　電話一、一三三三　海岸通六丁目一七　電話一〇八三　元町通二丁目二八九　電話一、一一五　同　一丁目二八ノ一　電話九八七　同　二丁目二四ノ二　電話三三五　海岸通三丁目二　榮町通二丁目一二三　電話一二六七　榮町通二丁目一九ノ一　電話一五二〇　同　二丁目一九ノ一　電話七九二　泰興號　陳世科　同　二丁目八二　電話六七〇　田村商會　田村新吉　榮町通三丁目二七　電話一、四三六　高淵彌一郎　三宮町一丁目六　電話一、〇五〇　高見商社　高見義確　榮町通二丁目一〇三　電話五二七　聯昌盛號　武井福太郎　海岸通一丁目一ノ一　電話六七四　黃景郁　榮町通六丁目一四一　電話九〇一　園部住藏　元町通一丁目五七　電話一、一八七　土谷仙太郎　三宮町三丁目九六ノ一　電話一、二九一　鶴谷商會　莊令町一八九三　電話一、一三六　津川信三郎　榮町通六丁目一八〇　電話一、三一三　成田清之助　同　六丁目一二六　電話七五〇　中口勝次郎　同　二丁目三五　電話一八　中島保之介　新町八　電話九七三　室谷藤七　涙花町六四　電話六七一　村井兄弟商會　神戸支店　三宮町一丁目二九　電話八〇一一　村上森造　仲町五五　電話七〇一一　野澤組神戶支店　榮町通五丁目七一　電話四八〇　鶴田平吉　同　二丁目一九ノ一　電話一四六　廣昌隆　榮町通三丁目一　電話一七七　友常穀三郎　榮町通二丁目二七　電話五〇八　小栗商店　小栗富次郎　山本通四丁目五　電話九〇八　小倉庄太郎　北長狹通三丁目九四　電話八一一　大倉組神戸出張所　大澤商店支店　大澤善助　海岸通一丁目一ノ一　電話一三七　大島兵太郎　榮町通二丁目一　電話一三七　三宮町三丁目二六　電話一、一六二　岡澤忠兵衛　元町通一丁目二六七　電話一、一三三三　王文達　海岸通六丁目一七　電話一〇八三　鷲尾磯七　元町通二丁目二八九　電話四〇四　川崎房次郎　同　一丁目二八ノ一　電話一一五　加納芳三郎　同　二丁目二四ノ二　電話九八七　勝弘貞次郎　下山手通八丁目二〇〇　電話三三五　陳平齋　海岸通三丁目二　電話一二六七　衆松房次郎　榮町通二丁目一二三　電話八六三　神戸貿易商會　海岸通三丁目二五　電話九五九　吉田德兵衛　榮町通二丁目九一　電話七九二　泰興號　吉田作藏　同　二丁目一九ノ一　電話一五二〇　陳世科

御幸通六丁目一〇〇　電話一、三八〇　山上初次郎　海岸通三丁目
榮町通四丁目三三　電話二八一　山田庄助　海岸通二丁目三五
莊合町字八六號一〇一九　電話一、二二六　山口大輔　同　四丁目一三
海岸通四丁目二八　電話一、三三一　山本龜太郎　元町通二丁目三六
下山手通七丁目三六八　電話一二五　山本彌之助　北野町二丁目三三ノ四
生田町一丁目六一　電話六三六　馬渡きく　海岸通三丁目六
榮町通三丁目二一　電話二八七　松田文吉　同　二丁目三〇
加納町四丁目二庫倉庫内　電話一、四六一　松木文恭　同　二丁目三八
東川崎町五丁目七　電話一、二八〇　槇野篤次郎　同　二丁目三八
榮町通三丁目一七ノ二　電話八八九　萬谷久右衞門　榮町通二丁目一〇二ノ一
元町通二丁目一五八ノ二　電話一、二七一　萬木甚七　山本通四丁目一〇八
榮町通一丁目六四　電話九八九　源會々號　徐光煥　海岸通二丁目一二
海岸通三丁目二一　電話四五一　深田彌三郎　藤本梅吉　三宮町三丁目七八
同　三丁目二四　電話一、四四五　福市　酒木市松　榮町通二丁目六五
榮町通四丁目四五　電話一、三七六　布引通二丁目八五
三川口町二丁目四ノ六　電話一、五二七　福山豐吉　福間久米吉　海岸通三丁目五ノ二
奥平野村天王番外六九　電話二七七　復和裕號　馬場三　榮町通二丁目二七ノ一
元町通三丁目三六〇ノ一　電話一、二〇五　聘　同　六丁目一三九

電話二九四　復興號　王敬祥
電話五六三　文發號　小泉又十郎
電話七九一　小金屋商店　富政次郎
電話一、〇八一　小松久壽吉
電話一三三　恒昌號　後藤勝造
電話六六九　永泰昌義記　李叔孝
電話九二七　永大成號　張思齊
電話一、二五九　赤尾商店　榎本彌太郎
電話一、三三三　鼎泰號　徐曉春
電話一九六　寧波號　沈調市
電話四一三　天生正號　蘇寅生
電話二五九　赤尾商店　赤尾善次郎
電話一、四一一　足立輸出入合名會社　澤田德松
電話一二〇　電話一、一四四　酒井治助
電話一、三〇四

榮町五丁目　電話九〇五　熊谷組次郎商店　神戸支店　北谷石松
海岸通二丁目二四　電話三八五　北川與平
元町通二丁目二八八　電話一、四五二　木村富三郎
榮町通五丁目八二　電話五八二　木全由三郎
海岸通二丁目一六　電話一、〇五八　其隣株式會社　北村新次郎
川崎町一三　電話七四三　菊名芳治
花隈町二九八　電話一、二一六　油谷重三
榮町通二丁目一一〇ノ二　電話一、三三六　裕祥　貞
海岸通二丁目三六　電話二五四　湯淺竹之助
同　二丁目外八　電話一、二三四　三宅民造
榮町通一丁目外二一　電話一、一五七　溝畑久米三
三宮町一丁目八二ノ四　電話一、二三六　御厨長太郎
同　二丁目三一三　電話一、一一〇七　宮城丑松
榮町通三丁目四〇　電話六六四　水島重吉
三宮町二丁目五　電話一、五〇三　鹽崎康貞
榮町通五丁目五　電話三三二　至田萬次郎
加納町四丁目一八四　電話一、二一〇　神戸支店　同
三宮町三丁目五
仲町八八

海岸通一丁目二　電話三九二　陳隆號連生
榮町通三丁目二ノ一　電話一、五一九　神榮株式會社
三宮町三丁目一四七　電話八〇五　信久組
榮町通三丁目二　電話五二一　平野重太郎
眞砂通二丁目一二　電話八〇六　森谷利太郎
三宮町二丁目三一二　電話一二三　森本新吉
榮町通一丁目五四　電話七二五　森田壽三郎
中山手通五丁目二二　電話四三六　物集伴次郎
榮町通五丁目五八　電話一、四二五　百崎俊雄　德號
海岸通二丁目一〇ノ一　電話一、〇〇一　柯謙友
榮町通三丁目一一ノ一　電話一、二〇一　住源商會

神戸商店改良會

事務所　相生町一丁目神戸商業會議所內　電話六

役員

會長　杉山利介　副會長　本多義知
評議員　西村德三郎　評議員　坪井多三郎
同　中口勝次郎　同　小野權四郎
同　日下部兵藏　同　尾崎千賀八

評議員　熊谷幸介　評議員　岡本辰治

同　山本正脩　同　岡彌介

同　牧野榮介　同　川口啓太郎

同　蔭田幸太郎　同　加藤艮

同　木村象六　同　金澤嘉兵衛

同　丹波良造　同　森谷精一

同　高橋孔稜　同　森田佐右衛門

同　田中儀七　同　菅音次郎

同　魚澄惣一郎　同　纓庭榮次郎

會員所在名

職業　住所　氏名

洋反物　三宮町三丁目六ノ六　電話一、〇四九　田中儀七

金物　同　三丁目五五　岡本辰治

氷　同　二丁目三一八　電話七三五　淺井合名會社

印刷文房具　同　一丁目三二四　電話五五〇　明辻商社　岩雄

洋酒類　同　一丁目三一九　鯵明堂小西和吉郎　福田五郎平

西洋菓子　同　三丁目三　岩見屋　岩見熊吉

時計　同　三丁目三四　明辻商社　岩雄

西洋家具　同　三丁目四五　長坂淺治郎

呉服　三宮町三丁目二九　岩崎商店

茶道具　元町一丁目二八　纓庭榮次郎

緞通　同　一丁目二一三　井上大吉

書籍　同　一丁目二四ノ一　日進堂　川瀬三郎

硝子類　同　一丁目二二八　齋木閏吉

漆器　同　二丁目一八八　河井商店　河井ミネ

陶器貿易　同　二丁目　電話一、一六五　神陶株式會社

靴製造　同　二丁目七六　炭川伊三吉

洋服　同　三丁目三八四　電話三六　仮田呉服店　柴田音吉

呉服　同　三丁目三一　電話一、〇九八　井口滝三郎

菓子　同　三丁目一七四　電話九八一　盛神堂

茶　同　三丁目二六三　生之森　北熊吉

具師　同　三丁目三七　米倉庄次郎

硝子類　同　三丁目一三七　大野兵太郎

呉服　同　四丁目九五　電話一、〇七三　沼田重助

絲物　同　四丁目一三九　山口林三郎

洋服　同　四丁目一五一　柴田松之助

洋反物　同　五丁目八　電話五二三　丹波良造

書籍　元町五丁目三四　石丸甚八

博多帶地　同　五丁目二四一　大塚孝次郎

半襟小間物　同　五丁目五三　滝卯七郎

靴　同　五丁目四　山崎徳太郎

菓子汁粉　同　五丁目四三　江戸屋　濱田彌七

眼鏡　同　五丁目二〇六　西村貞吉

眼鏡　同　五丁目一七〇　森川賴三

舶來毛織物　同　五丁目一九〇ノ一　津田支店

シャツ雜貨　同　五丁目一九　山本甚吉

諸絲物　同　五丁目一七　川崎琳三郎

洋反物　同　五丁目九　電話一、四三一　森下平太郎

菓子　同　五丁目二　木原大三郎

蚊帳與綿　同　五丁目一八七　西尾兵藏

洋反物　同　五丁目六　城田吉兵衛

洋反物　同　五丁目二四　鈴木貞吉

洋服　同　五丁目二〇五　小島善五郎

呉服　同　六丁目二七二　電話七五七　杉山利介

莫大小　同　六丁目三〇　電話一、二五二　芦田幸太郎

古着　同　六丁目二六　木寺辨之助

呉服　元町六丁目

同　六丁目一四六　大塚孝次郎　靴

洋傘莫大小　同　六丁目一四〇　滝卯七郎

硝子　同　六丁目一三一　山崎徳太郎

洋服　同　六丁目三一　電話一、三四七　江戸屋　濱田彌七

料理　同　六丁目一一六　西村貞吉

鞄　同　六丁目二五七　森川賴三

呉服　同　六丁目一二五　津田支店

鏡　同　六丁目二八　山本甚吉

服　同　六丁目二五四　川崎琳三郎

シャツ　同　六丁目二〇〇　坂本益吉

舶來毛織物　同　六丁目二四　皆本鶴松

書籍　同　七丁目一七　電話八〇三　熊谷幸介

牛肉　同　七丁目三ノ一　電話一、〇四六　岸田伊之助

油紙　同　七丁目一三　電話一、二六九　井上保藏

印刷業　同　七丁目二〇　電話二二七　石井昇石

傘提灯　同　七丁目二〇ノ一九　佐竹彌三郎

洋酒鑵詰　海岸通四丁目一一　電話三七七　長光喜八

洋服　元町六丁目　はりまや　藤原呉服店

洋酒　同　七丁目二四　電話六七五　東田勝二郎

古着　同　六丁目二六　木寺辨之助

醤油　下山手通三丁目六五ノ三四　田淵源酒
化粧品製造業　同　五丁目二八　江波戸商會　靴
敎育品　北長狹通六丁目八一　電話三三七　森谷精一　時
醤油　同　七丁目八　電話六一八　森田作右衞門　足
洋服　同　六丁目一五五ノ二　關根龜次　足袋　同　三丁目五一
平野鑛泉製造及洋酒類　同　七丁目三　内田幸三郎　編洋毛織物
洋式諸帳簿　同　七丁目一八　久保虎三　帽子　同　二丁目五
潛水請負業　同　七丁目五三　電話九六五　正木久吉　シャツ厚司足袋類　同　四丁目一〇二
化粧品　花隈町二二九　中山太一　靴　同　一丁目一八
酒　相生町二丁目五一　電話四七六　小野權四郎　音樂　同　四丁目八九
旅館　同　三丁目四六　電話二三七　加藤良　寫眞　同　二丁目七
醫療器藥種　同　二丁目八五　電話一、一三〇　中村修次　洋服煙草卸　機通二丁目
煙草　同　二丁目四五　吉川寅藏　下駄　同　四丁目
旅館　同　二丁目七七　電話四四〇　網谷龜吉　服　同　五丁目一四
扇子團扇　同　二丁目八一　柴田由次郎　砂糖　同　五丁目二六　電話一、〇三六
西洋雜貨　同　三丁目五六　電話六六七　岡部伊介　酒　同　四丁目三一
蒲鉾　同　二丁目五九　高原長吉　茶及菓子　多聞通三丁目五
煙草　同　三丁目　和田猪之吉　計　同　三丁目三二　電話三〇四
鏡諸洋酒　同　一丁目一七　長島茂雄　計　同　二丁目一六〇

武田駒吉　相生町三丁目二
增田秀吉　同　二丁目三
小野飯五郎　同　四丁目一三三
眞島榮吉　大阪松山出張店
中野忠一　富北商店
上德太郎　村
久保虎三郎　明文堂
内田幸三郎　明文堂
關根龜次　足袋　同　三丁目五
青木利介　西垣支店
前田健三　ヤマト音樂會
平野德松
山中定一
高橋政吉
川口啓太郎
金澤嘉兵衞
高橋孔稜
山本新吾
坪井多三郎　電話三〇四
吉田繁次郎

四洋雜貨　硝子器類　多聞通六丁目　電話一、〇八七　木村象吉　燐寸　淡町三丁目一　電話一〇九　本多義知
紙文具　同　二丁目三九　電話一、〇二五　長澤スエ　酒　同　一丁目一九五　電話八五二　牧野榮介
石鹼　同　六丁目六　柴仁三郎　紙　同　一丁目六〇〇　森本茂三郎
料理　同　二丁目七〇　矢頭音吉　疊表　同　一丁目六一二　市場庄助
石鹼　同　二丁目三四　吉井熊藏　計量　同　一丁目五九四　河合源次郎
洋傘毛織物　同　二丁目二　吉田重五郎　東神堂　提灯　同　一丁目　油谷秀松
書籍雜誌文具　同　二丁目一五七　高梨熊太郎　洋服　同　一丁目一七二　松山市松
金物　同　四丁目五二　橋本紋次郎　斎徳庵　洋酒　戸畑町四三　電話五四八　日下部兵藏
和洋菓子　同　二丁目一五八　池田爲夫　吳服　小物屋町四七五　電話一、一三五　大崎利右衞門　音羽花壇
洋服　同　四丁目五一　森本米吉　洋料理　大開通一丁目四〇　電話一一九　島崎茂三郎
道具　仲町三丁目八四　電話六〇四　西村德三郎　醤油　三川口町二丁目二九ノ五　尾崎千賀八
ペンキ塗職　同　一丁目二三　米田ヒサ　絲物　同　一二七　古賀淺七　つぼや
味噌漬物　同　四丁目一九　電話一、四一三　奥田由太郎　吳服　西宮内町六三　柴垣つな
吳服　同　一丁目三八　電話一、二九七　末廣登美　高亭花壇　下駄　同　七五　壺井商店
料理　眉原町五三ノ五　電話一、三三一　大塚和藏　吳服　同　八八　辰巳龜治
西洋料理店　同　三四ノ一　松田マサ　自由亭ホテル　吳服洋反物　同　九二　三岡佐太郎
西洋料理店　東川崎町二丁目六二　電話三〇一　後藤勝造　洋傘帽子　同　九六ノ二　奥山久藏
醤油　同　三丁目二〇九　鍋加甚七　足袋　江川町三三　電話一、四八一　岡彌介
雜人形　同　三〇　上田榮治郎